2020
第12号

国士舘史研究年報

楓原

学校法人国士舘
Kokushikan

2020
第12号

国士舘史研究年報

楓 原

学校法人 国士舘
Kokushikan

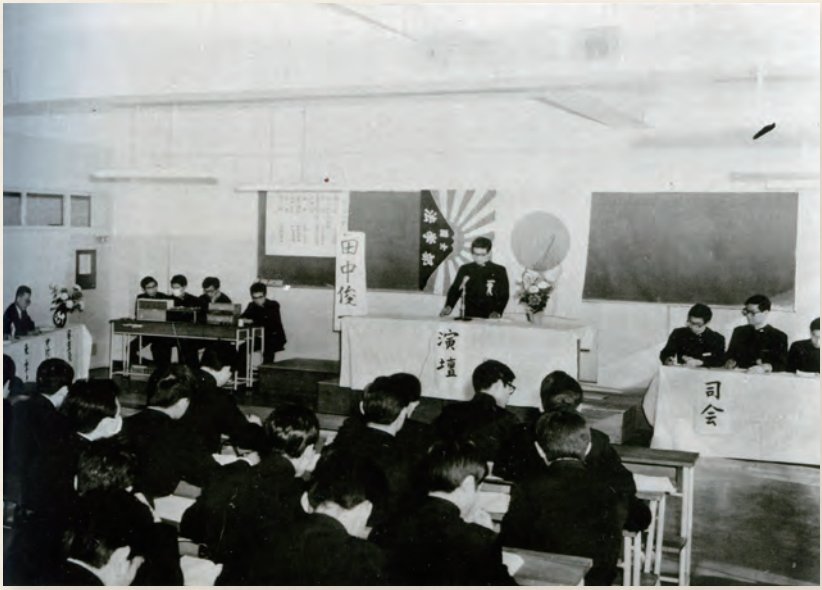
法学部・文学部の設置

国士舘創立50周年記念事業の一環として、1965(昭和40)年9月30日に法学部および文学部の設置認可申請を行った。ともに、翌1966年1月13日に認可を受け、同年4月に設置された。これにより国士舘は、大学6学部(体育・政経一部・政経二部・工・法・文)・大学院2研究科(政治学研究科・経済学研究科)・短期大学(国文科)を擁する総合大学となった。

世田谷キャンパス。大講堂後方の建物が法学部・文学部校舎として新設された10号館(1966年2月15日)

法学部

法学部には、法律学科（定員100人）を設置し、教授陣には、中村宗雄（政経学部より移籍）、東季彦、小泉英一などを招聘した。法学部では、教員と学生が一体となり、1966（昭和41）年12月に第1回法律討論会を開催、1967年11月には法律相談室と国家試験受験指導のための研修室を設置、1968年11月には模擬裁判の開廷など、様々な研究活動を実施している。2001（平成13）年には、現代ビジネス法学科を増設し、2学科となった。



第1回法律討論会（1966年12月2日）

第1回模擬裁判（1968年11月3日）

法学部中村宗雄教授の講義（1966年9月22日）

文学部

文学部には、教育学科（教育学専攻・倫理学専攻）、史学地理学科（国史学専攻・東洋史学専攻・地理学専攻）、文学科（漢学専攻・国語国文学専攻）の3学科7専攻を設置した。入学者の定員は漢学専攻が20人、その他の専攻は各30人の計２００人。国士舘短期大学卒業者は文学部３年次へ編入することができた。教授陣には、宇野哲人、阿部秀夫（政経学部より移籍）、村田正志などを招聘した。

１９６９（昭和44）年には、教育学科に初等教育専攻が加わり３学科８専攻となった。

初代学部代表教授となった文学科漢学専攻・宇野哲人教授の演習指導（1996年9月14日）

史学地理学科国史学専攻の考古学関連実習（1967年6月19日）

第1回初等教育専攻運動会（1973年5月27日）

10号館の建設

1945（昭和20）年の戦災に耐えた木造の旧剣道場・旧食堂・時習寮・正気寮を取り壊し、法学部・文学部の校舎として、新たに10号館（鉄筋コンクリート造、地下1階、地上5階）が1966年1月13日に竣工した。10号館には、1階に図書館と5階に大剣道場兼講堂を設けた。5階の剣道場は、入学式・卒業式等の会場としても長く利用していた。また、国士舘の建物として、初めてエレベーターを設置した。

法学部・文学部開学記念式典当日の10号館（1966年5月27日）

巻頭言　新型コロナウイルスと向き合って

国士舘史資料室室長　飯田　昭夫

二〇二〇（令和二）年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な流行により、これまでの生活は大きく変化し、教育のあり方も問われる一年となった。

四月七日の緊急事態宣言発出を受け、国士舘の各キャンパスは翌日より閉鎖となり、新学期を迎えるはずであった学生・生徒は、キャンパスに立ち入れなくなった。学生も教員も不慣れなオンラインでの遠隔授業が日常となり、学園祭などの行事も相次いで中止となる、国士舘はじまって以来の事態となっている。

国士舘史資料室においても、感染拡大防止のため、三月から柴田会舘四階展示室・閲覧室を閉室し、大講堂における創立記念展示も中止とした。また、本年度末に刊行すべく執筆をすすめていた『国士舘百年史　通史編』も、編纂のための会議が対面では開催できない状況が続き、編集作業のやり取りなどで、専門委員会の先生方のお手を煩わせることになった。

こうした状況にもかかわらず、大庭裕介氏から大正期の大民団と普通選挙についての論考を、上野初夫氏・関口正敏氏・松本吉英氏の三人の卒業生から回想記を寄せていただき、『楓原』第一二号を刊行することができた。また、本誌とともに『国士舘百年史　通史編』も無事刊行に至る予定である。ともに執筆等にご協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げる。

今後も関係各位の更なるご協力、ご支援をいただきながら、『国士舘百年史』史料編・通史編の成果を基礎として、これらを補遺する編纂事業を継続していく所存である。

二〇二一年三月吉日

国士舘史研究年報　二〇二〇　楓原　第12号

国士舘史研究年報

目次

巻頭言

新型コロナウイルスと向き合って　……　飯田　昭夫　9

論文と資料紹介

論文

大正期の大民団と普通選挙運動
―普選論と第一五回衆議院総選挙を中心に―　……　大庭　裕介　13

資料紹介

国士舘史関係資料の翻刻並びに補註　第一二巻　……　国士舘史資料室　33
国士舘大学法学部・文学部設置認可申請書
設置要項　36／学長並びに学部及び学科別担当教員予定表　58／

将来の計画を記載した書類　151

国士舘の思い出

工学部電気工学科の思い出　……　上野　初夫　155
工学部建築学科が与えてくれたもの　……　関口　正敏　165
国士舘大学の人間教育　……　松本　吉英　179

令和2年事業報告

……　国士舘史資料室　193

1　国士舘百年史編纂委員会並びに専門委員会

1　国士舘百年史編纂委員会
2　国士舘百年史編纂委員会　専門委員会

2　国士舘史資料室の活動

1　調査・収集
(1)　主たる資料調査　(2)　オーラル調査　(3)　主な寄贈資料
2　整理・保存
(1)　資料目録作成状況　(2)　資料電子化・保存処置

3　利用・公開
(1)　収蔵資料の公開（収蔵資料検索システム運用状況）　(2)　ホームページ
(3)　教育普及活動
4　室の構成
(1)　職員　(2)　施設の概要
5　活動日誌

関係規程

国士舘百年史編纂委員会要綱／国士舘史資料室規程

論文

大正期の大民団と普通選挙運動

―普選論と第一五回衆議院総選挙を中心に―

大庭　裕介

はじめに

第二次護憲運動を背景に成立した加藤高明内閣のもと、一九二五（大正一四）年三月に普通選挙法が成立し、一八九〇（明治二三）年の第一回衆院選以来、三五年にわたって続いた納税制限が撤廃され、二五歳以上の男子に参政権が付与されたことで、明治後期に始まった普選運動は結実する。第二次護憲運動の原動力ともなった普選への要求は、第一次世界大戦後の世界的なデモクラシーの高まりのなかで労働運動・小作争議・女性の権利運動などの社会的諸運動に波及し、権利獲得の中核的な主張となっていた。

普選を求める諸運動に先駆けて、本稿で取り上げる青年大民団の機関誌である『大民』は、一九一七年七月に論説「先づ人を作れ」[1]「選挙権拡張運動開始檄」[2]において早期より普選実施を訴えかけていた。しかし、佐々博雄氏が指摘したように、普選論を唱えたにもかかわらず、『大民』は大正デモクラシー研究のなかで言及されることはなかった。[3]研究史において『大民』が位置づけられなかった要因として考えられるのは、同雑誌の刊行元である大民団の性格に由来するためであろう。

一九一三年に福岡出身の早稲田大学の武道系学生を中心に組織された青年大民団（以後、本稿では「大民団」と記載）は、一九一七年に柴田徳次郎を中心に創設された私塾国士舘と一体の活動をしていた。[4]大民団は、戦前から戦後にかけて右派言論人が関与した国士舘の母体であったことから、国民の福祉増大を期するデモクラシー思想とは相容れない団体と考えられてきた。[5]そのため大

正デモクラシー研究の俎上に載せられることはなかった。しかし、大正期の右派言論人については、近年では岡佑哉氏の研究があり、内田良平の社会運動への傾斜が明らかとなっている。[6] 岡氏によれば、内田の普選運動は、全国民に参政権を与えることで国民と国家の結びつきを強めることを目的としていたとされる。

ただし、右派言論人といっても、普選運動においては一枚岩ではなく、内田や頭山満が男女の別なく参政権を与える「純正普選」を唱えたのに対し、大民団は男子普通選挙にこだわり、「我国体の基礎たる家族制度を破壊せざる範囲内に於て、最も多数の国民に選挙権を与[7]」えることとしていた。漸進的な普選論を早期から唱えていた大民団であったが、一九二〇年代には本格化を見せる諸集団による普選運動とは対照的に、『大民』誌上での普選論は次第に停滞していく。本稿は大民団による普選論がなぜ時流に迎合することなく終息に向かっていったのか、その消長の要因と歴史的意義を考察していきたい。[8]

一、大民団の普選論の位置づけ

大民団が普選論を唱え始めた一九一七（大正六）年は、前年から続く大戦景気に沸いており、町田祐一氏によると、この頃、東京帝国大学を始めとした諸大学の就職内定は増加傾向にあり、[9] 都市では華やかな大正文化が若者たちによって謳歌されていた。一方で地方では松本寛の経済調査によると、「農業所得の僅少[10]」さが目に付くと評されたように、都市と地方の格差は歴然としていた。

こうしたなか大民団は、結成の趣旨に「天下は滔々として虚偽軽薄に流れ、剛健質実の気風は全然跡を絶ち、殊に似非文明の思潮は益々険悪に、固有の民性は地を払はん[11]」と社会風俗を批判し、代わって「吾人青年が国家の柱石となり、勇往邁進せざる可からざる」と謳っていた。大民団を担うべき「青年像」は、華美な都市文化に流されない「奉公愛国の士[12]」であった。したがって、「国家の柱石」となるからには、国家の進路を決定するような政治的諸問題について論じ、決定の一端を担うことは当然の使命であり、参政権の拡大は主要な関心事となっていた。

『大民』では一九一七年六月一日の「選挙権拡張論」[13]で、政友会・憲政会・国民党の普選への姿勢を掲載したことを皮切りに、翌月には「先づ人を作れ」「選挙権拡張運動開始檄」を発表し、普選論を展開していった。

そもそも普選運動は、一八九七（明治三〇）年から中村太八郎や木下尚江たち長野の進歩党系言論人が結成した普通選挙期成同盟会によって進められていた運動であったが、一九〇〇年には社会主義者たちが同会に多数入会したことから反政府的な主張であると社会一般にはとらえられていた。

こうした普選運動につきまとうネガティブな印象を払拭したのは、吉野作造が一九一六年一月に『中央公論』誌上に発表した「憲政の本義を説いてその有終の美を済すの途を論ず」[14]であった。吉野の民本主義は、主権運用の目的が国民の福祉増進であることこそ、民本主義は従来の普選論と変わらなかったが、明治憲法が規定する天皇主権との齟齬解消において特筆すべき点があった。吉野は、日本の立憲制が西洋を模範に導入された以上、西洋社会の帰趨であるところの普通選挙もまた日本に導入すべきと説いた。吉野が普選論の反政府性を乗り越え、国民の福祉増進の道を拓いたことで、普選論は社会運動の高揚とともに日本社会に広まっていく。

そうしたなか唱えられた大民団の普選論は、普選実施を目指して「今日の急務は何よりも先きに自由意志のある人間を作ることである」[15]と説く。この時、自発的決定を認める「自由意志」を持つ国民が不可欠とされたのは、第一回衆院選以来の各党候補による選挙戦術の慣行を批判してのことであろう。

戦前の文筆家である吉野武は、当時の選挙慣行を次のように指摘している。[16]

> 一般人も買収等当り前の事で、大して悪いとは意識しない。殊に買収する金があり、とも角金を使ひ得る力がある人はエライ人だと盲信して大して悪口も云はぬ（中略）投票日前、十日乃至二週間頃偵察戦として散弾が放たれる。各地から情報を集めて参謀会議が開かれたり、御前会議が開かれる。其効果如何によつて第二弾、第三弾を放つ可き照準を決定する（中略）よく雪駄とか鍬とかいふ。雪駄の裏金は後についてるから後金で、鍬は前に金が付いてるか

ら前金だ。欲張つた奴は煙管と来る。前と後に金があるから、前金も呉れ、後金も呉といふのだ。

吉野武によると、選挙においては買収が横行しており、政策本位ではなく、買収によって候補者の当落が決定することがあった。また、選挙には地域利益の代弁者である地方名望家が出馬することが多く、有権者は買収や地域社会の利害関係から自由ではなかった。事実、一九一七年に寺内正毅内閣の下で実施された第一三回衆院選では、買収で検挙された選挙違反者が二万人を超えており、[17] 衆院選における票の買収は社会問題化していた。そのため、大民団は「自由意志」のある有権者を育てることで、初めて買収や地域利害から解放され、形式的な民意の反映から脱し、国民の意思を反映した真の普選になると考えたのであろう。[18]

そもそも大民団が普選論を唱えたのは、「大政の宿弊を一掃する」[19] ためであったとされ、この目的は一九一七年七月の評論「先づ人を作れ」「選挙権拡張運動開始檄」で繰り返し唱えられている。このなかに見られる「大政の宿弊」とは、「選挙権拡張運動開始檄」によると、次のようなものであった。

（制限選挙は―筆者註）其権能の制限、一方に便宜にして、他方に利する所のもの甚だ薄く、公例秩序を正すの力、頗る強勁にして、進歩発達に資するの力、太だ匱少なり。彼徒国民意識の不発達に準する適法、此に在りと做し、其標準を直接国税負担額に律し、尤も少数なる一局国民に、公選機能を附与したるもの、固より何の理拠も何の要義も之ある莫し。

この史料では、所得制限を設けた選挙制度が痛烈に批判され、制限選挙が一部国民への利益偏重ばかりか、社会と国民意識の発達の阻害につながっていると指摘している。ただし、大民団の普選論は、一部国民への利益偏重の是正を訴えるものであったが、当時の選挙においては、政友会が鉄道・道路・病院・学校などの公共施設建設を地域社会に提供しており、参政権を持たない国民も政友会の恩恵にあずかっていた。そのため、大民団の普選論は制限選挙の批判として広く賛意を集め得る有効な論調ではなかった。

そればかりか、デモクラシーの高揚したなかで、普選論者の論調は吉野作造の民本主義と共鳴し、普選実施による政治的平等化を経済的平等実現の要件と捉え、労働運動や小作争議などの社会運動にも援用されていった。政治的平等が経済的平等に結びつくという論調は大民団も同様であったが、普選論が広がりを見せる一九二〇年代に差し掛かると、運動の中核的担い手が言論人から学生や青年へと移行したことで大民団は普選論から撤退していく。一九二〇年代より学生や青年が組織した団体は憲政会院外団と結びつき、次第に普選に後ろ向きな政友会への批判を本格化させていった。そうしたなかで、学生たちによる普選運動は、後述するように政友会壮士や警察の挑発・扇動により暴動をともなう反政友会的な政治闘争の度合いを強めていた。

普選運動が過激化し、政友会との政治闘争の一環となるなかで、大民団は一九二〇年一月に戸主と独立した家計を営む男子に参政権を付与すべしとする勧告状を貴衆両院へ提出した[20]ことをもって普選に向けた動きを収束させていく。

二、学生・高等遊民への懸念

普選論の先駆の一つであった大民団が、次第に普選論の掲載を『大民』誌上に控えていった背景には、普選運動の一翼を担う学生や青年の行動や意識を問題視していたためと考えられる。一九二〇（大正九）年までに学生や青年によって大小様々な団体が組織されるが、彼らの中核的な主張は、議会中心主義的な普選の実現であり、青年・学生の世代間区別ない一個の運動群として機能していた[21]。

反藩閥や反政友会の主張を強く持つ院外青年運動は、憲政会とも一線を画しつつも[22]、非政友会系代議士や憲政会院外団などの支援のもと、屋外集会を頻繁に開催していた。普選運動の一環である集会において参加者は立憲的かつ模範的に振る舞うことが求められたが、普選運動に批判的な政友会壮士や警察が紛れ込み、集会を妨害すべく扇動していた[23]。そのため小規模ながらも暴動が頻発しており、鎮圧に駆けつけた警官や大正赤心団[24]との衝突が繰り返されていた。

一九二〇年五月一〇日の第一四回衆院選で政友会が大

勝すると、憲政会院外団は原敬（政友会）内閣の打倒を唱えて普選運動を展開するようになっていく。普選運動が倒閣運動を含みはじめたことで、非政友会系の諸団体と労働組合との距離が開き、翌年一月に友愛会系の労働組合は普選運動から撤退する。これにより普選運動は次第に政友会と非政友会の政争の色彩が強まっていく。

この時期、学生や青年について、大民団の構成員で国士舘の経営を柴田徳次郎とともにする花田大助は『大民』に次のように寄稿している。[25]

小学を出で、中学を出で、高等学校を出で、大学を卒業する迄、殆んど人生の半を費して教育されたる者は其情態遂に如何。一高等文官試験に及第する者は未だ其可なる者なり。落第して一商店に僅かに雇聘され戦々兢々として其地位を失はん事を之れ恐れ娼婦の如く、又喪家の犬の如く阿諛追従して止まざるは、気の毒と云ふも愚かなり、而かも夫すら嬴ち得ずして高等遊民として下宿の六畳にゴロ付く者、江河の石の夥に比すべき也。之等は未だ卒業の光栄を担ひし者、尚赦すべし或は堕落し或は怠慢し中途退学の止むなきに至り、遂に心餓ゑ気衰へ亦再び立つ能はざる者、殆んど学に志す者の半を占むと云ふに非ずや。

この評論は一九一七年五月に帝国教育会主催の第一一回全国教育連合大会の席上での岡田良平文相の演説に関する所感であるが、花田は、高学歴者のなかには心ならずも商店での労働に勤しまざるを得ない者、高等遊民となる者、中途退学者となる者が後を絶たないと指摘し、社会問題として懸念している。花田が問題視する高学歴者の進路は、当時においては深刻な社会問題であり、藤野裕子氏の指摘によると、明治後期から大正にかけて東京市の下層労働者のなかに、初等教育以上の学歴を有する者が一定数おり、学生や青年団体と合同で、政治闘争や社会運動ばかりか、都市暴動に加わるものもあらわれていた。[26]

学業に打ち込むべきはずの学生や学業を断念した高等遊民が生み出される要因について、花田は「教育の罪也」[27]とし、教師が饒舌に話すのみの形式主義的な教育に問題があると考えていた。

普選運動の一端を担っていた学生や青年たちは、大民団にとって「大政の宿弊」の社会を改善するための主な対象者であったが、彼らが柴田を支援してきた野田卯太郎が所属する政友会への批判を隠さなくなった以上、大民団は普選問題に関して、学生たちと手を組むわけにはいかなかったのである。

政情的社会活動を大民団が担ったのに対し、花田が改善の余地あると懸念する青年教育を担ったのが国士舘であった。一九二〇年代以降、国士舘は麻生太吉などの福岡財界人の支援を得て[28]中学校や商業学校を創設し、青年たちの改善と青年教育の拡充を企図していくのである。

三、国士舘の教育理念と大民団の普選論の限界

第一章で見てきたように、大民団は「自由意志」を持つ国民の育成を前提とした国政刷新を普通選挙によって目指した。普選導入を唱えはじめた翌一九一七（大正六）年、大民団は麻布笄町に私塾国士舘を設ける。平崎真右氏によれば、この当時の国士舘は文部省令下に属さない私塾のかたちをとっていたこともあり、文部省管轄の学校教育への批判を内包していたとされる[29]。平崎氏はさらに私塾国士舘の教育理念である「活学」は、文部省管轄の学校への批判と大正期の新たな教育思潮との結節点にある理念と捉えた。

ただし、佐々博雄氏が指摘したように、私塾国士舘の創設は大民団の活動の一環であり、両者は不可分な存在[30]であることから国士舘の教育理念は、大民団の活動に比重をおいて評価することが適当であろう。本章では、普選運動が高揚を見つつあった一九一七年に、大民団によって創設された私塾国士舘の教育理念を再考していきたい。

一九一七年一一月一日の『大民』に掲載された国士舘の設立趣旨たる「宣言　活学を講ず」には、次のように教育理念が記されている[31]。

吾人は精神文明と精神教育とを此際に唱道して国家の柱石たるべき真智識を養成せん事を期す。

文化僻陋に及ぶの今日、卒爾として此の如きの言を聞かば、或は吾人を以て迂となす者あらん、然れど、

今日の日本文化は猿真似の文化なり、悉く之れ西洋直訳の文化なり、其の表面を模倣せるものなり、其の弊害を識別する処なくして凡て唯だ舶来品を宗と仰ぐの文化なり。

国家の最高学府たる帝国大学は骨抜きせる奴隷的の官吏養成所なり、藩閥の走狗を養ふの地なり（中略）ノート式の講義は畢竟死学のみ、其説く処高遠深邃なるが如きも、遂に之れ形式範疇のみ、何等の信念なく、誠熱なき鸚鵡の口着似のみ、人を化するの力なし。（中略）かくして日本国には、着似有つて意志無し、意志なきの一等国は、日本を以て嚆矢となし、西人は日本を以て、一種特判（別カ）、他と比類なき骨董国と見なせり

この設立趣旨では、「真智識を養成」するような精神教育の有用が唱えられており、日本社会では無批判な知識の享受が蔓延したことで、西洋から意志を持たない国とみなされるとの警鐘を鳴らしている。特に帝国大学においては、無批判に西洋的知識を教えているため、「奴隷的の官吏養成所」「藩閥の走狗を養ふの地」に堕していると評するほどであった。帝国大学で「何等の信念」もない教育がまかり通っていると見る以上、批判の矛先は教育の享受者である帝大出身の官僚にも向けられていた。

第一章で指摘したように、大民団は一方で国政刷新を期して普選導入を唱えており、国士舘の設立趣旨と普選論を併せて考えると、政界・官界にまたがった国政への批判であり、有権者も官吏もともに、候補者や学問を取捨選択する能力に欠けていることを問題とし、「自由意思」の養成を広く国民に求めていたと指摘できよう。

ただし、こうした帝国大学批判や一部国民への利益偏重の是正は、西洋の思想・学問の隆盛や政友会における公共事業で非有権者まで利益にあずかれるなかでは、説得力がある論調ではなかった。むしろ、社会運動を担う諸勢力が普選実施に付託した労働者・小作人の権利法制の制定の主張などに比べると、[32] 漠然とした論調であることは否めない。いうなれば、大民団の論調とは社会問題の見通しや解決に乏しい観念的な主張に過ぎなかった。そのため、学生・青年団体との疎隔に加え、社会格差の是正を唱える労働組合の普選論にも立ち遅れていった。[33]

大民団が普選運動から距離をとるなか、憲政会と革新倶楽部が普選導入を公約として掲げる第一五回衆院選が一九二四年に始まる。次章では普選法成立のきっかけの一つでもある第一五回衆院選における柴田徳次郎の出馬を検討していく。

四、政友会と柴田徳次郎の衆院選出馬

既に指摘したように、貴衆両院に普通選挙実現の勧告状を一九二〇（大正九）年一月に提出したあたりから、政友会との闘争に発展した学生や高等遊民と距離を置くため、『大民』誌上では普選論が影を潜めるようになっていった。ただし、勧告状を提出したことで、大民団は公的には普選実施の立場をとっていたことを社会に周知させたといえよう。消極的ながらも普選を容認する大民団の立場は、普選に後ろ向きな、政友会との公的な場面での提携を困難としていった。そうした困難が表面化していったのが一九二四年の第一五回衆院選に出馬した柴田徳次郎の応援問題であった。

本章では柴田徳次郎の衆院選出馬をめぐる大民団と野田卯太郎をはじめとした政友会との関連を考えていきたい。国士舘の運営については、政友会の重鎮野田を介して麻生太吉や貝島太市ら福岡県財界人の支援を得たことはよく知られている。[34] なかでも野田は、学生時代から柴田を援助しており、[35] 柴田が就職した際にも金五〇円を恵与していた。[36]

また、一九二六年頃の財団法人国士舘の役員には、野田のほかに政友会所属の田中義一・松野鶴平・松岡洋右の名が見られ、[37] 国士舘と政友会は、野田を媒介とした太いパイプでつながっていたと考えられる。[38]

野田の人脈に支えられる国士舘はその母体である大民団とほぼ一体であるため、大民団が展開した普選運動に対する主張には、柴田をはじめとする国士舘関係者も関与している。しかし、野田の属する政友会は、結党以来、各地の地方名望家を支持基盤としていたことから、本来、普選導入には消極的であった。例えば、大民団が貴衆両院に普選実施の勧告状を提出した一九二〇年、政友会総裁であった原敬は衆議院で次のような演説をしている。[39]

世界の変遷を云々致して選挙法の改正を論ずるので

ありままが、（中略）欧州に於ては御承知の如く五箇年間真に国家の運命を賭して戦ったのである。男女老幼苟も国民たるものは此の戦争に熱血を濯いだのである。故に戦に勝利を得た所の国も失敗せし国も、其の国情に於て物質的にも精神的にも非常なる変化を起したと云ふ事は、何人も認むる次第であります。然るに日本は何うであったかと申すに、決して日本は左様な状態にあったのではないのである。（中略）欧州に於ける事柄を直に日本に適用して、日本も亦斯くの如き変化を致して居ると認むるならば、大なる誤解である。

この演説のなかで原は、第一次大戦を経験した欧州諸国では、全国民が戦争に動員されたことで急激な社会変化が生じており、普通選挙を導入することは当然であるのに対し、日本ではそのような社会変化は生じておらず、欧州諸国のように普選を断行するのは尚早であると説いた。

一九二一年一一月四日、東京駅で原が暗殺され、後を継いだ高橋是清（政友会）内閣が短命のうちに終わると、政友会の内紛もあり、非政党員である加藤友三郎（海軍大将）・山本権兵衛（陸軍大将）・清浦奎吾（枢密院議長）が相次いで組閣する中間内閣の時代を迎える。普選導入は、第二次山本権兵衛内閣で検討されたものの、閣僚のなかに反対する者が相次いだため、普選は実現することなく、山本内閣も一九二三年一二月に起きた皇太子狙撃未遂事件（虎ノ門事件）の責任を取って同月二九日に総辞職する。

普選導入が現実味を帯びていったのは、一九二四年五月に公示された第一五回衆院選においてであった。この選挙に柴田は東京府第二区から無所属候補として出馬する。

第一五回衆院選は政友会・憲政会・革新倶楽部の護憲三派による倒閣運動（第二次護憲運動）が風を起こしたことで知られる。一九二四年元日に清浦のもとに組閣の大命が下るが、この時に清浦を首相に推薦した元老西園寺公望の念頭にあったのは、五月に予定されていた衆院選を公平に行い得る人材という条件であった。

清浦への大命降下と研究会（貴族院会派）に偏った閣僚人事を受け、新聞各紙が反対報道をはじめたことで、

護憲三派は清浦倒閣の旗色を鮮明にしていった。護憲運動が高まるにつれ、憲政会・革新倶楽部こそ普通選挙の実現を公約したものの、政友会は普選導入の判断は個々の候補者に委ねるとしていた。そもそも政友会は普選導入には消極的立場をとっており、[40]この時に護憲三派に与した目的は護憲運動の機運に乗じての政権奪取であった。

政友会領袖の一人であった横田千之助は、「立憲政治の純理よりすれば、民意の多数を代表する下院の多数党が内閣を組織し、政策の行詰りに依つて之が辞職する場合に於ては、第二党を推薦して辞すべきである」[41]とし、選挙後に「憲政の常道」が政界慣例になるとにらんでいた。[42]一九二二年の高橋是清内閣の総辞職以来、二年に亘って政権の素通りを許してきた政友会にとって政権奪取は悲願であり、衆院第一党の座は組閣のための必要条件であった。

こうした認識は政友会全体に広がっており、幹部の小泉策太郎は「連合軍（護憲三派―筆者註）の勝つことにも疑ひなしとして、政友会が三派の先頭に立つ、即ち憲政会に優越して百五六十の比較多数になる、もしこの心期が外れたら、選挙後直ちに革新倶楽部と合併して第一党となることは、必ずしも権謀に失しない」[43]として、第一党となるためには革新倶楽部の吸収すら辞さない構えであった。

普選実現を目指して護憲運動が日増しに盛り上がるなか、柴田は野田と二月と三月の二か月間で計一一回にも及ぶ面談を繰り返し、[44]次第に出馬の意思を固めていった。

柴田が立候補した東京府第二区は、麻布・赤坂にまたがっており、現職の林田亀太郎（革新倶楽部）のほか、村松恒一郎（憲政会）、藤原俊雄（実業同志会）、田村彰一（政友本党）が出馬する。この時、政友会が独自候補を擁立しなかった背景には、柴田と野田の関係があるものと推察される。『野田大塊伝』には、柴田の選挙活動を注視していたとの逸話が記されている。[45]

政権への返り咲きを期す政友会にとって所属議員に限らず、自党に近い立場の候補者を一人でも当選させ、選挙後の入党・会派入りなどの多数派工作を進めるのは、明白であった。選挙後の政権奪取を見据えて、政友会は野田が長年援助してきた柴田が無所属で出馬を予定する東京府第二区に、あえて候補者を立てなかったものと思

われる。

出馬にあたって柴田は政友会の公認をとらない中立候補として立候補するが[46]、政友会から出馬しなかったことにこそ、大民団と政友会の距離感がうかがえる。そもそも両者は、当初、普通選挙をめぐっては正反対の立場をとっていた。したがって普選実施をかつて大民団が公言していた以上、普選反対を唱えていた政友会の候補として出馬することが憚られるのは当然の成り行きであった。大正以降、都市部の選挙区では候補者の誠実さやスマートさが求められるようになっており[47]、柴田が普選導入をかつて唱えながらも政友会から公認を得ることは、柴田と政友会両者の政治信条を問われる恐れがあった。

また、この前後の大民団の主張を見ると、一九二二年四月の「大民社宣言」以降、「朝野の政治家、無能無信念[48]」として既存の政治家への批判を強めていた。さらに第一五回衆院選前年の一九二三年五月一日には、貴衆両院議員に宛てて「各党に於て出来る限り自由採決の議案を多くして、党議の束縛を減少し、各党派員の資格を向上し、党派を異にする党員間の情誼交渉を円滑にし、少数党の多数党に対する憎悪の念を緩和する事[49]」などを申し入れ、所属議員に対する各党の方針の拘束力を弱めることを提案している[50]。

このように、『大民』に掲載された一連の記事からも柴田の後援会ともいうべき、大民団は政党政治の批判者となっていたことが指摘できる。出馬表明した三月二六日から五月一〇日の投票日までの約一ヶ月にわたって、柴田は大民団の全面的な支援を受けており[51]、大民団の方針と齟齬を生じるようなことはできなかったことも、柴田が中立候補として出馬する背景をなしていたと思われる。

五、選挙結果と普選の実現

一九二四（大正一三）年五月一〇日、第一五回衆院選の投開票が行われた。この選挙は、関東大震災被災の影響で選挙人名簿作成が遅れ、公示から三か月経ての投開票となった。

柴田の出馬表明が三月二六日であるが、表明までの間、東京府第二区では現職候補の林田亀太郎の立候補こそ決定的であったものの、有力な対抗馬の擁立が問題となっ

ていた。林田が当選回数わずか一回であったことに加え、所属政党の革新倶楽部も護憲三派の一角を占めていたとはいえ、憲政会（一〇三議席）・政友会（一二九議席）・政友本党（一四九議席）には遠く及ばない四三議席であり、国政での活躍を大きく期待できなかった。

そのうえ、林田に対しては地元区会議員の不満が高まっており、反発する区会議員が対抗馬の擁立を目指し[52]、有馬頼寧（有馬伯爵家次期当主）に接触していた。

有馬は夜間学校設立や被差別部落解放などの社会運動に携わる篤志家であったが[53]、佐佐木行忠や徳川義親たち同年代の華族が貴族院議員となるなかで、四〇歳を目前にして未だに家督を相続していない「部屋住み」の境遇であった。そのため、有馬の不遇を案ずる松浦寛威（陸軍中将）から「今後も此儘に致し置くならは、神経衰弱にてもなるならん。故に衆議院議員にてもなる方か宜しからん」[54]として衆院選出馬を打診されていた。

もともと有馬も「貴族院内閣などいふ時代錯誤のものが現れやうとする。貴族院の人達の無思慮無謀が華族の滅亡を始め延いては皇室の将来をあやうくすることを慨く」[55]との所感を抱いており、反清浦内閣という点においては護憲三派に近い立場にあった。

当初、有馬は区会議員の打診には「久留米の方か未決に付、赤坂の方には返事を為し難き旨を答へ置かれたり」[56]として旧藩領である福岡県久留米市からの出馬を念頭において保留していたものの、三月二三日にいずれの選挙区からも立候補を断念するとの知らせが野田のもとに寄せられる[57]。有馬が出馬を取りやめたことで、対抗馬空白となった東京府第二区には、膝下の麻布区会議員を務めた村松恒一郎（憲政会）が出馬表明し、次いで柴田も立候補を表明する

選挙戦に臨むにあたり、柴田は森俊蔵ら大民団の支援を取り付け[58]、次いで渋沢栄一にも支援を仰いでいる[59]。この時、渋沢に支援を仰いだのは、選挙費用の高騰が背景にあるためと思われる。当時の選挙では政見や推薦状を有権者一人一人に郵送していた。そのため、大正期になると実業家の候補者への金銭的支援は常態化していた。現職の林田や元職の村松に比べ、国政での実績がなかった柴田ではあったが、選挙戦は途中、村松の優位が伝えられたものの、林田が当選し、柴田は次点で落選する。

選挙期間中、柴田がどのような選挙戦を展開したかは

定かでないが、少なくとも野田卯太郎の応援演説はなかったと推定できる。この時、野田は関東大震災の頃より体調を崩していたことに加え[60]、福岡選挙区の調整に多忙を極めていた。

三月三一日、立候補を見送るはずであった有馬が、突如として野田の地盤である福岡一二区（浮羽・三井）からの出馬を訴えた[61]ことで野田と有馬の間で選挙区調整が喫緊の課題となる。かねてより福岡での有馬の立候補を画策していた野田は、有馬に地盤を禅譲し、自身は同県七区（大牟田）へと転出した[62]。転出に際して野田は、浮羽と三井の支援者に有馬支援の依頼状を送ったほか[63]、立候補した大牟田には前職の鵜沢聡明（政友会千葉選挙区）を派遣しての選挙戦を展開していた。野田は一度も選挙区入りすることなく、次点に三百票近い差をつけて勝利するが、この間の病状は芳しくなかったようである[64]。

野田のもとへは長男の俊作と姪婿の山崎猛の当選の吉報が届いたものの[65]、ふたを開けてみれば、政友会の目論見は外れ、第一党は憲政会になった。この選挙は憲政会の一人勝ちといえるもので、政友会（一〇一議席）と革新倶楽部（二九議席）を合算しても憲政会の一五四議席には遠く及ばなかった[66]。選挙の結果を受けた元老西園寺公望は憲政会総裁の加藤高明を後継首相に推薦、組閣の大命は加藤に下った。政友会の政権奪取の望みは外れたものの、加藤が選挙戦をともに戦った政友会・革新倶楽部に入閣を要請し、六月一一日、護憲三派内閣とも呼ばれる第一次加藤内閣が成立する。

憲政会の第一党獲得を前に、政友会は普選を容認するほかなく、六月二四日の党大会で衆院選における納税資格撤廃が承認される。以後、六月三〇日に三派普選調査会が設けられ、順調な審議を経て、一九二五年五月五日、公私の扶助を受ける貧困者・学生を除く二五歳以上の男子に参政権を付与する改正衆議院議員選挙法（普選法）が成立する。普選法では戸主と独自に家計を営む男子も参政権付与の対象となったことで、大民団が貴衆両院に提出した要望書の参政条件はほぼ満たされたため、普選論をめぐる大民団と政友会との疎隔は解消に向かっていく。

ただし、男子普通選挙が実現したからといって、柴田たちにとって有権者の拡大は手放しに喜べるものではなかった。むしろ、納税制限の撤廃は、格差解消を唱える

ことで貧困層からの支持を取り付けやすい社会主義者の政界進出も予想できた。実際に一九二六年に結成された労働農民党は、第一六回衆院選において全国で二八万票を獲得し、二名の当選者を出すこととなる。柴田は、この時期には共産主義ばかりかその前段階である社会主義を批判していたこともあって[67]、普選後に共産主義者を一斉摘発した政友会との距離を縮めていったのである[68]。

おわりに

本稿では第二次護憲運動に先駆けて展開された大民団の普選論の消長を検討してきた。大民団の一九一七（大正六）年の普選論は、不正が横行する当時の選挙事情を背景にしたものであり、地域利害と一部国民への利益偏重に縛られる投票行動を問題としていた。こうした問題意識は国政の在り方を問う大局的な指摘である反面、非有権者も恩恵を享受している地域利益誘導型政治の本質にまでは行き届く主張ではなかった。そうした意味では、選挙制度批判の論調として広く支持されうるような活動ではなかった。

さらに一九二〇年になり、普選運動は学生・青年による反政友会的な政治闘争と労働組合による労働運動の性格を帯びるようになると、大民団は普選論から撤退していく。大民団が普選論から撤退した背景には、学生や青年たちの反政友会的な政治闘争への疎隔があったものと思われる。高等遊民の増加や高学歴者の堕落を憂慮する立場上、大民団は青年らによる闘争的な普選運動とは一線を画す必要があった。また、柴田にとって恩顧ある野田卯太郎が支援する大正赤心団が、反政友会的な学生・青年団体と衝突している以上、彼らと論調を同じくする普選論をこれ以上展開するわけにはいかないといった事情があったのかも知れない。

その後、大民団は一九二二年に大民倶楽部を組織し、講演会や茶話会の開催や社会運動の主催を中心としていった。また、一九一七年には大民団は私塾国士舘を設けて「自由意志」のある国民の育成を期した教育事業にも乗り出していたが、この時期においても大民団と国士舘のメンバーには両者に属する者が多かった。佐々博雄氏が指摘したように、大民団と国士舘はそれぞれ社会活動と教育活動の役割を担っていく[69]。

普選運動から早期に撤退した大民団であったが、かつて『大民』誌上で普選論を唱えていたことで、第一五回衆院選への柴田の出馬にも一定の影響が生じていったものと推測できる。柴田は東京府第二区から立候補するが、この時、普選論を表立って唱えなくなっていたとはいえ、後援を受ける大民団の意向に加え、普選に消極的な政友会の公認を受けることが憚られたのか、中立候補として出馬する。結果的に柴田は落選したものの、翌年に普選法が成立したことで普選をめぐる大民団と政友会の疎隔は氷解に向かっていった。

普選法の成立により納税制限が撤廃されたことで、大民団の懸念は社会主義者・共産主義者たちの国政進出へと移っていく。結果的に普選法が大民団にもたらしたのは、国政刷新の実現ではなく、反社会主義・反共産主義を共有することでの政友会との提携の強化に過ぎなかった。

本稿において大民団による普選論を検討してきたなかで、今後の課題となるのは二点である。一つは猶存社を始めとした同時期の右派団体との比較を通して大民団の特質を検討することにある。さらに今回言及できなかった一九二〇年代後半の日本社会で広まる政党不信のなかで、大民団の国政刷新が再びどのようにして再燃していくのかという点も見逃せない課題である。この二つを通して大民団の活動を日本近代史により明確に位置づけていくことを今後の展望としたい。

註

(1)「先づ人を作れ」(『国士舘百年史　史料編上』学校法人国士舘、二〇一五年、一九～二〇頁)。

(2)「選挙権拡張運動開始檄」(前掲『国士舘百年史　史料編上』八六四～八六五頁)。

(3)佐々博雄「大民団と国士舘」(『国士舘史研究年報　楓原』第二号、学校法人国士舘、二〇一一年)。

(4)前掲佐々「大民団と国士舘」。

(5)松尾尊兊『普通選挙制度成立史の研究』(岩波書店、一九八九年)三二三頁。

(6)岡佑哉「内田良平『純正普選』運動と大日本生産党結成」(大阪歴史学会編『ヒストリア』第二四二号、二〇一四年)。

(7)「大民倶楽部例会記事」(前掲『国士舘百年史　史料編上』八六九～八七〇頁)。

(8)近年の大学史研究の潮流の一つに、浅沼薫奈『近代日本大学史再考』(学文社、二〇一九年)など比較大学史的研究があるが、こうした研究は総花的傾向になることに加え、諸大学の理念を再提示したに

すぎない。そもそも、大学そのものが知識人の育成を通して社会発展を促すものであることを考えると、日本近代史に諸大学を位置付けることの方が有用で、意義があることはいうまでもない。

(9)町田祐一『近代日本の就職難物語』(吉川弘文館、二〇一六年)九一～一〇〇頁。

(10)松本寛『小作問題の真相：行脚調査』(米本書店、一九二三年)一七八頁。

(11)「青年大民団主旨」(前掲『国士舘百年史　史料編上』四頁)。

(12)前掲「青年大民団主旨」。

(13)「選挙権拡張論」(前掲『国士舘百年史　史料編上』八六一～八六四頁)。この記事では、国民党総理犬養毅、内務大臣後藤新平、板垣退助、政友会幹事小坂順造、憲政会総務安達謙蔵、早稲田大学教授安部磯雄の見解が掲載されている。

(14)吉野作造「憲政の本義を説いてその有終の美を済すの途を論ず」(『中央公論』一九一六年一月号)。

(15)前掲「先づ人を作れ」。

(16)吉野武『選挙の常識と選挙運動のうらおもて』(大阪回宏社、一九三一年)三〇〇～三〇二頁。

(17)季武嘉也『選挙違反の歴史』(吉川弘文館、二〇〇七年)四〇頁。

(18)前掲「先づ人を作れ」には次のようにある。

人有つて始めて、法が活用される、制度如何に完備した処で、確りした人間が無くしは(て脱カ)実績が挙がらない。今日一部には普通選挙が行はるれば、日本の政弊が一掃されて一般人民の権利が伸長(悪)され、直ちに黄金時代でも来る様な議論もあるが、吾輩を以てすれば、日本人が自分の意思を以て其の選挙権を行使する時代が来ない以上、従来の政弊が到底除かれ得ないものと思ふ、

(19)前掲「選挙権拡張運動開始檄」。

(20)「大民倶楽部の貴衆両院議員に発したる勧告状」(前掲『国士舘百年史　史料編上』八七一頁)。

(21)伊東久智『「院外青年」運動の研究』(晃洋書房、二〇一九年)第五章部分。

(22)有馬学『「国際化」の中の帝国日本』(中央公論新社、一九九九年)五七頁。

(23)藤野裕子『都市と暴動の民衆史』(有志舎、二〇一五年)一一〇～一一二頁。

(24)大正赤心団は一九一八年に森健二(土木請負業)を発起人として結成された皇室中心主義を標榜する団体で、柴田徳次郎へも支援を行っていた野田卯太郎(政友会)の援助を得ていた。

(25)「教育家の猛省を促す」(前掲『国士舘百年史　史料編上』一二～一五頁)

(26)前掲藤野『都市と暴動の民衆史』第六章部分。

(27)前掲「教育家の猛省を促す」

(28)「麻生太吉宛顧問頭山・野田・田尻連名書簡」(前掲『国士舘百年史　史料編上』一六六頁)。「麻生太吉宛柴田徳次郎書簡」(前同一六九頁)。なお、九州の名士との関係については、原口大輔「創生期国士舘の群像」(『国士舘史研究年報　楓原』第一〇号、二〇一九年)に詳しい。

(29)平崎真右「国士舘の設立とその時代」(前掲『国士舘史研究年報

楓原』第八号、二〇一七年）。平崎氏によると、文部省管轄の学校への批判と大正期の新たな教育思潮との結節点に国士舘が掲げた活学教育が存在するとされる。

(30)前掲佐々「大民団と国士舘」。

(31)「活学を講ず」（前掲『国士舘百年史　史料編上』八三～八五頁）。

(32)平井一臣『「地域ファシズム」の歴史像』（法律文化社、二〇〇〇年）四一～四二頁。

(33)大民団も労働問題の重要性は認識しており、労働問題を生活修養の問題と捉え、一九二一年に開催された労務者講習会を国士舘で受け入れている。この講習会は労働者を道場に集めて集団生活を送らせ、規律ある人格の修養を求めるものであった。格差問題を修養の問題にすり替えようとしていたことからも、大民団は労働運動とは一線を画して労働問題をとらえていたと考えられる。

(34)前掲原口「創生期国士舘の群像」。

(35)柴田徳次郎「野辺の草」（前掲『国士舘百年史　史料編上』六九～七〇頁）によると、明治末に東京で苦学生だった柴田が牛乳配達で学費を稼いでいたおり、野田卯太郎の邸宅に牛乳配達の勧誘に行ったことで野田に直接面会し、その知遇を得たとされる。ただし、熊本好宏氏によれば、この時に柴田と面会したのは卯太郎ではなく、息子の俊作であった（熊本好宏「野田卯太郎」〈前掲『国士舘史研究年報　楓原』第二号、二〇一一年〉）。

(36)「日記」一九一五年六月二八日条（九州歴史資料館所蔵「野田大塊文書」、前掲『国士舘百年史　史料編上』四三頁）。

(37)「財団法人国士舘役員」（前掲『国士舘百年史　史料編上』三〇七～三〇八頁）。

(38)国士舘に対する野田の支援については、前掲熊本「野田卯太郎」参照。

(39)『政友』一九二〇年三月一五日号。

(40)第一五回衆院選に臨むにあたっての政友会の政綱政策は、通信交通機関の整備、治水事業の完成、教育の普及改善、農村振興、税制整理、行政整理であった（『政友』一九二四年四月一五日）。

(41)石田秀人『快男児横田千之助』（新機運社、一九三〇年）二二八～二二九頁。

(42)この時、横田が「憲政の常道」論を取り入れた要因は、第一党を争うことになろう、憲政会が唱えていたことに加え、政友会から分かれた政友本党とは政策上の差異がなかったために取り入れたことが指摘されている（小山俊樹『憲政常道と政党政治』〈思文閣出版、二〇一二年〉一五六頁）。

(43)小泉策太郎『懐往時談』（中央公論社、一九三五年）一二七～一二九頁。

(44)前掲「日記」によると、二月四日・九日・二〇日・二五日・二八日、三月一二日・一三日・一五日・一九日・二一日・二三日には「柴田」と表記され、野田が柴田と面会していたことを確認できるが詳細な内容は不明である。

(45)坂口二郎『野田大塊伝』（野田大塊伝刊行会、一九二九年）七六九～七七〇頁。

(46)「激戦状態に入った東京の総選挙戦」（『東京朝日新聞』夕刊、一九二四年五月五日、前掲『国士舘百年史　史料編上』九〇六頁）。

(47)前掲季武『選挙違反の歴史』一二二頁。

(48)「大民社宣言」(前掲『国士舘百年史　史料編上』八七七～八七八頁)。

(49)「大民倶楽部記事」(前掲『国士舘百年史　史料編上』八九二～八九四頁)。

(50)政友会・民政党ともに党運営においては、総裁や幹部の権限が強く、一般代議士は党議に拘束されざるを得なかった。こうした運営に対して一般代議士から不満が出ることもあったが、戦前の政界において一般代議士の離党が少なかったのは、幹部の説得で一般代議士が了承することが常であったことに加え、離党した場合は公認料と地盤を失うことになった(季武嘉也・武田知己『日本政党史』〈吉川弘文館、二〇一一年〉一三六～一三七頁)。とりわけ、選挙費用が高騰しはじめた大正期においては、選挙費用に転用できる公認料は魅力的であった。

(51)「森俊蔵懐中日記」一九二四年三月～五月(前掲『国士舘百年史　史料編上』九〇七～九〇八頁)。

(52)有馬伯爵家の家政相談人の一人であった倉富勇三郎の一九二四年三月二〇日の日記には次のように記載されている(倉富勇三郎日記研究会編『倉富勇三郎日記第三巻』〈国書刊行会、二〇一五年〉八六九頁)。

松浦(寛威―筆者註)、先日頼寧より、赤坂の区会議員両三人、頼寧を訪ひ、赤坂区よりは林田亀太郎か候補者と為り居るも、同人は赤坂区に不深切(ふかし)にて、大切なる時期に旅行杯する様のことにて、同人に対しては不満多し。赤坂区より候補者と為らるることを望む旨を述へ、頼寧氏は目下久留米の方か未決に付、赤坂の方には返事を為し難き旨を答へ置かれたりとのことなり。

(53)この時期の有馬頼寧については、後藤致人「大正期華族の危機意識と会合」(東北史学会編『歴史』第八八号、一九九七年)を参照。

(54)前掲『倉富勇三郎日記第三巻』一九二四年三月二日条、八二九頁。

(55)伊藤隆編『有馬頼寧日記第二巻』一九二四年一月四日条(山川出版社、一九九九年)三三二頁。

(56)前掲『倉富勇三郎日記第三巻』一九二四年三月二〇日条、八六九頁。

(57)倉富によれば、一九二四年三月二三日に野田が来訪し、「有馬頼寧氏が議員候補者と為る模様に付、其ことに付相談せんと思ひたれとも、頼寧氏は之を断念したる趣」(前掲『倉富勇三郎日記第三巻』八七三頁)と談話したことが綴られている。

(58)前掲「森俊蔵懐中日記」一九二四年三月二六日条(前掲『国士舘百年史　史料編上』九〇七頁)。

(59)「渋沢栄一宛国士舘書簡」(前掲『国士舘百年史　史料編上』九〇六頁)。

(60)前掲坂口『野田大塊伝』七六四頁。

(61)有馬頼寧の立候補については、野島義敬「『革新華族』の政治進出」(日本歴史学会編『日本歴史』第七四九号、二〇一〇年)を参照。

(62)この時、有馬の立候補に反発した地元政友会が、浮羽郡出身の前名古屋市長佐藤孝三郎を擁立した。そうしたなかで野田は「有馬頼寧氏か福岡県三井郡、浮羽郡より衆議院議員候補者と為る趣に付、自分(野田)二郡を纏め、頼寧氏をして当選せしめんと欲す」(前掲『倉富勇三郎日記第三巻』一九二四年四月二日条、八九六頁)として有馬の支援を倉富に約束していた。

(63)前掲坂口『野田大塊伝』七六五～七六七頁。

(64)前掲坂口『野田大塊伝』によれば、「遮二無二、自身（野田―筆者註）に西下して呉れと求むるやうでは、選挙の情勢が面白くないと感知した。然し彼（野田―筆者註）は容易に病床を離るゝことができなかった」（七六九頁）とあり、病状が芳しくなかったものと推察できる。

(65)前掲坂口『野田大塊伝』七七〇頁。

(66)憲政会大勝の要因は、普選を公約として掲げたことで、地方名望家を中心とした秩序に不満をもつ中間層以下の民衆の支持を獲得したことと、政友会と政友本党の分裂の機に乗じることができたためであった（伊藤之雄『大正デモクラシーと政党政治』〈山川出版社、一九八七年〉一六三頁）。

(67)国士舘が一九二六年六月に長老懇談会で配布した「大学趣旨」には次のようにある（前掲『国士舘百年史　史料編上』二七七～二七九頁）。

一、都会の大学の風は全国の学校の風潮を左右する、然るに現在の大学の風は社会主義赤化運動を讃美せねば時代遅れの如き風をなせり、而して之を匡止するにサーベルとステッキにては不可なり、模範的学府たる国士舘的智見の力に依るの外なし、而して之を現在の国士舘を以て匡止するは松陰塾にて藩籍奉還（版）を主張する如く効能遅々たり。

また、柴田徳次郎も国士舘維持委員会の席上で「（社会主義に対抗するには―筆者註）国粋会のステッキが良い、警察のサーベルが良い、否、普通選挙が万能薬と云ひますが、私等はそれでは駄目」（「維持委員会経過概要」、前掲『国士舘百年史　史料編上』二八三～二九八頁）と話しており、普選の導入で社会主義が停滞することはないとの見通しであった。

(68)三・一五事件の際の首相田中義一は、一九二四年に国士舘で自由科目を講義したほか、同年には財団法人国士舘顧問となっている。（「授業科目」〈前掲『国士舘百年史　史料編上』一八二～一八三頁〉および「財団法人国士舘役員」〈同二五二～二五三頁〉）。

(69)前掲佐々「大民団と国士舘」。

国士舘史関係資料の翻刻並びに補註　第一二巻

凡例

1　ここには、国士舘史編纂のために調査収集した資料のうちから、翻刻・校訂と補註が終了し、重要度が高いものを順次紹介する。

2　資料名の下に（　）で原所蔵を略記した。

3　誤記は編者が〔　〕で訂正し、あるいは（ママ）を傍注した。また、表紙は該当部分に「　」を付して傍らに（表紙）、後筆は該当文字部分に「　」を付して傍らに（後筆）と表記した。

4　原資料の一部を省略した場合には、該当部分に〔前略〕・〔中略〕・〔後略〕等を明記した。

5　原則として原資料の体裁を保つよう努めたが、表組については、利用の便に配慮して一部を修正した。

6　資料の翻刻・校訂は、国士舘史資料室収蔵の原本によった。

昭和四〇年九月　国士舘大学法学部文学部設置認可申請書〔抄〕（国士舘史資料室所蔵）

（表紙）

「昭和四十年九月

国士舘大学 法学部
文学部 設置認可申請書

学校法人　国　士　舘」

国士舘大学　法学部（法律学科）
文学部（教育学科、教育学専攻・倫理学専攻
史学地理学科、国史学専攻・東洋史学専攻・地理学専攻
文学科、漢学専攻・国語国文学専攻）設置認可申請書

このたび、国士舘大学法学部（法律学科）及び文学部（教育学科、教育学専攻・倫理学専攻、史学地理学科、国史学専攻・東洋史学専攻・地理学専攻、文学科、漢学専攻・国語国文学専攻）を設置したいので、学校教育法第四条の規定により認可下さるよう別紙書類を添えて申請します。

昭和四十年九月三十日

学校法人　国士舘
理事長　柴田徳次郎（徳）印

文部大臣　中村梅吉殿

書類目次

一、設置要項　……一の一～四〇
二、学　則　……二の一～一四〇
三、学部及び学科別学科目又は講座に関する書類　……三の一～三二
四、履修方法及び卒業の要件に関する書類　……四の一～三八
五、職員組織に関する書類　……五の一～二、〇八五
六、校地等に関する書類（図面添付）……六の一～六
七、校舎等の建物に関する書類（図面添付）……七の一～三四
八、設備概要に関する書類　……八の一～二〇
九、設置者に関する書類　……九の一～一四四
十、経費及び維持方法を記載した書類　……十の一～二二四
十一、学校法人が現に設置している学校の現況について　……十一の一～六六
十二、将来の計画を記載した書類　……十二の一～二

一、設置要項

設置要項

事項	記入欄
設置者	学校法人国士舘
目的または事由	本大学は創立以来四十八年、日本精神にもとづき、真理の探究と学理の応用につとめ、深く専門の学芸を教授し、その普及をはかるとともに、心身ともに健全な人材の育成に努力を傾注してきた。 今回、本大学は社会・人文科学の分野において深遠な学術を教授研究し、豊かな教養、高潔な人格を備えた有為な人材の育成を目的として、法学部・文学部の設置を申請する。当大学は既設の大学院政治学研究科・経済学研究科、政経学部一部、政経学部二部、工学部、体育学部と相俟って、名実ともに総合大学としての体制をととのえ、文化の創造発展、国家社会の福祉に一層貢献することを期するものである。

事項	記入欄						備考
名称	国士舘大学						
位置	東京都世田谷区世田谷一丁目一〇〇六番地						
学部・学科等の名称ならびに修業年限、学士号等および学生定員	学部・学科等の名称	修業年限	学士号等	入学定員	収容定員		
新設	法学部	四年	文学士	一〇〇	四〇〇		一、二年次用校舎は町田市広袴地内（九号館） 三、四年次用校舎は世田谷区世田谷一丁目地内（一〇号館）
	文学部						
	法律学科	四年	文学士	三〇	一二〇		
	教育学科						
	教育学専攻	四年	文学士	三〇	一二〇		
	倫理学専攻						
	史学地理学科						
	国史学専攻	四年	文学士	三〇	一二〇		
	東洋史学専攻	四年	文学士	三〇	一二〇		
	地理学専攻	四年	文学士	三〇	一二〇		
	文学科						
	漢学専攻	四年	文学士	二〇	八〇		
	国語国文学専攻	四年	文学士	三〇	一二〇		

学部・学科等の名称	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	備考
法学部	一般教育科目	四			
法律学科	人文科学系				
文学部（共通）	哲学		四		
教育学科	論理学		四		
教育学専攻	宗教学		四		
倫理学専攻	倫理学				
史学地理学科	文学		四		
国史学専攻	歴史学		四		
東洋史学専攻	地理学		四		
地理学専攻	美学・美術史		四		
文学科					
漢学専攻					

既設					
大学院（修士課程）	政治学専攻	二年	政治学修士	二〇	四〇
政治学研究科					
経済学研究科	経済学専攻	二年	経済学修士	二〇	四〇
（博士課程）					
政治学研究科	政治学専攻	三年	政治学博士	一〇	三〇
経済学研究科	経済学専攻	三年	経済学博士	一〇	三〇
経済学部一部	政治学科	四年	政治学士	一〇〇	四〇〇
	経済学科	四年	経済学士	一〇〇	四〇〇
経済学部二部	経営学科	四年	経営学士	一〇〇	四〇〇
	政治学科	四年	政治学士	一〇〇	四〇〇
	経済学科	四年	経済学士	一〇〇	四〇〇
工学部	機械工学科	四年	工学士	四〇〇	一六〇〇
	電気工学科	四年	工学士	四〇〇	一六〇〇
	土木工学科	四年	工学士	四〇〇	一六〇〇
	建築学科	四年	工学士	四〇〇	一六〇〇
体育学部	体育学科	四年	体育学士	一〇〇	四〇〇

国語国文学専攻（共通）	社会科学系		
	法学	四	四
	政治学		四
	経済学		四
	社会学		四
	心理学		四
	教育学		四
	統計学		四
	自然科学系		
	生物学		四
	地学		四
	数学		四
	統計学		四
	物理学		四
	化学		四
	自然科学概論		四
	計	八	八〇
	外国語科目		
	英語	八	四
	独逸語		四
	仏語		四
	露語		四
	中国語		四
	計	八	二〇
保健体育科目			

一科目選択必修

法学部	法律学科	講義	二	
		実技	二	
		計	四	
		専門科目		
		民法（総論）	三	
		〃（親族法）	三	
		憲法	三	
		民法（物権）	三	
		〃（債権総論）	三	
		商法Ⅰ	三	
		刑法（総論）	三	
		法学演習	二	
		英米法（一般、公法、私法）		三
		独法		三
		仏法		三
		経済学原論		三
		政治学原論		三
		国際政治学		三
		外交史		三
		行政法（総論）	三	
		民法（相続法）	三	
		〃（債権各論）	三	
		商法Ⅱ	三	
		民事訴訟法	三	
		刑事訴訟法	三	
		刑法（各論）	三	

一科目選択必修

一科目選択必修

英米法（一般、公法、私法）		三	一科目選択必修
独法		三	
仏法		三	
比較憲法		三	
比較英米法		三	
行政学		三	二科目選択必修
商法特論（会社法）		三	
商法（海商法）		三	
〃（保険法）		三	
〃（手形法）		三	
ローマ法		三	
法制史		三	
財政学		三	
会計学		三	
法学演習	二		
英書講読		二	一科目選択必修
独書講読		二	
仏書講読		二	
中国書講読		二	
国際法	三		
労働法	三		
法哲学	三		
行政法（各論）		三	一科目選択必修
自治行政		三	
商法特論（有価証券法）		三	
民事訴訟法（上訴以後）		三	
破産法		三	

国際私法	三	三	二科目選択必修
刑事政策	三	三	
犯罪学	三	三	
経済法	三	三	
税法	三	三	
経済政策	三	三	
無体財産権法	三	三	
政治史	三	三	
英法書研究	三	三	一科目選択必修
独法書研究	三	三	
仏法書研究	三	三	
法学演習	二	三	
英書講読	二	二	一科目選択必修
独書講読	二	二	
仏書講読	二	二	
中国書講読	二	二	
日本史概説	四	四	教職（社会）選択必修
外国史概説	四	四	〃
地理学概論	四	四	〃
地誌学概論	四	四	〃
哲学	四	四	〃
倫理学	四	四	〃
計	五七	一五一	（選択科目より二十八単位選択必修）
教職に関する専門科目			
教育原理	四		

		教育心理学（青年心理学を含む）	四	
		道徳教育研究	二	
		社会科教育法	三	
		教育実習	三	二
		教育学及び教育史		二
		教育行政法		八
		図書館学		二
		計	十六	一二
文学部	教育学科	専門科目		
	教育学専攻	教育学原論	四	
		学校教育概論	四	
		倫理学概論	四	
		教育心理学	四	
		日本教育史	四	
		体育原理	四	
		教育方法論	四	
		教育行政学	四	
		教育財政学	四	
		体育史	四	
		教育哲学	四	
		卒業論文	八	
		教育社会学		四
		東洋教育史		四
		西洋教育史		四
		教育学演習Ⅰ		二
		〃　Ⅱ		二

文学部	教育学科	倫理学専攻	専門科目	教育学原論	四
			計	五二	一〇〇
			宗教学概論		四
			社会倫理		四
			西洋倫理学史		四
			〃　Ⅱ		四
			東洋倫理学史Ⅰ		四
			〃　Ⅱ		四
			体育及びレクリエーションⅠ		四
			職業指導		四
			成人及び青少年指導		四
			教育思潮		四
			社会教育概論		四
			体育行政学		四
			体育運動測定法演習		二
			体育運動方法		四
			体育学演習		二
			学校保健		四
			学校管理		四
			体育管理		四
			衛生学		四
			生理学		四
			教育法規研究		四
			道徳教育研究		四

選択科目より二十八単位以上選択必修、他に学部共通科目より八単位以上選択必修

五科目以上二〇単位以上選択必修

日本倫理学史概論	四			
倫理学概論	四			
東洋教育史	四			
教育心理学	四			
日本教育史	四			
東洋倫理学史Ⅰ	四			
〃　Ⅱ	四			
東洋倫理特殊講義	四			
哲学研究Ⅰ	四			
〃　Ⅱ	四			
西洋教育史	四			
西洋倫理学史	四			
原典講読Ⅰ	四	二	日本文献講読	一科目選択必修
〃		二	東洋文献〃	
〃		二	東洋文献〃	
〃		二	西洋文献〃	
倫理学演習Ⅰ		二	A	
〃		二	B	
〃		二	C	
原典講読Ⅱ		二	日本文献講読	一科目選択必修
〃		二	東洋文献〃	
〃		二	東洋文献〃	
〃		二	西洋文献〃	
社会倫理	四			
倫理学演習Ⅱ		二	A	一科目選択必修
〃		二	B	
〃		二	C	
卒業論文	八			

		経学特殊講義		四	
		社会教育概論		四	
		教育思潮		四	
		成人及び青少年指導		四	
		職業指導		四	
		体育及びレクリエーション		四	
		教育社会学		四	
		教育行政学		四	
		道徳教育研究		四	
		宗教学概論		四	
		体育原理		四	
		生理学		四	
		学校保健		四	
		教育法規研究		四	
		計	六四	八四	選択科目より十二単位以上選択必修、他に学部共通科目より十二単位以上選択必修
文学部	史学地理学科	専門科目			
	国史学専攻	史学概論	四		
		国史概説（上）	四		
		〃（下）	四		
		国史特殊講義Ⅰ	四	四	上代Ⅰ
		〃Ⅱ			〃Ⅱ
		〃Ⅲ	四		中世Ⅰ
		〃Ⅳ	四		〃Ⅱ
		〃Ⅴ	四		近世
		〃Ⅵ	四		近代Ⅰ

〃 Ⅶ	四	四	〃 Ⅱ（政治外交史）
〃 Ⅷ		四	日鮮交渉史
国史購読Ⅰ	二		上代
〃 Ⅱ	二		中世
〃 Ⅲ	二		近世
国史演習Ⅰ	二		
〃 Ⅱ	二		
東洋史概説（上）	四		
〃（下）	四		
東洋史特殊講義Ⅰ		四	
〃 Ⅱ		四	
東洋史講読Ⅰ		二	
〃 Ⅱ		二	
西洋史概説	四		
古文書学	二		
歴史考古学		四	
歴史地理学		四	
歴史地理学実習		四	
地理学概説		四	
日本地理		四	
外国地理Ⅰ		四	ソヴィエト
〃 Ⅱ		四	アジア
〃 Ⅲ		四	欧州、アフリカ
〃 Ⅳ		四	アメリカ
〃 Ⅴ		四	アセアニア、両極地方
国文講読		二	
国語学演習		二	

文学部	史学地理学科	国文学史		四	四
		漢学講読			二
		卒業論文		八	
		計		六四	七四
	東洋史学専攻	専門科目		四	
		史学概論		四	
		東洋史概説（上）		四	
		〃（下）		四	
		東洋史特殊講義Ⅰ		四	
		〃 Ⅱ		四	
		〃 Ⅲ		四	
		〃 Ⅳ		四	
		〃 Ⅴ		四	
		〃 Ⅵ		四	四
		朝鮮史概説			四
		西域史概説			四
		日中律令史			四
		東洋史講読Ⅰ		二	
		〃 Ⅱ		二	
		東洋史演習Ⅰ		二	
		〃 Ⅱ		二	
		国史概説（上）		四	
		〃（下）		四	
		国史特殊講義Ⅰ			四
		〃 Ⅱ			四

選択科目より十二単位以上選択必修、他に学部共通科目より十二単位以上選択必修

三大秦漢南北朝
隋唐
宋元
明清
最近世
現代外交史

文学部	史学地理学科	〃	Ⅲ	四	
		国史講読Ⅰ	二		
		〃 Ⅱ	二		
		〃 Ⅲ	二		
		西洋史概説	四	四	
		歴史考古学	四		
		歴史地理学	四		
		歴史地理学実習	四		
		地理学概説	四		
		日本地理	四		
		外国地理Ⅰ	四		
		〃 Ⅱ	四		
		〃 Ⅲ	四		
		〃 Ⅳ	四		
		〃 Ⅴ	四		
		漢学概論	四	四	
		漢学講読	二		
		漢文学史	四	八	
		卒業論文			
		計	八〇	六四	選択科目より十二単位以上選択必修、他に学部共通科目より十二単位以上選択必修
	地理学専攻	専門科目			
		地理学概説	四	四	
		地形学	四		
		地質学	四		
		気候地理学	四		

文学部	文学科 漢学専攻	専門科目				
		生物地理学		四	四	
		政治地理学		四	四	
		人口集落		四	四	
		歴史地理学		四	四	
		経済地理学		四	四	
		日本地理		四	四	
		外国地理Ⅰ		四	四	ソヴィエト
		〃 Ⅱ		四	四	アジア
		〃 Ⅲ		四	四	欧州、アフリカ
		〃 Ⅳ		四	四	アメリカ
		〃 Ⅴ		四	四	アセアニア、両極地方
		地図研究		四		
		地理学実習Ⅰ	二			
		〃 Ⅱ	二			
		地理学演習Ⅰ	二			
		〃 Ⅱ	二			
		地理巡見	四			
		宿泊調査	四			
		国史概説		四		
		東洋史概説		四		
		西洋史概説		四		
		卒業論文	八			
		計	二八	七二		選択科目より四十八単位以上選択必修、他に学部共通科目より十二単位以上選択必修
		経学史概説	四			

経学講義	四		宋明哲学
経学講読	四		周易、書経
経学特殊講義		四	
経学演習Ⅰ	二		論語集注
〃 Ⅱ	二		孟子集注
〃 Ⅲ	二		大学、中庸
〃 Ⅳ	二		左伝
〃 Ⅴ		二	礼記
諸子学概説	四		
諸子学演習Ⅰ	二		荀子、韓非子
〃 Ⅱ	二		荘子
〃 Ⅲ		二	老子
詩文学史概説	四		
詩文学演習Ⅰ	二		詩経、楚辞
〃 Ⅱ	二		古文真宝後集
〃 Ⅲ	二		文選、白氏文集
〃 Ⅳ	二		唐宋八集文
〃 Ⅴ		二	明・清文学
漢詩文作法Ⅰ	二		
〃 Ⅱ	二		
〃 Ⅲ		二	
日本儒学		四	
日本漢文学史	四		
日本漢文学演習		二	懐風藻、勅撰三集等
漢字学概論	四		
卒業論文	八		
小計	五八	二〇	

文学部	文学科	関連科目			
	国語国文学専攻	国語学概論	四	四	
		国文法	四		
		国文学史Ⅰ		四	上古・中古・中世
		〃　Ⅱ			近世・近代
		国文学演習Ⅰ	二	四	中古
		〃　Ⅱ	二		中世文学
		国文学講読			上古
		言語学	四	四	
		音韻学		四	
		書道講義		四	
		書道実習		四	
		書道史		四	
		書誌学		四	
		古文書学		四	
		美術史		四	
		東洋史概説（上）		四	
		〃（下）		四	
		小計	一六	四八	
		計	七四	六八	専門選択科目より六単位以上選択必修、他に学部共通科目より八単位以上選択必修
		専門科目			
		国語学概論	四		音韻、語彙、文法を含む
		国文法	四		
		国語学講読	四		
		国語学史		四	

国語学演習Ⅰ	二	二	一科目選択必修
〃 Ⅱ		二	
〃 Ⅲ		二	
〃 Ⅳ	二		
国文学史Ⅰ	四		上古・中古・中世
〃 Ⅱ	四		近世・近代
国文学講読Ⅰ	四	四	上古文学
〃 Ⅱ		四	中古文学
〃 Ⅲ		四	中世文学
〃 Ⅳ		四	近世文学
〃 Ⅴ		四	近代文学
国文学演習Ⅰ		二	上古文学
〃 Ⅱ		二	中古文学
〃 Ⅲ		二	中世文学
〃 Ⅳ		二	近世劇文学
〃 Ⅴ		二	近代詩
〃 Ⅵ		二	近代文学
作家研究Ⅰ		四	
〃 Ⅱ		四	
〃 Ⅲ		四	
〃 Ⅳ		四	
日本文学思潮Ⅰ		四	
〃 Ⅱ		四	
文献学		四	
比較文学		四	
文芸評論		四	
言語学		四	

四科目選択必修

三科目選択必修

文学部	教育学科	音韻学		四	四
		書道講義		四	四
		書道実習		四	四
		書道史		四	四
		書誌学		四	四
		古文書学		四	四
		美術史		四	四
		卒業論文	八		
		小計	三〇	一一〇	
	史学地理学科	関連科目			
		漢字学概論	四		
	文学科（共通）	経学演習	二		
		〃	二		
		詩文学演習	二		
		〃	二		
		日本漢文学史	四		
		国史概説（上）		四	論語集注
		〃（下）		四	孟子集注
		小計	一六	八	唐宋八家文
		計	四六	一一八	文選・白氏文集
	学部共通専門科目				専門選択科目より三十単位以上選択必修、他に学部共通科目より十二単位以上選択必修
	博物館学			四	博物館学芸員必修
	博物館実習			四	〃
	視聴覚教育及び実習			二	〃
	文化史概論			四	〃

考古学	四	〃
教育原理	四	〃
社会教育概論	四	〃
図書館学Ⅰ	四	図書及び司書教諭必修
〃　Ⅱ	二	〃
〃　Ⅲ	四	〃
〃　Ⅳ	二	〃
学校図書館通論	二	〃
視聴覚教育及び実習	二	〃
社会教育概論	四	〃
書誌学	四	同右及び書道科選択必修
書道講義	四	書道科必修
書道実習	四	〃
書道史	四	〃
美術史	四	〃
国語学概論	四	書道及び国語科選択必修
国文学史	四	〃
国文学講読	四	〃
日本文学思潮	四	〃
漢文学概論	四	〃
古文書学	四	書道及び国語科選択必修
哲学研究	四	社会科選択必修
倫理学概論	四	〃
宗教学概論	四	〃
心理学概論	四	〃
東洋倫理学史Ⅰ	四	〃
〃　Ⅱ	四	〃

西洋倫理学史		四	〃
経済学原論		四	〃
法学概論		四	〃
政治学原論		四	〃
社会学概論		四	〃
地理学概説		四	〃
地誌学		四	〃
国史概説		四	〃
外国史概説		四	〃
計		一五〇	学部共通科目より各種資格取得要件にかかわらず各専攻十二単位以上（但し教育学専攻及び漢学専攻は八単位以上）選択必修
教職に関する専門科目			
教育原理	四		
教育心理学（青年心理学を含む）	四		
道徳教育研究	二		
教科教育法	五～三		国語科教育法Ⅰ及Ⅱ各二単位 書道科　〃　三単位 社会科　〃　五単位 保健体育科　〃　三単位
教育実習	三		
日本教育史		二	
西洋教育史		二	
社会教育		二	
図書館学Ⅰ		四	
〃　Ⅱ		二	

〃 Ⅲ	四	
〃 Ⅳ	二	
学校図書館通論	二	
視聴覚教育及び実習	二	
計	二二	一八～一六

教員組織の概要

学部・学科等の名称	授業科目の種類	職名 教授 専任	教授 兼任	助教授 専任	助教授 兼任	講師 専任	講師 兼任	計 専任	計 兼任	助手	備考
法学部 法律学科	一般教育科目 人文科学系	6 (5)		1 (1)		4 (4)	5 (5)	10 (9)	5 (5)		
	社会科学系	3 (3)		1 (1)		3 (3)	3 (3)	7 (7)	3 (3)		
	自然科学系	8 (8)		1 (1)		4 (4)	3 (3)	13 (13)	3 (3)		
	外国語科目	9 (9)		2 (2)		4 (4)	8 (8)	15 (15)	8 (8)		
文学部 教育学科 史学地理学科	保健体育科目	2 (2)		1 (1)				3 (3)			
文学科	計	28 (27)		5 (5)		15 (15)	19 (19)	48 (47)	19 (19)		
	専門科目（法学部）	10 (9)		6 (5)		2 (2)	20 (0)	18 (17)	20 (0)		
	専門科目（文学部）	35 (26)	1 (1)	5 (5)		6 (4)	35 (15)	46 (35)	36 (16)		

校地	完成時	増設に伴う部分	校舎等建物	完成時	増設に伴う部分
専用	六二、五九二・四〇坪	一三、九四九・三〇坪（一三、九四九・三〇）	専用	一三、一〇五四三四坪（一二、一四五、四三四坪）	五、五七〇、七九四坪（五、五七〇、七九四坪）
共用	八五、七四四・九五坪	〇坪	共用	三、六九七四九〇坪（〇坪）	〇坪（〇坪）
計	一四八、三三七・三五坪	一三、九四九・三〇坪	計	一六、八〇二九二四坪（一二、一四五、四三四坪）	五、五七〇、七九四坪（五、五七〇、七九四坪）

三、四五四、七四〔〇〕坪（十号館）
二、一一六、〇五四坪（九号館）

設備		専用		共用		計	
		完成時	増設に伴う部分	完成時	増設に伴う部分	完成時	増設に伴う部分
図書		一三四、一〇二冊（一一三、一〇二冊）	六八、七八〇冊（四七、七八〇冊）	一六、六〇一冊（一三、六〇一冊）	七、七二〇冊（四、七二〇冊）	一五〇、七〇三冊（一二六、七〇三冊）	七六、五〇〇冊（五二、五〇〇冊）
学術雑誌		二八二種（二八二種）	一二六種（一二六種）	七二種（七二種）	三〇種（三〇種）	三五四種（三五四種）	一五六種（一五六種）
機械・器具		四、六一九	二四一	八五〇	八一	五、四六九	三三三
標本		一、五八四	二二九	四五七	一九七	二、〇四一	四二六
附属施設の概要		一、附属図書館 二、体育館（二棟） 三、水泳プール（五〇米九コース） 四、柔道場 五、剣道場 六、野球場 七、運動場 八、講堂 九、寄宿舎 十、食堂 十一、医務室 十二、浴場及び附属施設					
維持経営の方法		入学金、授業料、寄附金その他の収入をもって維持経営する。					
開設の時期		昭和四十一年四月一日					
開設年次		法学部は第一年次 文学部は全学科の第一年次及び文学科の第三年次					
現に設置している学校の概要		一、国士舘大学　大学院（政治学研究科、経済学研究科） 二、〃　政経学部一部（政治学科、経済学科、経営学科） 三、〃　政経学部二部（政治学科、経済学科） 四、〃　体育学部（体育学科） 五、〃　工学部（機械工学科、電気工学科、土木工学科、建築学科） 六、国士舘短期大学　国文科、経済科（経済科は昭和四一、三廃科予定） 七、国士舘高等学校　普通科 工業科（機械科、電気科、土木科、建築科） 商業科（定時制） 八、国士舘中学校					
			文学部文学科第三年次開講は、国文科二年卒業生の三年編入学を予定する。				

〔二、学則〜四、履修方法及び卒業の要件に関する書類　略〕

五、職員組織に関する書類

〔五、職員組織に関する書類（一）職員総括表・（二）学部及び学科別教員採用予定表　略〕

（三）学長並びに学部及び学科別担当教員予定表

一、教養部一部（一般教育科目、外国語科目、保健体育科目）

（政経学部一部、体育学部、工学部、法学部、文学部　共通）

一般教育 人文科学		授業科目の区分		
哲学 倫理学	実践倫理	担当授業科目名		
〃	専任	専任兼担兼任の別		
教授	学長	職名		
		兼任または兼担の場合の職名または職務および担当学科目等名		
2　4	4	講義	毎週授業時数	
		演習		
		実習実験		
2　4	4	計		
早稲田大学文学部大学院 大一五・三	早稲田大学専門部政治経済科 大四・六	最終卒業学校学部学科名卒業年月および学位称号		
著五 論一九外	著六 論三六	著書および学術論文数		
40年	48年	教歴		
43.4 80,000	41.4 20,000	採用年月および月額基本給		
〃	男	性別		
小山　甫文 明三一・一・三	柴田　德次郎 明二三・一一・二〇	氏名 生年月日		
早稲田大学 昭二四・四 教授（哲学、倫理学、論理学） 昭二八・四 教授（大学院）（哲学、倫理学）	国士舘大学 昭三二・一〇・二四 学長	備考		
197	189	教員個人調書頁数		
〃	有	承諾書の有無		
		所属長の就任承諾書の有無		
		記事		

○	○	○			○	○		○	○
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃
〃	〃	〃	〃	〃	倫理学	宗教学	〃	〃	哲学
〃	〃	〃	〃	兼担	〃	専任	兼担	〃	〃
助教授	講師	助教授	〃	教授	〃	講師	教授	〃	講師
同右 講師 倫理学	同右 講師 倫理学	同右 助教授 倫理学、インド哲学	文学部教育学科倫理学専攻 教授 倫理学	文学部教育学科倫理学専攻 教授 倫理学、独語			教育学部二部一般教育 教授 哲学		
2	2	2	2	2	6	4	2	4	4
2	2	2	2	2	6	4	2	4	4
東京文理科大学研究科哲学専攻特別研究生 昭二八・三	東京大学大学院 昭二三・一〇	東京大学文学部印度梵文学科 昭三五・三	東京帝国大学大学院（倫理学） 大一五・三	東京帝国大学文学部倫理学科大学院 昭一一・一二	早稲田大学大学院文学研究科（文学修士）	大正大学大学院文学研究科（博士課程） 昭三六・三	東京帝国大学文学部大学院哲学科 昭二三・四	早稲田大学大学院文学研究科（博士課程） 昭三八・三	早稲田大学大学院西洋哲学科（博士課程） 文学修士
著二 論四	著三 論二	著八 論六八	著三 論六	著五 論八	著 論二	著 論四	著三 論四	著 論二	著 論三
10年	6年	15年	38年	19年	3年	6年	40年	1年	1年
41.4 4,000	41.4 4,000	41.4 6,000	42.4 8,000	41.4 8,000	41.4 40,000	41.4 40,000	41.4 8,000	41.4 40,000	41.4 40,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
丸山 三郎 大一三・六・二八	渡辺 寿伝治 大二・九・二九	大類 純 大一二・三・一〇	木村 伊勢雄 明三五・三・二	阿部 秀夫 明四三・二・一八	武井 英明 昭五・一一・一一	見田 政尚 大六・一二・一六	太田 定康 明三三・八・三	杉田 勇 大一四・二・二五	永島 輝雄 昭六・八・二〇
東京教育大学 昭三八・四 講師（倫理学）		日本大学 昭二八・五 講師 東洋大学 昭三一・四 講師（インド哲学、倫理学）	東京学芸大学 昭二四・四 教授（倫理学）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（倫理学、独逸語）	国士舘大学 昭三九・一 講師（独語）	大正大学 昭三八・四 講師（独、英語）	国士舘大学 昭三二・一〇・二四 教授（哲学）	国士舘大学 昭三九・一 講師（独逸語）	国士舘大学 昭三九・一 講師（独乙語）
1485	1477	1461	1427	1437	231	225	217	211	205
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
有		〃	有						

○	○		○	○	○	○	○
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一般教育人文科目
〃	〃	文学Ⅱ	〃	〃	〃	〃	文学Ⅰ
〃	兼担	専任	〃	〃	〃	兼担	専任
助教授	〃	教授	〃	〃	助教授	〃	教授
文学部文学科 漢学専攻 助教授 漢学	文学部文学科 漢学専攻 助教授 漢学		〃	文学部文学科 国語国文学専攻 助教授 国文学	同右 助教授 国文学	文学部文学科 国語国文学専攻 教授 書道	
2	2	4	2	2	2	2	2
2	2	4	2	2	2	2	2
早稲田大学大学院（博士課程）昭三七・五 文学修士	大東文化学院高等科 昭一〇・三 文学博士	早大高等師範部国語漢文科 大三・七	早稲田大学大学院文学研究科演劇学専攻（修士課程）昭三〇・三 文学修士	早稲田大学大学院（旧制）国文学専攻 昭和二八・二一	早稲田大学大学院（旧制）文学研究科 昭二八・三	東京帝国大学文学部文学科 昭一一・三	日本女子大学英文学科研究科 大七・四
著四 論一三 作詩一五	著二 論一〇	著 論四	著六 論一二	著一 論一九	著一 論九	著五 論五五	著二五 論多数
22年	22年	51年	14年	8年	11年	8年	11年
41.4 6,000	41.4 8,000	41.4 80,000	41.4 6,000	41.4 6,000	41.4 6,000	41.4 8,000	41.4 80,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	男	女
福島 正義 明四〇・一一・一六	原田 種成 明四四・一・二	成井 弘文 明二三・三・二八	西尾 邦夫 昭四・六・一八	今成 元昭 大一四・一一・三〇	伊藤 康円 大一一・一一・八	春名 好重 明四三・四・五	板垣 なを 明二九・一一・一八
	群馬大学 昭二四・七 助教授 関東短期大学 昭三五・一〇 講師（漢文学）	広島女学院大学 昭二七・八 教授（漢文学） 関東短期大学 昭三五・一〇 講師（漢文学）			多摩美術大学 昭二九・四 講師（国文学）		千葉大学 昭三〇・四 講師（文学概論）
1781	1761	245	1911	1903	1895	1883	237
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
〃	有						

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	歴史学	〃	〃	〃	〃
兼任	兼担	〃	専任	〃	兼任	兼担	兼任
講師	教授	講師	教授	〃	講師	教授	講師
東京経済大学教授　歴史学	文学部史学地理学科国史学専攻　教授　日本史、独語			早稲田大学教育学部教授　仏文学、比較文学	関西学院大学教授　独文学	教育学部一部外国語教授　独語、文学Ⅱ	立正大学教授　英文学
4	2	2	4	2	2	2	2
4	2	2	4	2	2	2	2
東京帝国大学文学部西洋史学科　昭一〇・三	東京帝国大学文学部史学科　昭一三・三	東京文理科大学史学科（東洋史学科）　昭七・二　京都帝国大学文科大学院　昭一〇・三	東京文理科大学史学科　昭二二・九　同　特別研究生　昭二四・九	早稲田大学文学部仏文学科　昭二・三	東京帝国大学文学部　昭三・三　ベルリン、フライベルグ、チューリッヒ、ケルン各大学　文学博士	東京帝国大学文科大学独逸文学科　大八・七	早稲田大学英文学科　明四二・七
著三　論二一	著七　論一五	著一　論二一	著　論一一	著二　論八	著二九　論多数	著一二外　論七	著二二　論五〇
22年	25年	33年	18年	20年	37年	45年	37年
41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 40,000	41.4 80,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
神保　規一　明四五・一・一〇	上杉　重二郎　大三・八・二九	横山　貞裕　明四〇・七・三一	光島　督　大一三・一二・四	斉藤　一寛　明三三・七・二五	芳賀　檀　明三七・六・七	関　泰祐　明二三・一〇・二五	市川　又彦　明一九・一二・一三
東京経済大学教授（歴史）　昭三五・四	国士舘大学教授（日本史）　昭三九・一〇　講師（独語）　昭三八・一一		四国学院大学助教授（歴史学）　昭二九・四	早稲田大学教授（仏文学）　昭二五・四	関西学院大学教授（独文学）　昭和三三	茨城大学教授（独語）　昭二四・四　天理大学教授（外国文学）　昭三八・四	立正大学大学院教授（英文学）　昭三九・一一
273	1539	263	253	1997	1985	707	1975
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
有		〃	〃	〃	〃	〃	〃

〃	〃	一般教育 社会科学	〃	〃	〃	〃	一般教育 人文科目
〃	〃	法学	音楽	美学 美術史	〃	〃	地理学
〃	兼担	専任	兼任	専任	〃	〃	兼担
〃	教授	〃	講師	教授	講師	〃	教授
法学部 教授 ローマ法、法制史	教養部二部一般教育 教授 法学、経済法		国際音楽学校 講師 音楽理論		同右 講師 地理学	同右	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学
2	6	4	2	2	2	2	2
2	6	4	2	2	2	2	2
東京帝国大学法学部 法律学科 昭七・三	九州帝国大学法科 昭一二・三	中央大学法学部 昭二三・三	国際音楽専門学校研究科 昭二九・四	京都帝国大学工学部建築学科 大一三・五 東京帝国大学文学部 昭四・三 美学・美術史学科 文学博士	日本大学高等師範部地歴科 昭一二・三 日本大学法学部史学科一年中退 昭一八・一〇	東京高等師範学校理科第三部甲組 昭二・三	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三 文学博士
著一〇 論一二	著二 論八	著二 論二	著五 論七	著一〇 論四〇	著一 論四	著一九 論五四	著二 論一七
35年	21年	14年	10年	34年	24年	30年	26年
41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 40,000	41.4 4,000	41.4 80,000	41.4 4,000	41.4 8,000	41.4 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	男
戸倉　広 明三七・一・三〇	宮田　幸吉 明四四・三・二二	野原　重隆 明四三・一一・二四	宇田川　巌 昭五・二・八	加藤　泰 明三二・九・一八	山本　正一 （明四〇） 昭四〇・一〇・一五	山口　俊策 明三四・一一・一〇	大橋　与一 明三二・八・一〇
早稲田大学 昭二四・四 講師（ローマ法、法制史）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（法学、経済法）	大妻女子大学 昭二七・四 講師（法学）	国際音楽専門学校 昭三五・四 講師（音楽理論）	広島大学 昭二四・八 教授（美学・美術史）		東京教育大学 昭二四・四 教授（地学、地理学）	宇都宮大学 昭二六・三 教授（地理学）
869	323	307	297	281	1693	1669	1683
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
			有		有		
					四二・三　都石 神井高停年退職		

○

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	経済学	〃	〃	政治学	〃
兼任	〃	兼担	専任	〃	兼任	〃	〃
講師	助教授	〃	教授	〃	講師	教授	助教授
青山学院大学教授 経済原論、経済学史、経済学	政経学部一部 経済学科 助教授 外書講読、社会政策、工業経済	政経学部一部 経済学科 教授 経済学、経済政策、農業経済、経済学史		東京家政大学 助教授 政治学、社会福祉、政治史	慶応義塾大学 教授 政治学	政経学部二部 大学院 教授 国際政治、外交史	法学部 助教授 民法
2	2	2	6	2	4	2	2
2	2	2	6	2	4	2	2
東京帝国大学経済学部経済学科 昭五・三	九州大学経済学部 昭二九・三 早稲田大学大学院経済学研究科（博士課程） 昭三五・三 経済学修士	早稲田大学専門部法律科 大一三・三 フライブルグ大学経済学部 昭三・九	京都帝国大学経済学部 大一二・三 経済学博士	早稲田大学大学院政治学研究科 昭三〇・三 政治学修士	慶応義塾大学法学部政治学科 昭二五・九	東京帝国大学法科大学政治学科 大三・六 法学博士	早稲田大学大学院法学研究科 昭三〇・三 法学修士
著一〇 論多数	著三 論六	著四 論三二	著一五 論六	著四 論	著 論九	著六 論七	著三 論一九
22年	6年	25年	47年	10年	15年	20年	9年
41.4 8,000	41.4 6,000	41.4 8,000	41.4 80,000	41.4 6,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 6,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
日下 藤吾 明四一・一・二六	江頭 稔 昭七・三・五	赤羽 豊治郎 明三二・一二・九	岩田 耕作 明二五・九・一一	浅沼 和典 昭二一・一〇・一七	多田 真鋤 昭二・五・二五	三枝 茂智 明二一・一〇・二三	大沢 正男 昭四・七・一五
青山学院大学 昭三一・二一 教授（経済原論、経済史学、経済学）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（外書講読）	信州大学 昭二五・三一 教授（経済学、農業経済、経済政策）	日本大学 昭二四・四 教授（経済学、農業経済）	東京家政大学 昭三七・一一 助教授（政治学、社会福祉）	慶応義塾大学 昭三八・四 教授（政治学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際政治学、外交史）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（民法）
369	361	1049	351	345	337	329	897
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
有					有		

○

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一般教育社会科学
〃	〃	〃	教育学	〃	心理学	〃	社会学
〃	〃	兼担	〃	〃	専任	兼担	専任
講師	〃	教授	〃	講師	〃	〃	教授
同右 講師 教育学	同右	文学部教育学科 教育学専攻 教授 教育学				政経学部一部 経済学科 教授 社会政策、人口論	
2	2	2	4	4	4	4	4
2	2	2	4	4	4	4	4
東京高等師範学校研究科（修身科） 昭五・三	東京文理科大学教育学科 昭七・一二	東京高等師範学校専攻科修身教育学科 大一五・三	東京教育大学大学院教育学研究科博士課程 昭四〇・三 教育学修士	東京文理科大学哲学科倫理学専攻 昭九・三・一五	東京帝国大学農学部全科選科 大一三・三 マクファースン、シカゴ、スタンフォード、バークレ各大学四年間 BA、MA	米国ワシントン官立大学院文学部社会学科 昭元・六 （M・A、B・A）	東京帝国大学文科大学哲学科 大三・七 文学博士
著一二 論一	著二 論三五	著八 論一四	著五 論一四	著七 論二	著七 論四〇	著一四 論三二	著四 論一九
25年	22年	40年	2年	35年	26年	34年	51年
41.4 4,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 40,000	41.4 40,000	41.4 80,000	41.4 8,000	41.4 80,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	男
下地 恵常 明三七・五・一一	森 純吾 明三六・五・一三	前野 喜代治 明三二・四・一〇	深谷 昌志 昭八・九・一六	岡田 亮一 明三三・四・二六	三隅 一成 明二七・四・一	西野入 徳 明二〇・一二・一二	綿貫 哲雄 明一八・八・三
千葉敬愛短期大学講師（教育社会学）	岩手大学 昭二四・二 教授（教育行政、教育原理、学校管理）	弘前大学 昭二九・四 教授（教育学）		昭和薬科大学 昭二五・四・一 教授（心理学、倫理学）	国士舘大学 昭三五・一〇 教授（心理学、体育心理学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（社会学、人口学）	中央大学 昭二四・四 教授（社会学）
1289	1255	1237	425	413	401	387	379
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有

					○				○	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一般教育 自然科学	〃	〃
〃	〃	〃	数学	〃	〃	地学	〃	生物学	統計学	教育学
〃	〃	〃	専任	兼担	〃	〃	〃	専任	専任	〃
助教授	〃	〃	〃	教授	講師	〃	〃	教授	助教授	〃
				文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学、地学						文学部教育学科教育学専攻 講師 教育学
6	6	6	6	2	6	6	6	6	6	2
6	6	6	6	2	6	6	6	6	6	2
早稲田大学理工学部 電気通信予科 昭二三・三	東北帝国大学理学部 数学科 昭五・三	東京帝大理学部数学科 大一四・三	東京物理学校高等師範科数学部 昭九・三	東京高等師範学校理科第三部甲組 昭二・三	熊本高等工業学校採鉱冶金科 昭五・三	東京帝国大学理科大学地質学科 大一〇・五 理学博士	東京帝国大学理学部植物学科選科 大一一・三	東京帝国大学理科大学 大六・七 理学博士	法政大学大学院博士課程 昭三九・三 経済学修士	早稲田大学大学院文学研究科（修士課程） 昭三二・三 文学修士
著四 論二	著五 論数編	著六 論多数	著四 論二七	著一九 論五四	著 論四	著一 論一七	著四 論	著六 論約八〇	著二 論七	著四 論七
3年	36年	47年	13年	30年	2年	15年	42年	45年	8年	1年
41.4 65,000	41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 8,000	41.4 40,000	41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 65,000	41.4 4,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
飯岡　方行 大七・八・二〇	佐々木　金之助 明二七・八・一四	古賀　軍治 明二八・三・一六	田制　初穂 大三・三・一五	山口　俊策 明三四・一一・一〇	飯野　丹次 明三八・三・三	赤木　健 明二八・一〇・三	向坂　道治 明三八・一一・二八	江本　義数 明二五・一〇・二八	大牟田　盛文 昭五・三・二七	長田　三男 昭七・一・六
国士舘大学 昭三八・一 助教授（応用数学）	日本大学 昭二四・四 教授（数学）	学習院大学 昭二四・四 教授（数学）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（数学）	東京教育大学 昭二四・四 教授（地理、生物学）		お茶の水女子大学 昭三五・四・二 教授（地学）	早稲田大学 昭二四・四 教授（生物学）	国士舘大学 昭三五・一〇 教授（生物学）	国士舘大学 昭三九・一〇 講師（統計学）	国士舘大学 昭三九・一〇 講師（教育学）
497	489	483	475	1669	467	457	451	441	433	1297
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
							一・三 四停年退職			

	○	○	○				○	
外国語科目	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	教育学 一般教科 自然科学
英語	〃	〃	化学	物理学	物理学 自然科学概論	統計学	数学	数学 統計学
〃	〃	〃	〃	〃	専任	〃	兼担	兼任
教授	〃	講師	教授	講師	教授	〃	〃	講師
						日本大学 教授 数学、統計学	国士舘大学 講師（非常勤） 数学	明星大学理工学部 教授 数学、統計学
10	2	2	6	6	4　4	4	6	2　2
10	2	2	6	6	4　4	4	6	2　2
東京外国語学校英語科文科 大一〇・二一 東京帝国大学文学部 英文科選科 大一四・三一	金沢高等師範学校理科二部物象科 昭二四・三一	東京都立大学大学院理学研究科、無機化学研究科 昭四〇・三一	広島文理科大学化学科 昭一六・一一一 （工学博士）	東京帝国大学工学部 機械工学科 大一五・三一	京都帝国大学理学部 化学科 昭四・三一	東京文理科大学数学科 昭七・三一	京城帝国大学附属理科教員養成所数学科 昭二〇・九	東北帝国大学理学部 （数学科） 昭四・三一
著五 論	著三 論二	著二 論三	著 論四	著 論五	著六 論一〇三	著五 論六	著三 論二	著 論五
17年	6年	6年	3年	12年	36年	29年	3年	29年
41.4 80,000	41.4 40,000	41.4 40,000	41.4 80,000	41.4 40,000	41.4 80,000	41.4 8,000	41.4 4,000	41.4 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	男
野原　三郎 明三二・八・一五	吉田　治郎 大一五・一一・三	井東　澄雄 昭八・二一・一八	竹下　安日児 大五・二一・二六	前田　義男 明三六・一・三〇	小田切　瑞穂 明三七・七・一三	佐藤　輝実 明四一・一・一〇	種子田　重彦 大六・三一・一六	渡辺　広実 明三〇・二・一九
明治大学 昭三〇・四 教授（英語）			国士舘大学 昭三八・一 講師（化学）	国士舘大学 昭三八・一 講師（物理学）	近畿大学 昭二九・九 教授（物理学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（自然科学概論）	日本大学 昭三一・一〇 教授（数学、統計学）		北海道学芸大学 昭二四・五 教授（数学、統計学）
591	583	575	574	567	533	523	517	507
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
						有		有

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	英語	〃	〃	〃	〃
兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教授	〃	講師	〃	助教授	〃	〃	〃	〃
政経学部一部 経済学科 教授 社会政策、社会学、人口学、英語								
4	10	10	10	10	10	10	10	10
4	10	10	10	10	10	10	10	10
米国ワシントン官立大学院文学部社会学科 大一五・六 （M・A）	早稲田大学文学部英文学科 昭三四・三	東京大学文学部美学科大学院（旧制） 昭二八・三	法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻（博士課程） 昭三九・三 文学修士	法政大学大学院修士課程人文科学研究科 英文学専攻 昭三六・三 （文学修士）	東京帝国大学文学部支那文学科中退 大八	明治大学商科専門部正科 大六・九	東北帝国大学法文学部 昭三・三	東京外国語学校英語部 大八・三
著一四 論三二	著二 論	著 論二	著一 論六	著一 論一	著 論一三	著 訳一八	著四 論六	著一六 論二
34年	7年	6年	3年	5年	12年	44年	47年	38年
41.4 8,000	41.4 40,000	41.4 40,000	41.4 65,000	41.4 65,000	41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 80,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
西野入　徳 明二〇・一二・一二	紺野　耕一 昭三・三・一四	滝沢　喜秋 昭二・二・二八	大島　芳材 昭六・二・二一	矢島　幸運 昭七・九・二〇	小村　捷治 明二六・五・一五	可児　猛 明二九・一〇・一〇	石川　正通 明三〇・九・二五	橋本　修 明二八・二・一八
国士舘大学 昭三五・一〇 教授（英語） 国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（社会政策、社会学、人口学）			国士舘大学 昭三八・一 講師（英語）	国士舘大学 昭三七・一 講師（英語）	明治大学 昭三五・四 教授（英語）	国士舘大学 昭三五・一〇 教授（英語）	順天堂大学 昭二四・四 教授（英語）	明治大学 昭二八・四 教授（英語、商業英語）
387	647	641	633	627	後筆「621」	615	606	599
〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃

国語外科目	英語	兼担	教授	教養部二部外国語科目教授英語	4			4	東京帝国大学法学部英法科大九・七	著一論六	20年	41.4 8,000	男	塚本貞二明二八・九・一一	国士舘大学昭三九・一〇教授（英語）	653	有	
〃	〃	兼任	講師	日本ルーテル神学大学教授英語	4			4	早稲田大学文学部英文学科明四二・七	著四論三	42年	41.4 8,000	〃	三木春雄明一七・七・四	実践女子大学昭二四・四教授（英語）	661	有	
〃	〃	〃	〃	立正大学教授英語、英文学	4			4	早稲田大学文学部英文学科明四二・七	著二二論五〇	37年	41.4 8,000	〃	市川又彦明一九・一二・一三	立正大学大学院昭三九・一一教授（英語、英文学）	1975	〃	
〃	〃	〃	〃	玉川大学教授英語	4			4	スタンフォード大学政治科昭四・一一ドクトル・オブ・フヰロソフヰー昭八・六	著二論一	13年	41.4 8,000	〃	松本正雄明三五・一〇・一	玉川大学昭三七教授（英語）		〃	
〃	〃	〃	〃	早稲田実業学校教諭英語	6			6	早稲田大学大学院文学研究科昭二九・三文学修士	著一論二	11年	41.4 4,000	〃	大峡広雄昭二・一・二六		679	〃	
〃	〃	専任	教授	独逸語	10			10	東京帝国大学文学部独逸文学科昭二・三	著四論一一	39年	41.4 80,000	〃	紅露文平明三六・一一・二一		687	〃	
〃	〃	〃	〃	校教諭英語	10			10	東京帝国大学文科大学独逸文学科大八・七	著一二外論七	45年	41.4 80,000	〃	関泰祐明二三・一〇・二五	茨城大学昭二四・四教授（独語）天理大学昭三八・四教授（外国文学）	707	〃	
〃	〃	〃	〃	英語	6			6	東京外国語学校ドイツ語科明三八東京大学文学部専科明四〇ウィーン、ブタペスト各大学大九・一一・一三	著論多数	30年	41.4 80,000	〃	外山高一明一五・一・二一	中央大学昭二六・四教授（独語）	715	〃	

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	兼任	〃	〃	兼担	〃
〃	〃	講師	〃	〃	〃	〃
日本大学理工学部講師独逸語	日本大学文理学部講師独逸語	東京理科大学助教授独逸語	文学部史学地理学科国史学専攻教授日本史、独語	文学部教育学科倫理学専攻教授倫理学、独語	法学部教授商法	
4	4	4	2	2	2	10
4	4	4	2	2	2	10
同志社大学大学院文学研究科（哲学）修士課程昭三三・三 関西学院大学文学研究科（哲学）博士課程昭三六・三文学修士	東北大学大学院文学研究科独文科昭三四・三	東京外語大学独語科昭一九・一〇 中央大学大学院文学研究科（独文専攻）昭三三・三	東京帝国大学文学部国史学科昭一三・三	東京帝国大学大学院（倫理学）昭一一・一二	明治大学法学部大一三・三 独エルランゲン大学法学部昭一一・三（ドクトルユリス）	早稲田大学文学部独文学科昭三・三
著論一〇	著論五	著論一	著論一五	著論八	著論一	著訳論三三六三
2年	6年	8年	25年	19年	10年	13年
41.4 4,000	41.4 4,000	41.4 6,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 80,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
岩井　義人 昭三二・二・二	小俣　公男 昭八・一・七	村上　清 大一〇・五・二八	上杉　重二郎 大三・八・二九	阿部　秀夫 明四三・二・一八	佐野　重雄 明三五・二・二〇	藤原　肇 明三四・四・一六
日本大学 昭三七・四・一 講師（哲学、独語）	日本大学 昭三七・四 講師（独語）	東京理科大学 昭三七・四 助教授（ドイツ語）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（日本史、正史） 昭三八・一二 講師（独語）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（倫理学、独語）	国士舘大学 昭三五・一〇 教授（独逸語、商法）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（独逸語）
743	735	729	1539	1437	855	721
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	有					

〃	〃	体育健康科目	〃	〃	〃	外国語科目
体育実技	〃	体育理論 体育実技	中国語	露語	仏語	独逸語
〃	〃	専任	〃	専任	兼担	兼任
助教授	〃	教授	〃	講師	教授	講師
					政経学部一部経済学科教授 労働法、社会政策、仏語	日本大学理工学部講師 独逸語
	2	2	6	6	4	4
2	2	2				
2	2　2	2　2	6	6	4	4
日本体育大学体育学部体育学科 昭三一・三 東京大学教育学部体育研究室三年修了 昭三四・三	東京高等師範学校研究科 大一二・三	東京高等師範学校体育専修科 大六・三	東京教育大学大学院文学研究科中国古典学専攻（修士課程） 昭三八・三 文学修士	関東軍露語教育隊高等科 昭一六・六	旧制　留萌中学 昭一〇・三 大七　パリ大学社会法 大一〇～一一	東京帝国大学大学院仏商法専修 大七 東洋大学文学部哲学科 昭二六・三
著一 論六	著四 論八七	著四 論	著二 論一三	著四 論	著四 論七	著三 論一〇
9年	49年	45年	8年	2年	40年	13年
41.4 65,000	41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 40,000	41.4 40,000	41.4 8,000	41.4 4,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	男
服部　利夫 昭五・一一・一三	下津屋　俊夫 明二九・三・一八	森　秀 明二五・三・二八	許　常安 昭三・一・一	稲垣　敏夫 大六・一一・九	星野　辰雄 明二五・四・一八	遠山　諦虔 大一四・六・七
国士舘大学 昭三九・一〇 講師（体育実技）	横浜国立大学 昭二四・一一 教授（体育学）	国士舘大学 昭三二・一一 教授（体育学）			国士舘大学 昭三九・一〇 教授（仏語、労働法、社会政策）	日本大学 昭三二・四 講師（哲学、独語）
793	785	779	771	763	1041	753
〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
						有

二、法学部（専門科目）

授業科目の区分	担当授業科目名	専任兼担兼任の別	職名	兼担または兼任の場合専任の職名または職務および担当学等科目名	毎週授業時数 講義	演習	実習実験	計	最終卒業学校学部学科名卒業年月および学位称号	著書および学術論文数	教歴	採用年月および月額基本給	性別	氏名生年月日	備考	教員個人調書頁数	承諾書の有無	所属長の就任承諾書の有無	記事
法律学科専門科目	憲法 行政法（総論） 同（各論） 比較憲法 演習	専任	教授		2 2 2 2	2		2 2 2 2 2	東京帝国大学法科大学政治学科 大四・五 法学博士	著五 論四	40年	41.4 80,000	男	土橋　友四郎 明二一・三・二三	専修大学 昭二五・五 教授（憲法、行政法）	799	有	有	
〃	民法（総論、物権、債券各論） 演習	〃	〃		6	2		2 6	東京帝国大学大学院 大四・七 法学博士	著九 論六一	38年	41.4 80,000	〃	東　季彦 明一九・一・一七	日本大学 昭二六・一 教授 日大大学院 昭二八・四 教授（民法、商法）	809	〃	有	
〃	刑法（総論各論） 刑事訴訟法 刑事政策 犯罪学 演習	〃	〃		2 2 2 4	2		2 2 2 2 4	東京帝国大学法学部法律学科（独法兼修） ベルリン大学 昭六 ウィーン大学 昭六・一〇 入学	著五 論二六	27年	41.4 80,000	〃	花井　忠 明二七・一二・三	中央大学 昭三四・四 教授（刑法、刑訴法）	827	〃		
〃	民事訴訟法 同右（上訴以後） 破産法 演習	〃	〃		2 2 2	2		2 2 2 2	早稲田大学大学部法学科（独法） 大六・七 法学博士	著一二 論多数	44年	41.4 80,000	〃	中村　宗雄 明二七・八・九	早稲田大学 昭二四・四 教授（法学、民法）	835	〃		

科目	学科	法専	刑法（総論各論）	商法Ⅰ Ⅱ	商法（会社法）	同（保険法）	同（有価証券法）	刑事訴訟法	ローマ法	法制史	会計法	税法	経済法	無体財産権法	民法（親族法、物権相続法）
〃	〃	〃	演習	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
専任	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	助教授
教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6
東京帝国大学法科大学法律学科大六・七法学博士	著一〇論三五	32年	42.4 80,000	男	小泉　英一明二五・四・二〇	専修大学昭一八・一二教授（刑法）	845	有							
明治大学法学部法律学科大一三・三ライプチッヒ、ベルリン、ハンブルグ、ケーニヒベルグ、エルランゲン各大学	著二論一	10年	41.4 80,000	〃	佐野　重雄明三五・二・八	国士舘大学昭三九・一〇教授（商法、独語）	855	〃							
東京帝国大学法学部法律学科大昭四・一〇ドクターユリス（エルランゲン大学）	著四論六	15年	41.4 80,000	〃	武田　軍治明三〇・一〇・一〇	日本大学昭二五・四講師（刑訴法）	861	〃							
東京帝国大学法学部法律学科大一三・四	著一〇論一二	35年	41.4 80,000	〃	戸倉　広明三七・一・三〇	早稲田大学昭二四・四講師（ローマ法、法制史）	869	〃							
東京帝国大学法科大学英法科大二・七・七	著三論四一	10年	41.4 80,000	〃	田中　勝次郎明一九・一・九	専修大学昭三〇・四教授（税法、会計学）	877	〃							
中央大学法学部昭二・三法学博士	著三論多数	16年	41.4 80,000	〃	滝野　文三明三四・四・二四	中央大学昭二四・四講師（工業所有権）	889	〃							
早稲田大学大学院法学研究科昭三一・三法学修士	著三論一九	9年	41.4 65,000	〃	大沢　正男昭四・七・一五	国士舘大学昭三九・一〇助教授（民法）	897	〃							

○	○	○	○	○	○	○	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
憲法	商法（保険法） 商法（手形法） 演習	民事訴訟法 演習	労働法 演習	法制史 中国書講読 演習	行政法（総論 各論） 演習	英米法（私法） 法哲学 英法書研究 演習	刑法（各論） 刑事政策 演習
兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教授	〃	講師	〃	〃	〃	〃	〃
政経学部一部 政治学科大学 院 教授 国際政治学研究							
2	2　2	2	2	2　2	4	2　2　2	2　2
	2	2	2	2	2	2	2
2	2　2　2	2　2	2　2	2　2　2	2　4	2　2　2　2	2　2　2
東京帝国大学法科大学院 大六・二 法学博士	明治大学大学院法学研究科 昭五・三 法学修士	早稲田大学第二法学部 昭三七・三	早稲田大学法学部 昭一三・三	早稲田大学大学院法学研究科民事法専攻 （博士課程） 昭三五・三 法学修士	早稲田大学大学院政治学研究科 昭三八・三 法学修士	早稲田大学大学院法学研究科法哲学・民事訴訟法専修（博士課程） 昭三八・三 法学修士	早稲田大学大学院法学研究科 昭三〇・三 法学修士
著一九 論約二〇〇 ○	著四 論一四	著 論三	著 論一三	著 論一三	著 論八	著一 論六	著六 論一四
49年		3年	8年	4年	4年	3年	7年
41.4 8,000	41.4 40,000	41.4 40,000	44.4 65,000	41.4 65,000	41.4 65,000	41.4 65,000	41.4 65,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
神川 彦松 明二二・一二・二三	大矢 息生 昭七・七・四	菊池 定信 昭一一・八・一〇	浜口 金一郎 大三・四・七	宮坂 宏 昭七・九・三	藤谷 豊松 明四五・三・二一	島津 英郷 昭八・一一・二六	北山 茂 昭四・四・二八
東京大学 昭二四・四 国士舘大学大学院 昭三九・一二 教授（国際政治学）			愛知学院大学 昭三二・四 講師（労働法）				国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（法学、刑法、刑事政策）
966	957	951	943	935	927	917	907
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
			有			有	

○

科目	民法（債権総論）同右（債権各論）	経済学原論 経済政策	政治学原論	外交史	行政学 自治行政	財政学
法律学科専門	〃	〃	〃	〃	〃	〃
兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃
政経学部一部 政治学科 教授 民法	政経学部一部 経済学科、同 大学院 教授 経済学	政経学部一部 政治学科、同 大学院 教授 政治学、政治史	政経学部一部 大学院 教授 国際法、外交史	政経学部一部 政治学科、同 大学院 教授 行政学、自治行政	政経学部一部 政治学科 教授	政経学部二部 経済学科、同 大学院 教授 国際経済、財政学
2 2	2 2	2 2	2	2	2 2	2
2 2	2 2	2 2	2	2	2 2	2
東京帝国大学文科大学哲学科 大五・七 同法学部政治学科 大一〇・四	東京帝国大学経済学部経済学科 大八・七 経済学博士	早稲田大学大学院政治学研究科 大八・九	旧山口高等商業学校 明四一・三 法学博士	東京帝国大学法学部 昭六・三	東京帝国大学経済学部経済学科（選科） 大一〇・四 ハーバード大学経済学選修、ジョンズ・ホプキンス大学財政学選修 大一四・四―昭二・三 経済学博士
著 論五	著一四 論多数	著八 論一五	著一二 論二〇	著九 論一三	著六 論二
43年	41年	34年	15年	11年	13年
42.4 8,000	42.4 8,000	42.4 8,000	42.4 8,000	42.4 8,000	43.4 8,000
男	〃	〃	〃	〃	〃
清水谷 隆寛 明二三・一二・一六	竹内 謙一 明二八・一一・六	内田 繁隆 明二四・一一・二一	田村 幸策 明二〇・三・五	法貴 三郎 明四〇・七・一九	森 武夫 明二二・一〇・一六
香川大学 昭二四・四 教授 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（民法）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（経済学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（政治学、政治史）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際法、外交史）	明治大学 昭二九・四 講師（行政学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際経済、財政学）
967	975	983	991	1001	1013
有	〃	〃	〃	〃	〃

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
憲法	刑法（各論）	外交史	経済政策	経済法	労働法	国際法
兼任	〃	兼担	〃	〃	〃	〃
〃	講師	助教授	〃	〃	〃	〃
高崎経済大学教授 憲法	政経学部二部 政治学科 講師 刑法	政経学部一部 政治学科 助教授 外国政治書講読、外交史	政経学部一部 経済学科 教授 経済政策、農業経済、経済学史	教養部二部一般教育 教授 法学、経済学	政経学部一部 経済学科 教授 労働法、社会政策、仏語	政経学部一部 政治学科 教授 国際文化政策論、国際法（助教授）
2	2	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2
東京帝国大学法学部 法律学科 昭一六・三・二	早稲田大学大学院法学研究科公法学専攻 刑法専修（修士課程） 法学修士 昭三八・三・二	早稲田大学政経学部 政治学科 昭二二・九 同大学院法学研究科 特別研究生課程 昭三〇・三・二	早稲田大学専門部法律科 大一三・三・三 フライブルグ大学経済学部 昭三・九	九州帝国大学法科 昭一二・三・三	東京帝国大学法学部 仏法科 大六 同大学院仏商法専修 大七 パリ大学社会法聴講 大一〇～一一	東京帝国大学文学部 国文学科 昭一六・三・二 東京帝国大学法学部 政治学科 昭一九・九
著三 論一四	著 訳五 論一	著四 論二八	著四 論三二	著二 論八	著四 論七	著七 論二四
21年	2年	10年	25年	21年		17年
42.4 8,000	43.4 4,000	42.4 6,000	44.4 8,000	44.4 8,000	44.4 8,000	44.4 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三潴 信吾 大五・九・二六	富田 敬一 昭一一・六・二	清水 良三 大一四・六・九	赤羽 豊治郎 明三二・一二・九	宮田 幸吉 明四四・三・二二	星野 辰雄 明二五・四・一八	桜井 光堂 大四・二・二三
高崎経済大学 昭三二・四 教授（法学、憲法）		国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（外書講読、外交史）	信州大学 昭二五・三 教授（経済学、経済政策、農業経済）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（法学、経済学）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（労働法、社会政策、仏語）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（国際文化政策論） 北九州大学 昭三〇・四 助教授（国際法）
1079	1071	1061	1049	323	1041	1021
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
有			有			

○

法律学科専門科目	商法Ⅰ	英米法（一般） 比較英米法	〃	独法 民事訴訟法 同右（上訴以後） 独法書研究	〃	仏法 商法（海商法） 仏書講読 仏法書研究	〃	行政法（総論各論） 商法Ⅱ 商法特論（会社法）	〃	民事訴訟法 同右（上訴以後） 刑法（各論）	〃
兼任	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
講師	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
山梨大学 助教授 商法	早稲田大学 教授 英米法	早稲田大学、 同大学院 教授 法学		早稲田大学 助教授 商法		早稲田大学第二政経学部長 教授 行政法		早稲田大学法学部 助教授 商法		早稲田大学 助教授 民法	早稲田大学 助教授 民法、法学、民事訴訟法、読書講読
2	2　4	2　2　2　4		2　2　2　4		4		2　2		2　2	2　2　2
2	2　4	2　2　2　4		2　2　2　4		4		2　2		2　2	2　2　2
東京大学法学部政治学科 昭二四・三	早稲田大学法学部 昭四・三 （法学博士）	早稲田大学大学院法学研究科 昭二五・三 西独フライブルグ大学（民訴法研究） 昭三〇・一〇～三二・一二		早稲田大学大学院法学研究科博士課程 昭三三・三		早稲田大学政経学部 政治学科 昭一一・三 同大学院（公法学研究） 法学博士		早稲田大学大学院法学研究科（博士課程） 昭三五・三 法学博士		早稲田大学法学部、旧制大学院 昭三〇・三	早稲田大学大学院法学研究科博士課程 昭三三・三 法学修士
著 論多数	著二 論二	著 論多数		著一 論九		著六 論八〇		著二 論二三		著五 論二〇	著三 論二一
14年	23年	15年		10年		22年		6年		10年	10年
42.4 6,000	42.4 8,000	42.4 8,000		42.4 6,000		43.4 8,000		43.4 6,000		43.4 6,000	43.4 4,000
男	〃	〃		〃		〃		〃		〃	〃
由比　宏忠 大一二・六・二五	水田　義雄 明四〇・一・一〇	中村　英郎 大一五・三・二		中村　真澄 昭二・七・二二		佐藤　立夫 明四五・三・二三		酒巻　俊雄 昭六・六・二二		内田　武吉 大一五・九・一二	鈴木　重勝 昭五・一・一三 尾形　再臨 大六・二・七
山梨大学 昭三七・五 助教授（商法）	早稲田大学 昭二四・五 教授（英米法）					早稲田大学 昭二四・四 教授（行政法）					
1089	1097	1105		1115		1125		1133		1143	1153
有	〃	〃		〃		〃		〃		〃	〃
有	〃	〃		〃		〃		〃		〃	〃

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
政治史	国際私法	破産法	自治行政	英米法（公法） 税法 英書講読	英書講読	商法（手形法）
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
東海大学 助教授 政治史	早稲田大学法 学部 助教授 国際私法	早稲田大学法 学部 助教授 民訴法	国学院大学法 学部 教授 政治学	早稲田大学法 学部 助教授 租税法、憲法	早稲田大学法 学部 助教授 外交史、外書 講読	冨士短期大学 教授 商法
2	2	2	2	4　2　4	4	2
2	2	2	2	4　2　4	4	2
早稲田大学政経学部 政治学科（旧制）大 学院 昭三五・三	早稲田大学大学院法 学研究科 昭二九・三 ミシシッピ、テュ レーン、ハバード各 大学留学 昭二九～三二	早稲田大学大学院法 学研究科（博士課程） 昭三六・三 法学修士	明治大学政治経済科 大学部 大四・三 ワシントン州立大学 大学院政治科 大九・六 政治学博士	早稲田大学大学院法 学研究科公法学専攻 （博士課程） 昭三六・三 法学修士	早稲田大学文学部史 学科（旧制） 昭二六・三 同法学部大学院（旧 制）	早稲田大学旧制法学 部英法科 昭二六・三 同旧制大学院（特別 研究生） 昭三〇・四
著 論 五	著 論一四	著 論二三	著九 論多数	著六 論九	著四 論一四	著三 論三
4年	8年	8年	32年	9年	9年	14年
44.4 6,000	44.4 6,000	44.4 6,000	44.4 8,000	42.4 6,000	43.4 6,000	43.4 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
福寿　幸男 大一五・七・一三	土井　輝生 大一五・九・二	桜井　孝一 昭五・八・三一	弓家　七郎 明二四・七・七	新井　隆一 昭三・三・二	大畑　篤四郎 昭四・二・二六	小室　金之助 昭三・六・一五
国士舘大学 昭三九・一〇 講師（政治史）			明治大学 昭二四・四 教授（政治学、行 政学、地方行政、 比較憲法）			冨士短期大学 昭三九・四 教授（商法）
1229	1219	1209	1199	1189	1179	1169
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	有

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	法律学科専門科目
道徳教育研究 教育学及び教育史	教育原理	倫理学概論	哲学概論	地誌学概説	地理学概説	外国史概説	日本史概説
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼担
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	教授
文学部教育学科教育学専攻 教授 教育学	文学部教育学科教育学専攻 教授 教育学	文学部教育学科倫理学専攻 教授 倫理学	文学部教育学科倫理学専攻 教授 哲学	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学	文学部史学地理学科東洋史学専攻 教授 東洋史学	文学部史学地理学科国史学専攻 教授 国史学
2　2	2	2	2	2	2	2	2
2　2	2	2	2	2	2	2	2
早稲田大学文学部史学科 昭五・三 文学博士	東京高等師範学校専攻科修身教育学科 大一五・三	東京帝国大学大学院（倫理学） 大一五・三	東京帝国大学文学部哲学科 大一二・三	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三 文学博士	京都帝国大学大学院地理学専攻 大三・三 文学博士	東京帝国大学文学部東洋史学科 大一四・三	東京帝国大学文学部国史学科 昭五・三
著一一 論五四	著八 論一四	著三 論六	著四 論七	著二 論一七	著一八 論一三一	著七 論三〇	著八 論五
35年	40年	38年	40年	26年	40年	40年	35年
43.4 8,000	42.4 8,000	42.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	42.4 8,000	42.4 8,000	43.4 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	男
尾形　裕康 明三〇・二・二九	前野　喜代治 明三二・四・一〇	木村　伊勢雄 明三五・三・二	橘高　倫一 明三〇・一・一	大橋　与一 明三二・八・一〇	内田　寛一 明二一・三・三	植村　清一 明三四・一・三〇	藤木　邦彦 明四〇・五・三
早稲田大学 昭二六・三 教授（教育学）	弘前大学 昭二九・四 教授（教育学）	東京学芸大学 昭二四・四 教授（倫理学）	宇都宮大学 昭二八・四 教授（哲学）	宇都宮大学 昭二六・三 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四 教授 国士舘大学大学院 昭三九・一一 教授（地理学）	新潟大学 昭二四・四 教授（史学概論、東洋史学）	東京大学 昭二四・六 教授（国史学）
1245	1237	1427	1453	1683	1641	1591	1523
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
		有					
							昭四三・三 停年退官（東大）

三、文学部（専門科目）

教育学科専攻専門科目	授業科目の区分		担当授業科目名	専任兼担兼任の別	職名	兼任または担当の場合専任の職務および担当学科等名	毎週授業時数 講義	演習	実習実験	計	最終卒業学校学部学科名卒業年月および学位称号	著書および学術論文数	教歴	採用年月および月額基本給	性別	氏名生年月日	備考	教員個人調書頁数	承諾書の有無	所属長の就任承諾書の有無	記事
教育学科Ⅱ	教育学演習Ⅰ	教育原論	教育思潮	専任	教授		2	4		2	東京高等師範学校専攻科修身教育学科 大一五・三	著八 論一四	40年	41.4 80,000	男	前野喜代治 明三一・四・一〇	弘前大学 昭二九・四 教授（教育学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（教育原理）	1237	有		
〃			教育心理学（青年心理学を含む）	兼任	講師	共立女子大学教授、心理学、教育心理学	2			2	日本大学大学院文学研究科心理学専攻（博士課程） 昭三二・三 文学修士	著六 論一七	10年	42.4 6,000	〃	高島正士 大一四・八・二三	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（心理学、教育心理学、青年心理学）	1335	有	〃	
〃			社会教育法 教育実習	〃	講師	文学部教育学科教育学専攻講師 教育学	2		2	2	東京高等師範学校研究科（修身科） 昭五・三	著一二 論一	25年	43.4 4,000	〃	下地恵常 明三七・五・一一	千葉敬愛短期大学 昭三六・八 講師（教育社会学）	1289	〃	〃	
〃			教育行政	〃	〃	同右教授、教育行政、教育原理、学校管理	2			2	東京文理科大学教育学科 昭七・三	著二 論三五	22年	43.4 8,000	〃	森純吾 明三六・五・一三	岩手大学 昭二四・二 教授（教育行政、教育原理、学校管理）	1255	〃		
〃			図書館学	〃	〃	共立女子大学教授 図書館学	2			2	東京帝国大学文学部国文学科 昭三・三	著六 論多数	14年	43.4 8,000	〃	土井重義 明三七・九・三	共立女子大学 昭三九・四 教授（図書館学）	2057	〃	〃	

○

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	教育学科教育学専攻専門科目
倫理学概論	教育方法論 教育学演習Ⅰ	教育社会学 社会教育概論 道徳教育研究	体育原理 体育管理 体育学演習 体育運動方法	衛生学 学校保健	教育哲学 教育学演習Ⅱ 成人及び青少年指導 社会倫理	教育行政 教育法規研究	日本教育史 教育学演習Ⅰ 道徳教育研究
兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃	専任
教授	〃	講師	〃	〃	〃	〃	教授
文学部教育学科倫理学専攻 教授 倫理学							
2	2	2 2 2	2 2 2	2 2	2 2 2	2 2	2 2
	2		2		2		4
2	2 2	2 2 2	2 2 2 2	2 2	2 2 2 2	2 2	2 4 2
東京帝国大学大学院 （倫理学） 大一五・三	早稲田大学大学院文学研究科（修士課程） 昭三二・三 文学博士	東京高等師範学校研究科（修身科） 昭五・三	東京高等師範学校 大一二・三	東京帝国大学医学部 大二・一二 医学博士	東京帝国大学文学部哲学科 昭八・三 同大学法学部研究室 昭一一・四以降	東京文理科大学教育学科 昭七・三	早稲田大学史学部史学科 昭五・三 文学博士
著三 論六	著四 論七	著一二 論一	著一〇 論多数	著四 論多数	著一 論一九	著二 論三五	著一一 論五四
38年	1年	25年	41年	16年	8年	22年	35年
42.4 8,000	41.4 40,000	41.4 40,000	41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 80,000	42.4 80,000
男	男	男	男	男	男	男	男
木村 明三五・三・二 伊勢雄	長田 昭七・一・六 三男	下地 明三七・五・一一 恵常	三橋 明二七・一・一五 義雄	小金井 明二三・八・六 良一	小林 明三九・一〇・三一 高記	森 明三六・五・一三 純吾	尾形 明三〇・一・一九 裕康
東京学芸大学 昭二四・四 教授（倫理学）	国士舘大学 昭三九・一〇 講師（教育学）	千葉敬愛短期大学 昭三六・八 講師（教育社会学）	中央大学 昭二四・九 教授（体育原理、体育方法、体育管理）	国士舘大学 昭三二・一〇 教授（衛生学、栄養学）	早稲田大学 昭四〇・四 講師（社会倫理学、哲学概論）	岩手大学 昭二四・二 教授（教育行政、教育原理、学校管理）	早稲田大学 昭二六・三 教授（教育学）
1427	1297	1289	1281	1275	1267	1255	1245
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
有						有	
昭四二　専任教授就任							昭四一・三 早大停年退職

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
東洋倫理学史Ⅱ（インド）	体育及びレクリエーションⅡ	西洋倫理学史	体育運動測定演習	体育史	体育管理	体育原理
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	助教授	〃	〃	〃	〃	〃
文学部教育学科倫理学専攻助教授倫理学	教養部一部保健体育科目助教授体育理論、実技	文学部教育学科倫理学専攻教授倫理学	同右教授体育運動測定学、体育方法	体育学部体育学科教授体育方法、体育史	体育学部体育学科教授体育管理、体育方法	教養部一部保健体育科目教授体育理論学概論
2		2		2	2	2
			2			
	2					
2	2	2	2	2	2	2
東京大学文学部印度哲学梵文学科昭二五・三	日本体育大学体育学部体育科昭三一・三東京大学教育学部体育研究室三年修了昭三四・三	東京帝国大学大学院（倫理学）昭一一・一二一	東京教育大学体育学部体育学科昭三〇・三	東京教育大学体育学部昭三一・三	東京高等師範学校体育科甲組昭一〇・三	東京高等師範学校研究科大一二・三
著八論六八	著一論六	著五論八	著二論五	著一論七	著一論	著四論八七
15年	9年	19年	18年	18年	31年	49年
43.4 6,000	44.4 6,000	43.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	42.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男
大類　純大一二・三・一〇	服部　利夫昭五・一一・一三	阿部　秀夫明四三・二・一八	坂井　正郎大一〇・一〇・四	石田　啓大一一・七・一二	金子　藤吉明四四・四・二四	下津屋　俊夫明二九・三・一八
日本大学昭二八・五講師東洋大学昭三一・四講師（インド哲学、倫理学）	国士舘大学昭三四・四講師（体育方法）国士舘大学昭三九・一〇講師（体育実技）	国士舘大学昭三九・一〇教授（倫理学、独語）	国士舘大学昭三二・一一助教授（体育測定学、体育方法）	国士舘大学昭三二・一一助教授（体育方法、体育史）	国士舘大学昭三二・一〇教授（体育管理、体育方法）	横浜国立大学昭二四・一一教授（体育学）
1461	793	1437	1317	1309	1303	785
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

							○
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	教育学科専攻 教育学専門科目
学校保健	生理学	西洋教育史	教育財政学	教育心理学	東洋教育史 東洋倫理学史Ⅱ（中国） 学校教育概論	宗教学概論	教育方法論 教育史 教育社会学
〃	〃	〃	〃	〃	兼任	〃	兼担
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	講師
東京教育大学 教授 運動医学	東京教育大学 助手 運動生理学	日本大学文理学部 助教授 教育学	早稲田大学 教授 教育行政、教育財政	共立女子大学 教授 心理学、教育心理学	中央大学 教授 東洋史学、教育学	教養部一部一 般体育講師 宗教学	教養部一部一 般体育講師 教育学
2	2	2	2	2	2　2　2	2	2　2　2
2	2	2	2	2	2　2　2	2	2　2　2
日本医科大学 昭一六・一一 医学博士	東京教育大学体育学部健康学科（生理） 昭二八・三 東京慈恵会医科大学専攻科（第二生理） 昭二九・四・一入学	東京大学大学院人文科学研究科教育学専攻（博士課程） 昭三三・三 教育学博士	東京帝国大学大学院 昭一三・四 法学博士	日本大学大学院文学研究科心理学専攻（博士課程） 昭三二・三 文学修士	東京文理科大学文学部史学科 昭二四・三 文学博士	大正大学大学院文学研究科（宗教哲学専攻） 昭三六・三 文学修士	東京教育大学大学院教育学研究科博士課程 昭四〇・三 教育学修士
著七 論一六	著五 論五二	著四 論一二	著五 論一九	著六 論一七	著一〇 論一六	著 論四	著五 論一四
23年	12年	6年	16年	10年	24年	6年	2年
43.4 8,000	42.4 4,000	41.4 6,000	43.4 8,000	42.4 8,000	41.4 8,000	44.4 4,000	41.4 40,000
男	男	男	男	男	男	男	男
豊田　章 大三・三・三一	阿久津　邦男 昭三・六・二四	尾形　利雄 大一一・一・二七	三宅　太郎 明四五・二・一〇	高島　正士 大一四・八・二三	多賀　秋五郎 大元・一〇・一九	見田　政尚 大六・二一・一六	深谷　昌志 昭八・九・一六
東京教育大学 昭二九・一一 教授（運動医学）	慈恵会医科大学 昭三六・四 助教授（運動生理学）	日本大学 昭三八・四 助教授（教育学）		国士舘大学 昭三九・一〇 教授（心理学、教育心理学、青年心理学）	中央大学 昭三四・四 教授（東洋史学、教育学）	大正大学 昭三七・四 講師（宗教学）	
1377	1365	1355	1345	1335	1325	225	425
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
〃	〃	〃	〃	〃	有		

〃	〃	〃	教育学科倫理学専攻専門科目	〃 ○	〃 ○	〃	〃 ○
哲学研究Ⅰ	日本倫理学史概論 倫理学概論 倫理学演習Ⅰ 道徳教育研究	倫理学概論 西洋倫理学史 倫理学演習Ⅱ 原典講読ⅠⅡ（西洋文献講読）	倫理学概論 倫理学演習Ⅰ	体育行政学	教育社会学	体育及びレクリエーション	職業指導
〃	〃	〃	専任	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	教授	〃	〃	〃	〃
				国立競技場理事長	早稲田大学教育学部助手教育学	早稲田大学講師（非常勤）博物館学、体育及びレクリエーション	新宿区立大久保中学校長
2	2　2　2	4　2　2	4	2	2	2	2
	2	2	2				
2	2　2　2　2	4　2　2　2	2　4	2	2	2	2
東京帝国大学文学部哲学科 大一二・三	東京帝国大学文学部倫理学科 大一一・三	東京帝国大学大学院（倫理学） 昭一一・一二	東京帝国大学大学院（倫理学） 大一五・三	東京帝国大学文学部東洋史学科 昭八・三	早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻（博士課程） 昭三九・三 文学修士	日本大学法文学部文学科 昭一八・九	日本大学文学部史学専攻 昭一九・九
著四 論七	著一五 論一三	著五 論八	著三 論六	著一 論	著 論一四	著 論三九	著二 論一六
40年	35年	19年	38年	5年	1年	13年	36年
41.4 80,000	42.4 80,000	41.4 80,000	42.4 80,000	44.4 8,000	44.4 4,000	43.4 4,000	43.4 4,000
男	男	男	男	男	男	男	男
橘高　倫一 明三〇・一一・一	馬場　文翁 明二九・一一・五	阿部　秀夫 明四三・一一・一八	木村　伊勢雄 明三五・三・二	前田　充明 明四二・一一・一七	大槻　宏樹 昭八・二・五	富士川　金二 明三五・四・二九	小倉　竹治 昭四一・九・七
宇都宮大学 昭二八・四 教授（哲学）	東洋大学 昭二八・四 教授（倫理学、独語）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（倫理学、独語）	東京学芸大学 昭二四・四 教授（倫理学）			早稲田大学 昭二七・四 講師（博物館学、体育及びレクリエーション）	
1453	1445	1437	1427	1419	1409	1397	1387
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
			〃	〃	有		〃
							昭四三 停年退職

	○			○	○	○
〃	〃	〃	〃	〃	〃	教育学科専攻専門科目 倫理学科目
原典講読Ⅰ（東洋文献講読）	哲学研究Ⅱ	倫理学概論 西洋倫理学史 哲学研究Ⅰ	日本教育史 原典講読ⅠⅡ 道徳教育研究	倫理学演習Ⅰ Ⅱ	日本倫理学史 概論 倫理学演習Ⅰ	東洋倫理学史 Ⅱ（インド） 倫理学演習Ⅱ 原典講読ⅠⅡ（東洋文献講読）
〃	〃	〃	兼担	〃	〃	専任
〃	〃	〃	教授	助教授	講師	助教授
文学部文学科 漢学専攻 教授 漢学	同右 教授 物理学、自然科学概論	教養部一部一般教育 教授 哲学、倫理学、論理学	文学部教育学科 教育学専攻 教授 教育学			
2	2	6	2　4　2		2	4　2
				4	2	2
2	2	6	2　4　2	4	2　2	4　2　2
東京文理科大学文学部 昭九・三 文学博士	京都帝国大学理学部 化学科 昭四・三	早稲田大学文学部大学院 大一五・三	早稲田大学文学部史学科 昭五・三 文学博士	東京文理科大学研究科哲学専攻特別研究生 昭二八・三	東京大学大学院 昭二三・一〇	東京大学文学部印度哲学梵文学科 昭二五・三
著一二 論一八	著六 論一〇三	著五 論一九外	著一一 論五四	著二 論四	著三 論二	著八 論六八
23年	36年	40年	35年	10年	6年	15年
43.4 8,000	44.4 8,000	43.4 8,000	42.4 8,000	41.4 40,000	41.4 40,000	41.4 65,000
男	男	男	男	男	男	男
市川　本太郎 明三一・八・五	小田切　瑞穂 明三七・七・一三	小山　甫文 明三一・一・三	尾形　裕康 明三〇・二・二九	丸山　三郎 大一三・六・二八	渡辺　寿伝治 大二・九・二九	大類　純 大一二・三・一〇
信州大学 昭二五・四 教授（中国哲学、中国文学）	近畿大学 昭二九・九 教授（物理学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（自然科学概論）	早稲田大学 昭二四・四 教授（哲学、倫理学、論理学） 昭二八・四 教授（大学院）（哲学、倫理学）	早稲田大学 昭二六・三 教授（教育学）	東京教育大学 昭三八・四 講師（倫理学）		日本大学 昭二八・五 講師 東洋大学 昭三一・四 講師（インド哲学、倫理学）
1751	533	197	1245	1485	1477	1461
〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
				有		

○

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
宗教学概論	社会教育概論	体育原理	教育行政 教育法規研究	教育原論 教育思潮	社会倫理 成人及び青少年指導	経学特講 原典講読Ⅱ（東洋文献講読）
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	講師	〃	〃	〃	〃	〃
教養部一部一般教育講師宗教学	文学部教育学科教育学専攻講師教育学	教養部一部保健体育教授体育学概論	同右教授教育原理、教育行政学、学校管理	同右教授教育学	文学部教育学科教育学専攻教授社会倫理学、教育哲学	同右
2	2	2	2　2	2　2	2　2	2　2
2	2	2	2　2	2　2	2　2	2　2
大正大学大学院文学研究科（宗教哲学専攻）昭三六・三文学修士	東京高等師範学校研究科（修身科）昭五・三	東京高等師範学校研究科大一二・三	東京文理科大学教育学科昭七・三	東京高等師範学校専攻科修身教育学科大一五・三	東京帝国大学文学部哲学科昭八・三同大学法学部研究室昭一一・四以降	日本大学高等師範部国語漢文科昭八・三大東文化学院高等科昭一三・三
著論四	著論一一二	著論八七	著論三五	著論一四	著論一九	著論一六
6年	25年	49年	22年	40年	8年	22年
44.4 4,000	42.4 4,000	42.4 8,000	42.4 8,000	41.4 8,000	43.4 8,000	44.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男
見田　政尚 大六・一二・一六	下地　恵常 明三七・五・一一	下津屋　俊夫 明二九・三・一八	森　純吾 明三六・五・一三	前野　喜代治 明三二・四・一〇	小林　高記 明三九・一〇・三一	山崎　道夫 明三七・九・二八
大正大学 昭三七・四 講師（宗教学）	千葉敬愛短期大学 昭三六・八 講師（教育学）	横浜国立大学 昭二四・一一 教授（体育学）	岩手大学 昭二四・二 教授（教育行政学、教育原理、学校管理）	弘前大学 昭二九・四 教授（教育学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（教育原理）	早稲田大学 昭四〇・四 講師（社会倫理学、教育哲学）	東京学芸大学 昭三六・一 教授（漢文学）
225	1289	785	1255	1237	1267	1739
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
						有
						四三・三　停年退職（東学大）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	教育学科倫理学専攻専門科目
学校保健	生理学	体育及びレクリエーション	職業指導	西洋教育史	東洋倫理学史Ⅰ（中国） 東洋倫理特講	教育心理学	東洋教育史
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼任
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	講師
東京教育大学教授 運動医学	東京教育大学助手 運動生理学	早稲田大学講師（非常勤） 博物館学、体育及びレクリエーション	新宿区立大久保中学校長	日本大学文理学部助教授 教育学	東京大学同大学院教授 中国哲学	共立女子大学教授 心理学、教育心理学	中央大学教授 教育学、東洋史学
2	2	2	2	2	2　2	2	2
2	2	2	2	2	2　2	2	2
日本医科大学 昭一六・一二一 医学博士	東京教育大学体育学部健康学科（生理） 昭二八・三 東京慈恵会医科大学専攻科 昭二九・四・一入学	日本大学文学部文学科 昭一八・九	日本大学文学部史学専攻 昭一九・九	東京大学大学院人文科学研究科教育学専攻（博士課程） 昭三三・三 教育学博士	東京帝国大学文学部支那哲学科 昭三・三 文学博士	日本大学大学院文学研究科心理学専攻（博士課程） 昭三二・三 文学修士	東京文理科大学文学部史学科 昭二四・三 文学博士
著七 論一六	著五 論五二	著 論三九	著二 論一六	著四 論一二	著一三 論三〇	著六 論一七	著一〇 論一六
23年	12年	13年	36年	6年	37年	8年	24年
43.4 8,000	42.4 4,000	43.4 4,000	43.4 4,000	43.4 6,000	42.4 8,000	42.4 8,000	42.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男	男
豊田　章 大三・三・三一	阿久津　邦男 昭三・六・二四	富士川　金二 明三五・四・二九	小倉　竹治 昭四一・九・七	尾形　利雄 大一一・二・二七	阿部　吉雄 明三八・五・一二	高島　正士 大一四・八・二三	多賀　秋五郎 大元・一〇・一九
東京教育大学 昭二九・一一 教授（運動医学）	慈恵会医科大学 昭三六・四 助教授（運動生理学）	早稲田大学 昭二七・四 講師（博物館学、体育及びレクリエーション）		日本大学 昭三八・四 助教授（教育学）	東京大学 昭二四・六 教授（中国哲学）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（心理学、教育心理学、青年心理学）	中央大学 昭三四・四 教授（教育学、東洋史学）
1377	1365	1397	1387	1355	1495	1335	1325
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
〃	有		〃	有		〃	有
			四三・三 停年退職		四一・三 東大停年退官		

○	○	○		○
〃	文学地理学科国史学専攻専門科目	〃	〃	〃
教育社会学	国史概説(上) 国史特殊講義(中世) 国史講読(中世) 古文書学 国史演習ⅠⅡ	国史概説(下) 国史特殊講義Ⅴ(近世) 国史特殊講義Ⅷ(日鮮交渉史) 国史講読Ⅲ(近世) 国史演習ⅠⅡ	国史概説(上) 国史特講Ⅰ(上代Ⅰ) 国史講読(上代) 国史演習ⅠⅡ	国史特講Ⅳ(中世Ⅱ) 国史演習ⅠⅡ 歴史地理学 同右実習
〃	専任	〃	〃	〃
〃	教授	〃	〃	〃
早稲田大学教育学部助手 教育学				
2	2　2　2　2	2　2　2　2	2　2　2	2　2
	4	4	4	4　2
2	2　2　2　2　4	2　2　2　2　4	2　2　2　4	2　4　2　2
早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻(博士課程) 昭三九・三 文学修士	国学院大学文学部国史学科 昭四・三 文学博士	東京帝国大学文学部国史学科 昭七・三 同大学院修了 昭九・三	東京帝国大学文学部国史学科 昭五・三	東京帝国大学大学院 昭一一・三
著 論一四	著四 論九	著四 論五	著八 論五	著三 文化財指定一四〇
1年	36年	19年	35年	27年
44.4 4,000	41.4 80,000	41.4 80,000	43.4 80,000	42.4 80,000
男	男	男	男	男
大槻　宏樹 昭八・二・一五	村田　正志 明三七・九・二三	黒田　省三 明四〇・一〇・一〇	藤木　邦彦 明四〇・五・三	黒板　昌夫 明三九・八・二一
	東京大学 昭二九・四 助教授(国史学)	専修大学 昭二四・四 講師 名古屋大学 昭三九・四 講師(国史学)	東京大学 昭二四・六 教授(国史学)	
1409	1503	1511	1523	1531
〃	〃	〃	〃	〃
〃				
			昭四三・三 東大停年退官	昭四二・三　文化財保護委主任調査官停年退官

			○		
〃	〃	〃	〃	〃	文学地理学科国史学専攻専門科目
東洋史特講Ⅱ	東洋史概説（下） 東洋史講読Ⅱ	東洋史概説（上） 東洋史講読Ⅰ	国史特講Ⅶ（近代史、政治外交史）	東洋史特講Ⅰ 史学概論	国史特講Ⅵ（近代Ⅰ） 国史演習ⅠⅡ
〃	〃	〃	〃	兼担	専任
〃	〃	〃	〃	〃	教授
同右	同右	文学部史学地理学科東洋史学専攻 教授 東洋史学	政経学部一部政治学科 教授 国際政治学	文学部史学地理学科東洋史学専攻 教授 東洋史学	
2	2　2	2　2	2	2　2	2
					4
2	2　2	2　2	2	2　2	4　2
東京文理科大学史学科（東洋史学専攻） 大一四・三 文学博士	京都帝大文科大学史学科（東洋史学専攻） 明四四・九・一四 同大学院修了 大七・三 文学博士	京都帝国大学文学部東洋史学科 昭二・三 同大学院修了 昭六・六 文学博士	東京帝大法科大学院 大六・一一 法学博士	東京帝国大学文学部東洋史学科 大一四・三	東京帝国大学文学部国史学科 昭一三・三
著四 論二四	著五 論二六	著九 論一四	著一九 論約二〇 〇	著七 論三〇	著六 論一五
20年	41年	34年	49年	40年	25年
44.4 8,000	42.4 8,000	41.4 8,000	44.4 8,000	43.4 8,000	41.4 80,000
男	男	男	男	男	男
村上 大三・一・四男	有高 明一七・一・一五	曽我部 明三四・一〇・一七	神川 明二二・一二・二三	植村 明三四・一・三〇	上杉 大三・八・二九
和歌山大学 昭三五・一一 教授（東洋史学）	立正大学 昭二四・四 教授（東洋史学）	東北大学 昭二四・四 教授（東洋史学）	東京大学 昭二四・四 国士舘大学大学院 昭三九・一一 教授（国際政治学）	新潟大学 昭二四・四 教授（史学概論、東洋史学）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（日本史、正史） 講師（独語）
1611	1583	1601	1545	1591	1539
〃	〃	〃	〃	〃	有
有					
昭四・三　和歌山大退官、本学専任就任					

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
国史概説（上） 国史特講Ⅱ（上代Ⅱ）	国文講読	国語学演習	漢学講読	外国地理Ⅱ（アジア） 〃Ⅲ（欧州、アフリカ） 〃Ⅳ（アメリカ）	日本地理 外国地理Ⅰ（ソビエト）	地理学概説 外国地理Ⅴ（オセアニア、両極地方）
兼任	〃	〃	〃	〃	〃	〃
講師	助教授	〃	〃	〃	〃	〃
文部省文化財保護委員会文部技官	同右 助教授 国文学	文学部文学科国語国文学専攻 教授 国語学	文学部文学科漢学専攻 教授 漢学	同右	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学
2　2	2		2	2　2　2	2　2	2　2
		2				
2	2	2	2	2　2　2	2　2	2　2
国学院大学大学院日本史学専攻（博士課程） 文学修士	早稲田大学文学部文学科（国文学専攻） 昭二三・二 同大学院修了	東京高等師範学校研究科（国語） 大八・三	日本大学高等師範部国語漢文科 昭八・三 大東文化学院高等科 昭一三・二二	東北帝大理学部地質学古生物学科 大一三・三 理学博士	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三 文学博士	京都帝大文科大学史学科地理学専攻 大二・七 同大学院修了 大三・三 文学博士
著一 論一一	著一 論一九	著一一 論六	著四 論一六	著八 論三〇	著二 論一七	著一八 論一三一
4年	8年	46年	22年	45年	26年	40年
41.4 4,000	43.4 6,000	43.4 8,000	44.4 8,000	43.4 8,000	41.4 8,000	42.4 8,000
男	男	男			男	男
山本信吉 昭七・七・一八	今成元昭 大一四・一一・三〇	岩井良雄 明二四・一〇・一七	山崎道夫 明三七・九・二八	冨田芳郎 明二八・四・八	大橋与一 明三二・八・一〇	内田寛一 明二一・三・三
		東京教育大学 昭二四・八 教授 都留文科大学 昭三五・四 教授（国語学）	東京学芸大学 昭三六・一 教授（漢文学）	日本大学 昭二四・四 教授（地理学）	宇都宮大学 昭二六・二 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四 教授 国士舘大大学院 昭三九・一一 教授（経済地理学）
1555	1903	1815	1739	1655	1683	1641
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
有		〃	有			
		四二・三 都留文大退職	四三・三　東 洋大停年退官			

〃	〃	東洋史学専攻	〃	〃	国史学専攻
東洋史概説（上） 東洋史特講Ⅱ 東洋史講読Ⅰ（隋唐） 東洋史演習Ⅰ Ⅱ 日中律令史	史学概論 東洋史演習Ⅰ Ⅱ 東洋史特講Ⅲ（宋元） 西域史概説 外国史概説	東洋史概説（下） 東洋史特講Ⅲ（宋元） 東洋史講読Ⅱ 同演習Ⅰ Ⅱ	国文学史	歴史考古学	西洋史概説
〃	〃	専任	〃	〃	兼任
〃	〃	教授	〃	〃	講師
			実践女子大学教授 国文学	文部省文化財保護委員会調査官	千葉大学文理学部助教授 西洋史学
2　2　2　2	2　2　2　2	2　2　2	2	2	2
4	2	4			
2　4　2　2　2	2　2　2　2　2	4　2　2　2	2	2	2
京都帝大大学院東洋史学研究科修了 昭六・六 文学博士	東京帝大文学部東洋史学科 大一四・三	京都帝国大学文科大学史学科（東洋史学専攻）、同大学院修了 大七・三 文学博士	東京帝大文学部国文学科 大一五・三	東京文理科大学文学部国史学科 昭二二・九	東京帝大文学部西洋史学科 昭一八・九
著九 論一四	著七 論三〇	著五 論二六	著六 論八	著 論	著一二 論六
34年	40年	41年	40年	15年	21年
41.4 80,000	41.4 80,000	41.4 80,000	44.4 8,000	43.4 4,000	44.4 6,000
男	男	男	男	男	男
曽我部　静雄 明三四・一〇・一七	種村　清一 明三四・一・三〇	有高　巌 明一七・一・一五	窪田　敏夫 明三二・一・二八	三宅　敏之 大一二・八・一八	阿部　玄治 大一〇・三・一九
東北大学 昭二四・四 教授（東洋史学）	新潟大学 昭二四・四 教授（史学概論、東洋史学）	立正大学 昭二四・四 教授（東洋史学）	金沢大学 昭二四・五 実践女子大学 昭三五・三 教授（国文学）	横浜国立大学 昭四〇・四 講師（歴史考古学）	千葉大学 昭三五・四 助教授（西洋史学）
1601	1591	1583	1955	1575	1565
〃	〃	〃	〃	〃	有
			〃	〃	有

〃	〃	〃	〃	〃	〃
国史概説（下） 国史特講Ⅱ 国史講読Ⅲ	国史概説（上） 国史特講Ⅰ 国史講読Ⅰ	国史概説（上） 国史特講Ⅲ 国史講読Ⅱ	東洋史特講Ⅳ（現代外交史）	東洋史演習Ⅰ Ⅱ	東洋史特講Ⅰ（三代秦漢南北朝） 東洋史演習Ⅰ Ⅱ 朝鮮史概説
〃	〃	〃	兼担	〃	〃
〃	〃	〃	教授	講師	〃
同右	同右	文学部史学地理学科国史学専攻 教授 国史学	政経学部一部 政治学科 教授 国際法、外交史		
2　2　2	2　2　2	2　2　2	2		2　4　2
				4	
2　2　2	2　2　2	2　2　2	2	4	2　4　2
東京帝大大学院国史学研究終了 昭九・三	東京帝大文学部国史学科 昭五・三	国学院大学文学部国史学科 昭四・三 文学博士	山口高等商業学校 明四一・三 法学博士	東北大学文学部東洋史学科 昭三二・三	東京文理科大学史学科（東洋史学専攻） 大一四・三 文学博士
著四 論五	著八 論五	著四 論九	著一二 論二〇	著 論三	著四 論二四
19年	35年	36年	15年	2年	20年
44.4 8,000	43.4 8,000	41.4 8,000	44.4 8,000	42.4 40,000	44.4 80,000
男	男	男	男		男
黒田省三 明四〇・一〇・一〇	藤木邦彦 明四〇・五・三	村田正志 明三七・九・二三	田村幸策 明二〇・三・五	小岩井弘光 昭九・六・九	村上四男 大三・一・一一
専修大学 昭二四・四 名古屋大学 昭三九・四 講師（国史学）	東京大学 昭二四・六 教授（国史学）	東京大学 昭二九・四 助教授（国史学）	中央大学 昭一四・四 教授 国士舘大学大学院 昭三九・一一 教授（国際法、外交史）		和歌山大学 昭三五・一一 教授（東洋史学）
1511	1523	1503	991	1623	1611
〃	〃	〃	〃	〃	〃
				〃	有
	四三・三 東大停年退官				昭四・三　和歌山大 退官、本学専任就任

〃	〃	〃	〃	〃	史学地理学科東洋史学専攻専門科目
漢学講読 漢文学史	漢学概論	外国地理Ⅱ（アジア） 〃Ⅲ（欧州、アフリカ） 〃Ⅳ（アメリカ）	日本地理 外国地理（ソヴィエト）	地理学概説 外国地理Ⅴ（オセアニア、両極地方）	歴史地理学 同実習
〃	〃	〃	〃	〃	兼担
〃	〃	〃	〃	〃	教授
文学部文学科 漢学専攻 教授 漢学	文学部文学科 漢学専攻 教授 漢学	同右	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学	同右
2　2	2	2　2　2	2　2	2　2	2
					2
2　2	2	2　2　2	2　2	2　2	2　2
東京文理科大学文学部漢文学科 昭九・二・二 文学博士	日本大学高等師範部国語漢文科 昭八・二・二 大東文化学院高等科 昭一三・二・二	東北帝大理学部地質学古生物学科 大一三・二・二 理学博士	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・二・二 文学博士	京都帝大大学院地理学専攻修了 大三・二・二 文学博士	東京帝国大学大学院 昭一一・二・二
著一二 論一八	著四 論一六	著八 論三〇	著二 論一七	著一八 論一三一	著三 文化財指定一四〇
23年	22年	45年	26年	40年	27年
43.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	41.4 8,000	42.4 8,000	42.4 8,000
男	男	男	男	男	男
市川　本太郎 明三一・八・五	山崎　道夫 明三七・九・二八	冨田　芳郎 明二八・四・八	大橋　与一 明三二・八・一〇	内田　寛一 明二一・三・三	黒板　昌夫 明三九・八・二一
信州大学 昭二五・四 教授（中国哲学、中国文学）	東京学芸大学 昭三六・一 教授（漢文学）	日本大学 昭二四・四・四 教授（地理学）	宇都宮大学 昭二六・二・一 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四・四 教授 国士舘大学大学院 昭三九・一・一 教授（経済地理学）	
1751	1739	1655	1683	1641	1531
〃	〃	〃	〃	〃	有
	有				
	四三・三　東学大停年退官				四二・三　文化財保護委主任調査官停年退官

〃	史学地理学科地理学専攻専門科目	〃	〃	〃	〃
地形学 外国地理Ⅱ Ⅲ Ⅳ（アジア、欧州、アフリカ、アメリカ） 地理学演習 地図研究 地理巡見 宿泊調査	地理学概説 人口集落 歴史地理学 経済地理学 地理学演習 外国地理Ⅴ（オセアニア、両極地方） 地理巡見 宿泊調査	歴史考古学	西洋史概説	東洋史特講Ⅴ（最近世）	東洋史特講Ⅳ（明、清）
〃	専任	〃	〃	〃	兼任
〃	教授	〃	〃	〃	講師
		文部省文化財保護委員会調査官	千葉大学文理学部助教授 西洋史学	東京教育大学教授 東洋史学	中央大学教授 教育学、東洋史学
2　6　2	2　2　2　2　2	2	2	2	2
2　2　4	2　2　4				
2　2　2　4　6　2	2　2　2　4　2　2　2　2　2	2	2	2	2
東京帝大理学部地質学古生物学科 大一三・三 理学博士	京都帝大大学院地理学専攻修了 大三・二 文学博士	東京文理科大学文学部国史学科 昭二二・九	東京帝大文学部西洋史学科 昭一八・九	東京文理科大学東洋史学科 昭一〇・三 文学博士	東京文理科大学文学部史学科 昭二四・三 文学博士
著八 論三〇	著一八 論一三一	著 論一〇	著一二 論四	著六 論二	著一〇 論一六
45年	40年	15年	21年	30年	24年
41.4 80,000	41.4 80,000	43.4 4,000	44.4 6,000	43.4 8,000	43.4 8,000
男	男	男	男	男	男
冨田　芳郎 明二八・四・八	内田　寛一 明二一・三・三	三宅　敏之 大一二・八・一八	阿部　玄治 大一〇・三・一九	酒井　忠夫 明四五・三・二五	多賀　秋五郎 大元・一〇・一九
日本大学 昭二四・四 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四 教授 国士舘大学大学院 昭三九・一一 教授（経済地理学）	横浜国立大学 昭四〇・四 講師（歴史考古学）	千葉大学 昭三五・四 助教授（西洋史学）	東京教育大学 昭三九・六 教授（東洋史学）	中央大学 昭三四・四 教授（教育学、東洋史学）
1655	1641	1575	1565	1631	1325
〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	有

○

〃	〃	〃	〃	〃	史学地理学科地理学専攻専門科目
気候地理学 地理学実習 地理巡見 宿泊調査	東洋史概説	国史概説	地理学実習Ⅱ 地理学演習 地理巡見 宿泊調査	政治地理学 日本地理 外国地理Ⅰ（ソヴィエト） 地理学演習 地理巡見 宿泊調査	地質学 生物理地学 地理学実習Ⅰ 地理学演習 地図研究 地理巡見 宿泊調査
兼任	〃	兼担	〃	〃	専任
講師	〃	教授	講師	〃	教授
東京教育大学 教授 地理学	文学部史学地理学科東洋史学専攻 教授 （東洋史学）	文学部史学地理学科国史学専攻 教授 国史学			
2	2	2		2　2　2	2　2　2
4			4	4	4
2　2			2　2　2	2　2	2　2　2
2　2　4　2	2	2	2　2　4　2	2　2　4　2　2　2	2　2　2　4　2　2　2
東京帝大理学部地理学科 昭三・三 理学博士	京都帝大大学院東洋史学専攻修了 大七・三 文学博士	東京帝大文学部国史学科 昭五・三	日本大学高等師範部地歴科 昭一二・三 日本大学法学部史学科一年退学 昭一八・一〇	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三 文学博士	東京高等師範学校理科第三部甲組 昭二・三
著二 論一一六	著五 論二六	著八 論五	著五 論三 地図三	著二 論一七	著一九 論五四
36年	41年	35年	24年	26年	30年
44.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	42.4 40,000	41.4 80,000	41.4 80,000
男	男	男	男	男	男
福井　英一郎 明三八・九・九	有高　巌 明一七・一・一五	藤木　邦彦 明四〇・五・三	山本　正一 明四〇・一〇・一五	大橋　与一 明三二・八・一〇	山口　俊策 明三四・一・一〇
東京教育大学 昭二四・八 教授（地理学）	立正大学 昭二四・四 教授（東洋史学）	東京大学 昭二四・六 教授（国史学）		宇都宮大学 昭二六・三 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四 教授（地学、生物学、地理学）
1703	1583	1523	1693	1683	1669
〃	〃	〃	〃	〃	有
有			有		
		四三・三　東大停年退官	四二・三　都石神井高停年退職		

○

〃	〃	〃	文学科漢学専攻専門科目	〃	〃
経学演習Ⅱ（孟子集注） 詩文学演習Ⅲ（文選、白氏文集） 漢字学概論	経学演習Ⅰ（論語集注） 諸子学概説 詩文学史概論	経学講義（宋明哲学） 経学演習Ⅲ（大学、中庸） 日本漢文学史 日本漢文学演習（懐風藻、勅撰三集） 諸子学演習Ⅰ（荀子、韓非子）	経学講読（周易、書経） 経学特殊講義	地形学 地質学 地理学演習	西洋史概説
〃	〃	〃	専任	〃	〃
〃	〃	〃	教授	〃	〃
				立正大学講師（非常勤）	千葉大学文理学部助教授 西洋史学
2	2 2	2 2	2 2	2 2	2
2 2	2	2 2 2		4	
2 2 2	2 2 2	2 2 2 2 2	2 2	4 2 2	2
大東文化学院高等科 昭一〇・三 文学博士	東京文理科大学文学部漢文学科 昭九・三 文学博士	日本大学高等師範部 昭八・三 国語漢文科 大東文化学院高等科 昭一三・三	東京帝国大学大学院 修了 明三五・七 文学博士	東北帝国大学理学部 岩石鉱物鉱床学科 大一〇・三・三一 理学博士	東京帝大文学部西洋史学科 昭一八・九
著二 論一〇	著一二 論一八	著四 論一六	著六 他多数 論多数	著 論六六	著一二 論四
22年	23年	22年	62年	40年	21年
41.4 80,000	41.4 80,000	43.3 80,000	41.4 80,000	42.4 4,000	43.4 6,000
男	男	男	男	男	男
原田 種成 明四四・一・二	市川 本太郎 明三一・八・五	山崎 道夫 明三七・九・二八	宇野 哲人 明八・一一・一五	山口 鎌次 明二〇・三・一〇	阿部 玄治 大一〇・三・一九
群馬大学 昭二四・七 助教授 関東短期大学 昭三五・一〇 講師（漢文学）	信州大学 昭二五・四 教授（中国哲学、中国文学）	東京学芸大学 昭三六・一 教授（漢文学）	実践女子大学 昭二四・四 教授（漢文学）	島根大学 昭二四・七 教授（地質学、地学）	千葉大学 昭三五・四 助教授（西洋史学）
1761	1751	1739	1731	1713	1565
〃	〃	〃	〃	〃	〃
有		有			〃
		昭四一より四三まで兼任講師、四三・三東学大停年退官			

○	○	○	○		○	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	文学専攻科 漢学専門科目
古文書学	書道講義 同実習 書道史	国文学講読Ⅰ （上古）	国文学史Ⅱ （近世、近代）	国語学概論	詩文学演習Ⅱ （古文真宝後集） 同右Ⅳ（唐宋八家文） 漢詩文作法Ⅰ	詩文学演習Ⅰ （詩経、楚辞） 漢詩文作法Ⅱ 同右Ⅲ
〃	〃	〃	〃	兼担	〃	専任
〃	〃	〃	〃	教授	助教授	教授
文学部史学地理学科国史学専攻 教授 国史学	同右 教授 書道	同右 教授 国文学	同右 教授 国文学	文学部文学科国語国文学専攻 教授 国語学		
2	2　2	2	2	2		
					2　2　2	2　2　2
	2					
2	2　2　2	2	2	2	2　2　2	2　2　2
国学院大学文学部国史学科 昭四・三 文学博士	東京帝国大学文学部国文学科 昭一一・三	駒沢大学大学院人文科学研究科国文学専攻（修士課程） 昭三一・三 文学博士	早稲田大学文学部文学科（国文学専攻） 昭一七・九	東京高等師範学校研究科（国語） 大八・三	早稲田大学大学院（博士課程） 昭三七・五 文学修士	東京帝国大学文科大学（支那哲学専攻） 大六・七 文学博士
著四 論九	著五 論五五	著四 論一三	著四 論一二	著一一 論六	著四 論一三 作詩一五	著八 論多数
36年	8年	14年	20年	46年	22年	41年
44.4 8,000	42.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	41.4 8,000	41.4 65,000	41.4 80,000
男	男	女	男	男	男	男
村田　正志 明三七・九・二三	春名　好重 明四三・四・五	大窪　梅子 （筆名　若浜汐子） 明三六・九・一三	宮沢　林直 大八・四・二七	岩井　良雄 明二四・一〇・一七	福島　正義 明四〇・一一・一六	高田　真治 明二六・八・六
東京大学 昭二九・四 助教授（国史学）			国士舘大学 昭三二・一〇 助教授（国文学）	東京教育大学 昭二四・八 教授 都留文科大学 昭三五・四 教授（国語学）		大東文化大学 昭三一・四 教授（漢文学）
1503	1883	1863	1855	1815	1781	1771
〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
				〃	〃	有
				四一　講師、四二・三 都留文大退職、本学専任		

〃	〃	〃	〃	〃	〃
詩文学演習Ⅴ（明清文学）	国文学演習Ⅱ（中世文学）	言語学 音韻学	東洋史概説（下）	東洋史概説（上）	美術史
〃	〃	〃	〃	〃	〃
講師	助教授	〃	〃	〃	〃
教養部一部外国語科目講師、中国語、漢文学	文学部文学科国語国文学専攻助教授国文学	文学部文学科国語国文学専攻教授言語学、音韻学	同右	文学部史学地理学科東洋史学専攻教授東洋史学	教養部一般教育科目教授美学・美術史
		2　2	2	2	2
2	2				
2	2	2　2	2	2	2
東京教育大学大学院文学研究科中国古典文学専攻（修士課程）昭三八・三・二文学修士	早稲田大学大学院（国文学専攻）昭二八・二	東京帝国大学文学部言語学科昭四・三・同大学院昭八・三	京都帝国大学文科大学史学科（東洋史学専攻）明四四・九同右大学院大七・三文学博士	京都帝国大学文科大学東洋学科昭二・三同右大学院昭六・六文学博士	京都帝国大学工学部建築学科大一三・五東京帝国大学文学部美学・美術史学科昭四・三文学博士
著二論一三	著一論一九	著論多数	著五論二六	著九論一四	著一〇論四〇
8年	8年	37年	41年	34年	34年
43.3 4,000	42.4 6,000	44.4 80,000	44.4 8,000	43.4 8,000	44.4 8,000
男	男	男	男	男	男
許常安昭三・一・一	今成元昭大一四・一一・三〇	峯村三郎明三八・一二・一	有高巌明一七・一・一五	曽我部静雄明三四・一〇・一七	加藤泰明三二・九・一八
		東京水産大学昭二四・五教授（独逸語）大正大学昭三五・四講師（言語学）	立正大学昭二四・四教授（東洋史学）	東北大学昭二四・四教授（東洋史学）	広島大学昭二四・八教授（美学・美術史）
771	1903	1837	1583	1601	281
〃	〃	〃	〃	〃	〃
		有			
		四二・四より講師、四四・四より専任教授就任			

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	漢学科 専門科目 文学専攻
書誌学	国語学演習Ⅲ 言語学	国語学演習Ⅲ 言語学	国文学史Ⅰ （上古、中古、中世） 国文学演習Ⅰ （中古）	国文法	諸子学演習Ⅱ （荘子） 日本儒学	経学史概説 経学演習Ⅴ （礼記）	経学演習Ⅳ （左伝） 諸子学演習Ⅲ （老子）
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼任
教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃	講師
国士舘短期大学国文科 教授 国文学、文献学	東京外国語大学 助手 国語学、言語学	栃木学園短期大学 講師 国語学、言語学	実践女子大学 教授 国文学		東京大学同大学院 教授 中国哲学	東京大学 教授 中国文学	東京教育大学 教授 漢文学
2	2	2	2　2	2	2	2	
	2	2			2	2	2　2
2	2　2	2　2	2　2	2	2　2	2　2	2　2
東京外国語学校（露語専修） 大一五・三 東京帝国大学文学部 国文学科選修科 昭三・七 文学博士	国学院大学大学院文学研究科国語学専攻 修士課程 昭三六・三 文学修士	国学院大学文学研究科国語学専攻博士課程 昭三九・三 文学修士	東京帝国大学文学部 国文学科 大一五・三	早稲田大学大学院 （修士課程）国文学専攻	東京帝国大学文学部 支那哲学科 昭三・三 文学博士	東京大学大学院 昭一二・四 文学博士	東京文理科大学文学 科漢文学専攻 昭一二・三 文学博士
著一一 論四	著 論三	著 論六	著六 論八	著四 論一一	著一三 論三〇	著四 論三一	著四 論一四
8年	5年	8年	40年	22年	37年	29年	28年
44.4 8,000	42.4 4,000	42.4 4,000	43.4 8,000	42.4 4,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男	男
岡野　他家夫 明三四・八・一四	小杉　商一 昭一〇・四・一八	森　昇一 昭七・二〇・八	窪田　敏夫 明三二・二・二八	堀内　武雄 大二・八・一	阿部　吉雄 明三八・五・一二	宇野　精一 明四三・一二・五	鎌田　正 明四四・一・七
日本大学 昭二五・四 教授（日本文学史、図書館学）			金沢大学 昭二四・五 実践女子大学 昭三五・三 教授（国文学）		東京大学 昭二四・六 教授（中国哲学）	東京大学 昭三〇・四 教授（中国文学）	東京教育大学 昭三二・一〇 教授（漢文学）
1921	2017	2007	1955	1937	1495	1805	1793
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
	〃	〃	〃	有		〃	有
					四一・三　停 年退官（東大）		

○

〃	〃	〃	〃	文学科国語国文学専攻専門科目	〃
国文学史Ⅱ（近世、近代） 国文学講読Ⅴ（近代文学） 作家研究Ⅱ 国文学演習Ⅴ（近代文学）	日本文学思潮Ⅱ 作家研究Ⅳ 国文学演習Ⅵ	言語学 音韻学	国語史学 国語学演習Ⅲ	国文学史 国語学概論（音韻語彙文法を含む） 国文法 国語学講読 〃　演習Ⅳ	書道講義 同右実習 書道史
〃	〃	〃	〃	専任	〃
〃	〃	〃	〃	教授	講師
					東京学芸大学 助教授 書道
2　2　2	2　2	2　2	2	2　2　2　2	2　2
	2		2	2	
					2
2　2　2	2　2　2	2　2	2　2	2　2　2　2　2	2　2　2
早稲田大学文学部文学科（国文学専攻） 昭一七・九 東京大学大学院（文科国文科） 昭二五・三	東京帝国大学国文学科 昭一一・三	東京帝国大学文学部言語学科 昭四・三 同大学院 昭八・三	国学院大学師範部国語漢文科 大八・七 文学博士	東京高等師範学校研究科（国語） 大八・三	岡崎師範学校 昭四・三 文部省習字科検定試験合格 昭九・七
著四 論一二	著論 三三	著論 多数	著五 論九	著一一 論六	著五 論一 入選作三
20年	31年	37年	41年	46年	23年
41.4 80,000	41.4 80,000	44.4 80,000	41.4 80,000	42.4 80,000	41.4 6,000
男	男	男	男	男	男
宮沢　林直 大八・四・二七	酒井　森之介 明四三・一一・一四	峯村　三郎 明三八・一二・一	安田　喜代門 明二九・八・一〇	岩井　良雄 明二四・一〇・一七	伊東　寿 明四三・一〇・二八
国士舘大学 昭三二・一〇 助教授（国文学）	東京文科大学 昭二五・一一 教授（国文学）	東京水産大学 昭二四・五 教授（独逸語） 大正大学 昭三五・四 講師（言語学）	二松学舎大学 昭二六・四 教授（国語、国文学）	東京教育大学 昭二四・八 教授 都留文科大学 昭三五・四 教授（国語学）	東京学芸大学 昭二六・六 助教授
1855	1845	1837	1829	1815	2033
〃	〃	〃	〃	〃	〃
		有		〃	有
		四二・四より講師、四四・四より専任教授就任		四一　講師、四二・三都留文大退職、本学専任	

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	文学科国語国文学専攻専門科目
美術史	古文書学	文芸評論	国文学演習Ⅳ（近世劇文学） 国文学講読Ⅳ（近世文学）	国文学演習Ⅲ（中世文学） 国文学講読Ⅲ（中世文学）	国文学演習Ⅴ（近代詩） 国文学講読Ⅴ（近代文学）	書道講義 同実習 書道史	国文学演習Ⅰ（上古） 国文学講読Ⅰ（上古文学）
〃	〃	兼担	〃	〃	〃	〃	専任
〃	〃	教授	〃	〃	助教授	〃	教授
教養部一部一般教育教授 美学・美術史	文学部史学地理学科国史学専攻 教授 国史学	教養部一部一般教育科目 教授 文学Ⅰ					
2	2	2	2	2	2	2　2	2
			2	2	2		2
						2	
2	2	2	2　2	2　2	2　2	2　2　2	2　2
京都帝国大学工学部建築学科 大一三・五 東京帝国大学文学部美学・美術史学科 昭四・三 文学博士	国学院大学文学部国史学科 昭四・三 文学博士	日本女子大学英文学科研究科 大七・四	早稲田大学大学院文学研究科演劇学専攻（修士課程） 昭三〇・三 文学修士	早稲田大学大学院（旧制）（国文学専攻） 昭二八・二	早稲田大学大学院（旧制）文学研究科 昭二八・三	東京帝国大学文学部文学科 昭一一・三	駒沢大学大学院人文科学研究科国文学専攻（修士課程） 昭三一・三 文学博士
著一〇 論四〇	著四 論九	著二五 論多数	著六 論一二	著一 論一九	著一 論九	著五 論五五	著四 論一三
34年	36年	11年	14年	8年	11年	8年	14年
42.3 8,000	42.3 8,000	41.4 8,000	41.4 65,000	41.4 65,000	41.4 65,000	41.4 80,000	41.4 80,000
男	男	女	男	男	男	男	女
加藤　泰 明三二・九・一八	村田　正志 明三七・九・二三	板垣　なを 明二九・一一・一八	西尾　邦夫 昭四・六・一八	今成　元昭 大一四・一一・三〇	伊藤　康円 大一一・一一・八	春名　好重 明四三・四・五	大窪　梅子（筆名　若浜汐子） 明三六・九・一三
広島大学 昭二四・八 教授（美学・技術史）	東京大学 昭二九・四 助教授（国史学）	千葉大学 昭三〇・四 講師（文学概論）（文芸評論）			多摩美術大学 昭二九・四 講師（国文学）		
281	1503	237	1911	1903	1895	1883	1863
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有

○	○				○
〃	〃	〃	〃	〃	〃
国史概説（下）	国史概説（上）	国史概説（上）	日本漢文学史	経学演習（論語集注）	詩文演習（文選白氏文集） 経学演習（孟子集注） 漢字学概論
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
同右	同右	文学部史学地理学科国史学専攻 教授 国史学	同右	同右	文学部文学科 漢学専攻 教授 漢学
2	2	2	2		2
				2	2　2
2	2	2	2	2	2　2　2
東京帝国大学大学院（国史学専攻） 昭九・三	国学院大学文学部国史学科 昭四・三 文学博士	東京帝国大学文学部国史学科 昭五・三	日本大学高等師範部国語漢文科 昭八・三 大東文化学院高等科 昭一三・二一	東京文理科大学文学部漢文学科 昭九・三 文学博士	大東文化学院高等科 昭一〇・三 文学博士
著四 論五	著四 論九	著八 論五	著四 論一六	著一二 論一八	著二 論一〇
19年	36年	35年	22年	23年	22年
42.4 8,000	41.4 8,000	43.4 8,000	42.4 8,000	41.4 8,000	41.4 8,000
男	男	男	男	男	男
黒田　省三 明四〇・一〇・一〇	村田　正志 明三七・九・二三	藤木　邦彦 明四〇・五・三	山崎　道夫 明三七・九・二八	市川　本太郎 明三一・八・五	原田　種成 明四四・一・二
専修大学 昭二四・四 講師 名古屋大学 昭三九・四 講師（国史学）	東京大学 昭二九・四 助教授（国史学）	東京大学 昭二四・六 教授（国史学）	東京学芸大学 昭三六・一 教授（漢文学）	信州大学 昭二五・四 教授（中国哲学、中国文学）	群馬大学 昭二四・七 助教授 関東短期大学 昭三五・一〇 講師（漢文学）
1511	1503	1523	1739	1751	1761
〃	〃	〃	〃	〃	〃
			有		有
		四三・三　東大停年退官	昭四一より四三まで講師、四三・三東学大停年退官、本学専任		

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	文学科国語国文学専攻専門科目 ○
比較文学	比較文学	国文学演習Ⅰ（上古文学） 作家研究Ⅰ	国文学史Ⅰ（上古、中古、中世） 国文学演習Ⅱ（中古文学）	国語学演習Ⅱ	国文法 国語学演習Ⅰ 〃 Ⅲ	作家研究Ⅲ	文献学 書誌学	詩文学演習（唐宋八家文）
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼任	兼担
〃	〃	〃	〃	〃	〃	講師	教授	助教授
関西学院大学 教授 独文学	立正大学 教授 英文学	早稲田大学 講師 国文学	実践女子大学 教授 国文学	昭和女子大学 教授 国語学		同右 講師	国士舘短期大学国文科 教授 国文学、文献学	文学部文学科 漢学専攻 助教授 漢学
2	2	2　2	2		2	2	2　2	
			2	2	2　2			2
2	2	2　2	2　2	2	2　2　2	2	2　2	2
東京帝国大学文学部 昭三・三 ベルリン、フライベルグ、チューリッヒ、ケルン各大学 文学博士	早稲田大学英文学科 明四二・七	早稲田大学文学部文学科 昭五・三	東京帝国大学文学部 国文学科 大一五・三	早稲田大学文学部国文学科 昭五・三	早稲田大学大学院（修士課程）国文学専攻 昭三一・三	都立日比谷高等学校 昭二七・三	東京外国語学校（露語専修） 大一五・三 東京帝国大学文学部国文学科選修科 昭三・七 文学博士	早稲田大学大学院（博士課程） 昭三七・五 文学修士
著二九 論多数	著二二 論五〇	著一九 論多数	著六 論八	著三 論七	著四 論一一	著一 論九	著一一 論四	著四 論一三 詩一五
37年	37年	19年	40年	11年	22年	1年	8年	22年
42.4 8,000	42.4 8,000	41.4 4,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 4,000	41.4 4,000	41.4 8,000	42.4 6,000
男	男	男	男	男	男	男	男	男
芳賀　檀 明三七・六・七	市川　又彦 明一九・一二・一三	谷　馨 明三九・八・一五	窪田　敏夫 明三二・一・二八	保坂　弘司 明三九・四・一〇	堀内　武雄 大二・八・一	阿部　正美 昭七一・二三	岡野　他家夫 明三四・八・一四	福島　正義 明四〇・一一・一六
関西学院大学 昭和三三 教授（独文学）	立正大学大学院 昭三九・一一 教授（英文学）	早稲田大学 昭二九・四 講師（国文学）	金沢大学 昭二四・五 実践女子大学 昭三五・三 教授（国文学）	昭和女子大学 昭二九・四 教授（国語学）			日本大学 昭二五・四 教授（日本文学史、図書館学）	
1985	1975	1965	1955	1947	1937	1929	1921	1781
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
〃	〃	〃	〃	〃	有			有

〃	文学部各学科（共通）専門科目	〃	〃	〃 ○	〃 ○	〃
視聴覚教育及び実習 考古学	博物館学 博物館実習	書道講義 同右実習 書道史	国文学講読Ⅱ（中古文学） 日本文学思潮	国語学演習Ⅲ 言語学	国語学演習Ⅲ 言語学	比較文学
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
東邦音楽大学 助教授 視聴覚教育、考古学	早稲田大学講師（非常勤） 博物館学、体育及びレクリエーション	東京学芸大学 助教授 書道	早稲田大学 教授 国文学	東京外語大学 助手 国語学、言語学	栃木学園短期大学 講師 国語学、言語学	早稲田大学教育学部 教授 フランス文学、比較文学
2　2	2	2　2	2　2	2	2	2
		2		2	2	
	2					
2　2	2　2	2　2　2	2　2	2　2	2　2	2
早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻（修士課程） 文学修士	日本大学法学部文学科 昭一八・九	岡崎師範学校 昭四・三 文部省習字科検定試験合格 昭九・七	早稲田大学文学部国文学専攻 昭八・三 文学博士	国学院大学大学院文学研究科国語学専攻 修士課程 昭三六・三 文学修士	国学院大学大学院文学研究科国語学専攻 博士課程 昭三九・三 文学修士	早稲田大学文学部仏蘭西文学科 昭二・三
著八 論四五	著 論三九	著五 論一 入選作三	著一四 論六〇	著 論三	著 論六	著二 論八
13年	13年	23年	15年	5年	8年	20年
43.4 6,000	43.4 4,000	41.4 6,000	41.4 8,000	42.4 4,000	42.4 4,000	42.3 8,000
男	男	男	男	男	男	男
大川　清 大一四・三・一五	富士川　金二 明三五・四・二九	伊東　寿 明四三・一〇・二八	今井　卓爾 四二・三・三一	小杉　商一 昭一〇・四・一八	森　昇一 昭七・二〇・八	斉藤　一寛 明三三・七・二五
東邦音楽大学 昭四〇・二 助教授（視聴覚教育、考古学）	早稲田大学 昭二七・四 講師（博物館学、体育及びレクリエーション）	東京学芸大学 昭二六・六 助教授	早稲田大学 昭二一・四 教授（国文学）			早稲田大学 昭二五・四 教授（比較文学、フランス文学）
2043	1397	2033	2025	2017	2007	1997
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
有		〃	〃	〃	〃	〃

○

文学部各学科（共通）専門科目	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
文化史概論 美術史	教育原理	社会教育概論	図書館学 学校図書館通論	図書館学Ⅱ	図書館学Ⅲ	図書館学Ⅳ 書誌学	書道講義 書道実習 書道史
兼担	〃	〃	兼任	〃	〃	〃	兼担
教授	〃	講師	〃	〃	〃	教授	〃
教養部一部一 般教育 教授 美学・美術史	文学部教育学科 教育学専攻 教授 教育学	同右 講師 教育学	共立女子大学 教授 図書館学	図書館短期大学 教授 図書館学	同右 助教授 図書館学	国士舘短期大学 教授 国文科 文献学、図書館学	文学部文学科 国語国文学専攻 教授 書道
2　2	2	2	2　2	2	2	2	2　2
							2
2　2	2	2	2　2	2	2	2	2　2　2
京都帝国大学工学部 建築学科 大一三・五 東京帝国大学文学部 昭四・三 美学・美術史学科 文学博士	東京高等師範学校専 攻科修身教育学科 大一五・三	東京高等師範学校研 究科（修身科） 昭五・三	東京帝国大学文学部 国文学科 昭三・三	中央大学経済学部 昭二三・三	関西大学専門部英文 学科（三年）中退 昭五・五	東京外国語学校（露 語専修） 大一五・三 東京帝国大学文学部 国文学科選修科 昭三・七 文学博士	東京帝国大学文学部 文学科 昭一一・三
著一〇 論四〇	著八 論一四	著一二 論一	著六 論多数	著 論	著 論	著一一 論四	著五 論五五
34年	40年	25年	14年	17年	2年	8年	8年
42.3 8,000	43.4 8,000	44.4 4,000	43.4 8,000	41.4 8,000	42.4 6,000	44.4 8,000	43.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男	男
加藤　泰 明三二・九・一八	前野　喜代治 明三二・四・一〇	下地　恵常 明三七・五・一一	土井　重義 明三七・九・三	服部　金太郎 明四五・一・九	木寺　清一 明四一・二・五	岡野　他家夫 明三四・八・一四	春名　好重 明四三・四・五
広島大学 昭二四・八 教授（美学・技術史）	弘前大学 昭二九・四 教授（教育学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（教育原理）	千葉敬愛短期大学 講師（教育社会学）	共立女子大学 昭三九・四 教授（図書館学）	図書館短期大学 昭三九・四 教授（図書館学）	図書館短期大学 昭三九・四 助教授（図書館学）	日本大学 昭二五・四 教授（日本文学史、図書館学）	
281	1237	1289	2051	2067	2077	1921	1883
有	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
			有	〃	〃		

○

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
心理学概論	宗教学概論	倫理学概論	哲学研究	漢文学概論	国語学講読 日本文学思潮	国文学史	国語学概論
兼任	〃	〃	〃	兼担	〃	兼任	〃
〃	講師	〃	〃	教授	〃	講師	〃
共立女子大学 教授、教育心理学、心理学	教養部一部一 般体育講師 宗教学	文学部教育学科倫理学専攻 教授 倫理学	文学部教育倫理学専攻 教授 哲学	文学部文学科漢学専攻 教授 漢学	早稲田大学 教授 国文学	実践女子大学 教授 国文学	同右 教授 国語学
2	2	2	2	2	2　2	2	2
2	2	2	2	2	2　2	2	2
日本大学大学院文学研究科心理学専攻 （博士課程） 昭三二・三 文学修士	大正大学大学院文学研究科（宗教哲学専攻） 昭三六・三 文学修士	東京帝国大学大学院（倫理学） 大一五・三	東京帝国大学文学部哲学科 大一二・三	大東文化学院高等科 昭一〇・三 文学博士	早稲田大学文学部国文学専攻 昭八・三 文学博士	東京帝国大学文学部国文学科 大一五・三	東京高等師範学校研究科（国語） 大八・三
著六 論一七	著 論四	著三 論六	著四 論七	著二 論一〇	著一四 論六〇	著六 論八	著一一 論六
8年	6年	38年	40年	22年	15年	40年	46年
43.4 8,000	43.4 4,000	43.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男	男
高島　正士 大一四・八・二三	見田　政尚 大六・一二・一六	木村　伊勢雄 明三五・二・二	橋高　倫一 明三〇・一一・一	原田　種成 明四四・一・二	今井　卓爾 四二・三・三一	窪田　敏夫 明三二・二・二八	岩井　良雄 明二四・一〇・一七
国士舘大学 昭三九・一〇 教授（心理学、教育心理学、青年心理学）	大正大学 昭三七・四 講師（宗教学）	東京学芸大学 昭二四・四 教授（倫理学）	宇都宮大学 昭二八・四 教授（哲学）	群馬大学 昭二四・七 助教授 関東短期大学 昭三五・一〇 講師（漢文学）	早稲田大学 昭二一・四 教授（国文学）	金沢大学 昭二四・五 実践女子大学 昭三五・三 教授（国文学）	東京教育大学 昭二四・八 教授 都留文科大学 昭三五・四 教授（国語学）
1335	225	1427	1453	1761	2025	1955	1815
〃	〃	有		〃	〃	〃	〃
有		有		〃	有		有
							四二・三 都留文大退職

		○				○
〃	〃	〃	〃	〃	〃	文学部各学科（共通）専門科目
社会教育概論	政治学原論	法学概論	経済学原論	西洋倫理学史	Ⅰ東洋倫理学史	Ⅱ東洋倫理学史
〃	〃	〃	〃	兼担	兼任	兼担
〃	〃	〃	〃	教授	講師	助教授
教養部一部一般教育教授社会学	経済学部一部政治学科同大学院政治学原論、日本政治史	法学部教授ローマ法、法制史	経済学部一部経済学科大学院教授経済原論、経済学史	文学部教育学科倫理学専攻教授倫理学	東京大学同大学院教授中国哲学	文学部教育学科倫理学専攻教授倫理学、インド哲学
2	2	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2
東京帝国大学文科大学哲学科大三・七文学博士	早稲田大学大学院政治学研究科大八・九	東京帝国大学法学部法律学科昭七・三	東京帝国大学経済学部経済学科大八・七経済学博士	東京帝国大学大学院（倫理学）昭一一・一二	東京帝国大学文学部支那哲学科昭三・三文学博士	東京大学文学部印度梵文学科昭三五・三
著四論一九	著八論一五	著一〇論一二	著一四論多数	著五論八	著一三論三〇	著八論六八
51年	34年	35年	41年	19年	37年	15年
41.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	43.4 8,000	44.4 8,000	43.4 8,000	44.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男
綿貫哲雄 明一八・八・三	内田繁隆 明二四・一一・二	戸倉広 明三七・一・三〇	竹内謙一（一一・六） 明二八・一・六	阿部秀夫 明四三・二・一八	阿部吉雄 明三八・五・一二	大類純 大一二・三・一〇
中央大学 昭二四・四 教授（社会学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（政治学研究、政治史研究）	早稲田大学 昭二四・四 講師（ローマ法、法制史）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（理論経済学、経済政策）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（倫理学、独逸語）	東京大学 昭二四・六 教授（中国哲学）	日本大学 昭二八・五 講師 東洋大学 昭三一・四 講師（印度哲学、倫理学）
379	983	869	975	1437	1495	1461
〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
					四一・三 東大停年退官	

○

教職に関する専門科目 文学部各学科（共通）	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教育原理 道徳教育研究 日本教育史	書道講義 書道実習 書道史	古文書学	外国史概説	国史概説	地誌学	地理学概説
兼担	兼任	〃	〃	〃	〃	〃
教授	講師	〃	〃	〃	〃	〃
文学部教育学科教育学専攻教授教育学	東京学芸大学助教授書道	文学部史学地理学科国史学専攻教授国史学	文学部史学地理学科東洋史学専攻教授東洋史学	文学部史学地理学科国史学専攻教授国史学	同右	文学部史学地理学科地理学専攻教授地理学
2　2　2	2　2	2	2	2	2	2
	2					
2　2　2	2　2　2	2	2	2	2	2
東京高等師範学校専攻科修身教育学科 大一五・三二	岡崎師範学校 昭四・三 文部省習字科検定試験合格 昭九・七	国学院大学文学部国史学科 昭四・三 文学博士	東京帝国大学文学部東洋史学科 大一四・三二	東京帝国大学文学部国史学科 昭五・三	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三二 文学博士	東京帝国大学大学院地理学専攻 大三・三 文学博士
著八 論一四	著五 論一 入選作三	著四 論九	著七 論三〇	著八 論五	著二 論一七	著一六 論一三一
40年	23年	36年	40年	35年	26年	40年
41.4 8,000	43.4 6,000	44.4 8,000	44.4 8,000	43.4 8,000	44.4 8,000	43.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男
前野　喜代治 明三二・四・一〇	伊東　寿 明四三・一〇・二八	村田　正志 明三七・九・二三	植村　清一 明三四・一・三〇	藤木　邦彦 明四〇・五・三	大橋　与一 明三二・八・一〇	内田　寛一 明二一・三・三
弘前大学 昭二九・四 教授（教育学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（教育原理、日本教育史）	東京学芸大学 昭二六・六 助教授（書道）	東京大学 昭二九・四 助教授（国史学）	新潟大学 昭二四・四 教授（史学概論、東洋史学）	東京大学 昭二四・六 教授（国史学）	宇都宮大学 昭二六・三 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四 教授 国士舘大学大学院 昭三九・一二 教授（経済地理学）
1237	2037	1503	1591	1523	1683	1641
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	有					
				昭四三・三 東大停年退官		

	○	○		○			
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	教職に関する専門科目 文学部各学科（共通）
書道科教育法	Ⅱ国語科教育法	Ⅰ国語科教育法	教育心理学	道徳教育研究	道徳教育研究 教育実習 社会教育	教育原理 教育実習	教育原理 教育実習
〃	〃	兼担	兼任	〃	〃	〃	兼担
〃	〃	教授	講師	教授	〃	講師	教授
同右 教授 書道	文学部文学科 国語国文学専攻 教授 国文学	文学部文学科 漢学専攻 教授 漢学	共立女子大学 教授 心理学教育心理学	文学部教育学科 教育学専攻 教授 社会倫理学、哲学概論	同右	同右 講師 教育学	同右 教授 教育学、学校管理
2	2	2	2	2	2　2	2	2
					2	2	2
2	2	2	2	2	2　2　2	2　2	2　2
東京帝国大学文学部 文学科 昭一一・三	早稲田大学文学部文学科（国文学専攻） 昭一七・九	日本大学高等師範部 国語漢文科 昭八・三 大東文化学院高等科 昭一三・三	日本大学大学院文学研究科心理学専攻（博士課程） 昭三二・三 文学修士	東京帝国大学文学部哲学科 昭八・三 同大学法学部研究室 昭一一・四以降	東京高等師範学校研究科（修身科） 昭五・三	早稲田大学大学院文学研究科（修士課程） 昭三二・三 文学修士	東京文理科大学教育学科 昭七・三
著五 論五五		著四 論一六	著六 論一七	著一 論一九	著一二 論一	著四 論七	著二 論三五
8年	20年	22年	8年	8年	25年	1年	22年
41.4 8,000	41.4 8,000	43.4 8,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 4,000	41.4 4,000	41.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男	男
春名　好重 明四三・四・五	宮沢　林直 大八・四・二七	山崎　道夫 明三七・九・二八	高島　正士 大一四・八・二三	小林　高記 明三九・一〇・三一	下地　恵常 明三七・五・一一	長田　三男 昭七・一・六	森　純吾 明三六・五・一三
	国士舘大学 昭三二・一〇 助教授（国文学）	東京学芸大学 昭三六・一 教授（漢文学）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（心理学、教育心理学、青年心理学）	早稲田大学 昭四〇・四 講師（社会倫理学、哲学概論）	千葉敬愛短期大学 昭三六・八 講師（教育社会学）	国士舘大学 昭三九・一〇 講師（教育学）	岩手大学 昭二四・二 教授（教育行政、教育原理、学校管理）
1883	1855	1739	1335	1267	1289	1297	1255
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	有
		〃	有				
		四三・三　東 学大停年退官					

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
西洋教育史	保健体育科教育法	社会科教育法（世界史）	社会科教育法（日本史）	同右（地理）	同右（経済）	社会科教育法（政治）	社会科教育法（倫理、社会）	書道講義 書道実習 書道史
兼任	〃	兼担	兼任	〃	〃	〃	兼担	兼任
講師	〃	教授	講師	〃	〃	〃	教授	講師
日本大学文理学部助教授 教育学	教養部保健体育 教授 体育学	文学部史学地理学専攻 東洋史学、史学概論 教授	新宿区立大久保中学校長	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学	政経学部経済学部同大学院 教授 経済学	法学部 教授 ローマ法、法制史	文学部教育学科倫理学専攻 教授 倫理学	東京学芸大学 助教授 書道
2	2	2	2	2	2	2	2	2　2
								2
2	2	2	2	2	2	2	2	2　2　2
東京大学大学院人文科学研究科教育学専攻（博士課程） 昭三三・三 教育学博士	東京高等師範学校体操専修科 大六・三	東京帝国大学文学部東洋史学科 大一四・三	日本大学文学部史学専攻 昭一九・九	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三 文学博士	東京帝国大学経済学部経済学科 大八・七 経済学博士	東京帝国大学法学部法律学科 昭七・三	東京帝国大学大学院（倫理学） 大一五・三	岡崎師範学校 昭四・三 文部省習字科検定試験合格 昭九・七
著四 論一二	著四 論	著七 論二〇	著二 論一六	著二 論一七	著一四 論多数	著一〇 論一二	著三 論六	著五 論一 入選作三
6年	45年	40年	36年	26年	41年	35年	38年	23年
41.4 6,000	43.4 8,000	41.4 8,000	43.4 4,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 8,000	41.4 6,000
男	男	男	男	男	男	男	男	男
尾形 利雄 大一一・二・二七	森 秀 明二五・三・二八	植村 清一 明三四・一・三〇	小倉 竹治 昭四一・九・七	大橋 与一 明三二・八・一〇	竹内 謙一 明二八・一一・六	戸倉 宏（広） 明三七・一・三〇	木村 伊勢雄 明三五・三・二	伊東 寿 明四三・一〇・二八
日本大学 昭三八・四 助教授（教育学）	国士舘大学 昭三二・一〇 教授（体育学）	新潟大学 昭二四・四 教授（史学概論、東洋史学）		宇都宮大学 昭二六・三 教授（地理学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（経済学）	早稲田大学 昭二四・四 講師（ローマ法、法制史）	東京学芸大学 昭二四・四 教授（倫理学）	東京学芸大学 昭二六・六 助教授
1355	779	1591	1387	1683	975	869	1427	2037
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
			有				〃	有
			昭四三 停年退職					

既設政経学部教員組織表

一、政治経済（ママ）学部一部（専門科目）

〃	〃	〃	〃	教職に関する専門科目 文学部各学科（共通）
視聴覚教育及び実習	図書館学Ⅳ	図書館学Ⅲ	図書館学Ⅱ	図書館学Ⅰ 学校図書館通論
〃	〃	〃	〃	兼任
講師	教授	〃	〃	講師
東邦音楽大学助教授、視聴覚教育、考古学	国士舘短期大学国文科教授、文献学、図書館学	同右助教授図書館学	図書館短期大学教授図書館学	共立女子大学教授図書館学
2	2	2	2	2　2
2	2	2	2	2　2
早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻（修士課程）文学修士	東京外国語学校（露語専修）大一五・三 東京帝国大学文学部国文学科選修科昭三・七文学博士	関西大学専門部英文学科（三年）中退昭五・五	中央大学経済学部昭二三・三	東京帝国大学文学部国文学科昭三・三
著八論五	著五論五五	著論	著論	著六論多数
13年	8年	2年	17年	14年
43.4 6,000	42.4 8,000	42.4 6,000	41.4 8,000	43.4 8,000
男	男	男	男	男
大川清大一四・三・一五	岡野他家夫明三四・八・一四	木寺清一明四一・二・五	服部金太郎明四五・一・九	土井重義明三七・九・三
東邦音楽大学昭四〇・三助教授（視聴覚教育、考古学）	日本大学昭二五・四教授（日本文学史、図書館学）	図書館短期大学昭三九・四助教授（図書館学）	図書館短期大学昭三九・四教授（図書館学）	共立女子大学昭三九・四教授（図書館学）
2043	1921	2077	2067	2057
〃	〃	〃	〃	有
有		〃	〃	有

授業科目の区分						
専門科目（政治学科）	〃	〃	〃	〃	〃	〃
担当授業科目名	政治学原論 日本政治史 演習	国際法 外交史	憲法 政治制度論	行政法	行政学 自治行政	
専任兼担兼任の別	専任	〃	〃	〃	〃	〃
職名	教授	〃	〃	〃	〃	〃
兼担または兼任の場合専任の職名または職務および担当学等科目名						
毎週授業時数 講義	6	4	4	2	4	
毎週授業時数 演習	2					
毎週授業時数 実習実験						
毎週授業時数 計	8	4	4	2	4	
最終卒業学校学部学科名卒業年月および学位称号	早稲田大学大学院政治学研究科 大八・九	旧制山口高等商業学校 明四〇・三 法学博士	早大政経学部 大六・六 コロンビア大学大学院 大九 マスター・オブ・アーツ ドクトル・オブ・ローズ	東京帝国大学法科大学英法科 明四二・七・一〇	東京帝国大学法学部 昭六・三	
著書および学術論文数	著八 論一五	著一二 論二〇	著二五 論一〇〇	著 論	著九 論一三	
教歴	34年	15年	42年	5年	11年	
採用年月および月額基本給	36.4.1 80,000	39.4.1 80,000	40.4.1 80,000	36.4.1 80,000	42.4.1 80,000	
性別	男	〃	〃	〃	〃	〃
氏名 生年月日	内田繁隆 明二四・一一・二	田村幸策 明二〇・三・五	藤沖新一 明二五・八・二	沢田竹治郎 明一五・八・二	法貴三郎 明四〇・七・一九	
備考	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（政治学原論、政治史）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際法、外交史）	駒沢大学 昭二四・四 教授（憲法、政治学、法学） 昭三八・一一 教授（政治制度論） 国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（比較政治制度）	国士舘大学 昭三五・一二・二四 教授（行政法）	明治大学 昭二九・四 講師（行政学）	
記事					「43年より専任小泉教授と入替」（欄外、後筆）	

〃	〃	〃	〃	〃	〃	専門科目（政治学科）
外交史外書講読	新聞学演習	政治思想史比較政治制度	国際法	国際政治論国際文化政策論演習	国際政治論	刑法
〃	〃	〃	〃	〃	〃	専任
助教授	〃	〃	〃	〃	〃	教授
4	2	4	2	4	2	4
				2		
4	2	4	2	6	2	4
早大政経学部政治学科 昭二二・九 早大大学院法学研究科特別研究生課程 昭三〇・三	中央大学法学部（英法） 昭六・三	日本大学法学部（旧称日本法律学校） 明三六・一一 法学博士	早稲田大学大学院法学研究科 昭三〇・三 コロンビヤ大学ロー・スクール国際法研究 昭三五・九・三 八・六 法学修士	東京帝国大学法学部政治学科 昭一九・九	東京帝国大学大学院 大六・二一 法学博士	東京帝国大学法科大学法律学科 大六・七 法学博士
著四 論二八	著七 論六	著一五 論多数	著 論三	著七 論二四	著一〇 論約二〇〇	著一〇 論三五
10年	11年	41年	22年	17年	46年	32年
36.4.1 65,000	38.4.1 80,000	41.4.1 80,000	36.4.1 80,000	36.4.1 80,000	40.4.1 80,000	40.4.1 80,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	男
清水 良三 大一四・六・九	金子〔蔵〕喜三 明三六・一一・二三	会田 範治 明一四・九・二三	柴田 梵天 大六・六・二八	桜井 光堂 大四・二・二三	神川 彦松 明二二・一二・二三	小泉 英一 明二五・四・二〇
国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（外交史、外書講読）	国士舘大学 昭二九・一〇 教授（新聞学、演習）	日本大学 昭二四・九・二三 教授（政治思想史、比較政治制度）	国士舘大学 昭二二・一一 助教授（法学） 昭三九・一〇 助教授（国際法）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（国際文化政策論） 北九州大学 昭三〇・四 助教授（国際法）	東京大学 昭和二四・四 国士舘大学大学院 昭三九・一一 教授（国際政治学）	専修大学 昭二八・二二 教授（刑法）
						「42年より法学部専任」（欄外、後筆）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
商法	〃	民法	比較憲法	国際政治論演習	政治倫理学	行政法外書講読	政治学史
〃	〃	〃	〃	〃	兼担	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	教授	〃	講師
法学部教授商法	政経学部二部政治学科教授民法	法学部教授（民訴法、破産法）	法学部教授憲法、行政法、比較憲法	政経学部二部政治学科教授政治学、国際政治学、外交史	国士舘大学学長		
2	2	4	2	2	2	2	2
				2			
2	2	4	2	4	2	2	2
明大法学部法律科大一三・三ドイツエルランゲン大学法学部昭一一・三ドクター・ユリス	東京帝大文科大学哲学科大五・七東京帝大法科大学政経学科大一〇・四	早稲田大学大学部法学科（独法）大六・七法学博士	東京帝国大学法科大学政治学科大四・五法学博士	東京帝大法科大学政治学科大三・六法学博士	早稲田大学専門部政治経済科大四・六	早大大学院政治学研究科憲法学専攻（英独語専修課程）（修士課程）昭三五・三政治学修士	早大政治経済学部政治学科大一五・三法学博士
著二論	著論五	著一二論多数	著五論四	著六論五	著六論三六	著八論〇	著一論
10年	43年	44年	40年	20年	48年	3年	3年
36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 8,000	41.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 8,000	41.4.1 40,000	40.4.1 40,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
佐野　重雄 明三五・一一・八	清水谷　隆寛 明二三・一二・一六	中村　宗雄 明二七・八・九	土橋　友四郎 明二一・三・二三	三枝　茂智 明二一・一〇・二三	柴田　徳次郎 明二三・一二・二〇	斉藤　寿 昭七・一二・二六	大西　藤米治 明三二・一一・一
国士舘大学 昭三九・一〇 教授（商法、独語）	香川大学 昭二四・四 教授（民法、法学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（民法）	早稲田大学 昭二四・四 教授（民法）	専修大学 昭二五・五 教授（憲法、行政法）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（外交史、国際政治）	国士舘大学 昭三二・一〇・二四 学長	慶応短期大学 昭三七・四 講師（自治行政、憲法）	国士舘大学 昭三九・一一 講師（大学院）（政治思想）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	専門科目（政治学科）
経営学総論	財政学 国際経済論	経済原論	社会学原論	社会学原論 社会政策	労働法 社会政策	刑法
〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼担
〃	〃	〃	〃	〃	〃	教授
政経学部一部 経営学科 教授 経営学、商学 総論	政経学部二部 経済学部 教授 財政学、国際 経済論	政経学部一部 経済学科 教授 経済原論、経 済学史	教養部一部一 般教育 教授 社会学	政経学部一部 経済学科 教授 社会政策	政経学部一部 経済学科 教授、仏語、 労働法、 社会政策	法学部 教授 刑法、刑訴法、 刑事政策、犯 罪学
4	4	2	2	4	4	2
4	4	2	2	4	4	2
日大商学部商学科 大一二 ベルリン大学 昭五・七 商学博士	東京帝大経済学部 大一〇・四 経済学博士	東京帝大法科大学経 済学科 大五・四 経済学博士	東京帝大文科大学哲 学科 大三・七 文学博士	米国ワシントン官立 大学院文学部社会学 科 大一五・六 M・A	東京帝大法学部仏法 科 大六 東京帝大大学院仏商 法専修 大七 パリ大学社会法聴講 大一〇～一一	東京帝国大学法学部 法律学科（独法専修） ベルリン大学 昭六・一〇 入学
著七 論一二	著四 論二	著六 論多数	著四 論一九	著一四 論三二	著四 論七	著五 論二六
33年	12年	44年	51年	34年	40年	27年
36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 8,000	41.4 8,000	39.4.1 8,000	36.4.1 8,000	41.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	男
宇尾野　宗尊 明二三・三・六	森　武夫 明二二・一〇・一六	田辺　忠男 明二四・八・一一	綿貫　哲雄 明一八・八・三	西野入　徳 明二〇・一二・一二	星野　辰雄 明二五・四・一八	花井　忠 明二七・一二・三
国士舘大学 昭三五・一二 教授（経営学、市 場論）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国 際経済、財政学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（理 論経済学、経済学 史）	中央大学 昭二四・四 教授（社会学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（社 会学、人口学）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（労働法、社 会政策、仏語）	中央大学 昭三四・四 教授（刑法、刑罰 法）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
外国史	日本史	地誌学	地理学	倫理学	哲学	金融論 銀行論
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
文学部史学地理学科東洋史学専攻 教授 東洋史学、史学概論	文学部史学地理学科国史学専攻 教授 国史学	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学	文学部教育学科倫理学専攻 教授 倫理学、独語	文学部教育学科倫理学専攻 教授 哲学	政経学部一部経営学科 教授 金融論、銀行論
2	2	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2
東京帝大文学部東洋史学科 大一四・三	東京帝大文学部国史学科 昭五・三	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三 文学博士	京都帝大大学院地理学専攻 大三・三 文学博士	東京帝大大学院（倫理学） 昭一一・一二	東京帝大文学部哲学科 大一二・三・三	東京帝大経済学部 大九・七
著七 論三〇	著八 論五	著一 論一七	著一八 論一三一	著五 論八	著四 論七	著二 論六
40年	35年	26年	40年	19年	40年	15年
41.4.1 8,000	43.4.1 8,000	40.4.1 8,000	38.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
植村　清二 明三四・一・三〇	藤木　邦彦 明四〇・五・三	大橋　与一 明三二・八・一〇	内田　寛一 明二一・三・三	阿部　秀夫 明四三・二・一八	橘高　倫一 明三〇・一一・一	飯田　一彦 明二七・二・九
新潟大学 昭二四・四 教授（史学概論、東洋史学）	東京大学 昭二四・六 教授（国史学）	宇都宮大学 昭二六・三 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四 教授（地理、地誌） 国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（経済地理学）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（倫理学、独語）	宇都宮大学 昭二八・四 教授（哲学）	国士舘大学大学院 昭三九・一一 教授（国際金融）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	専門科目（政治学科）
憲法	政治思想史外書講読	西洋政治史	西洋政治史	政治制度論（現代政治の研究）	行政学	日本法制史演習	刑法刑事政策	日本史外国史
〃	〃	〃	〃	〃	兼任	〃	〃	兼担
〃	〃	〃	〃	〃	講師	〃	助教授	教授
高崎経済大学教授憲法	東京家政大学助教授政治学、社会福祉、政治史	日本女子大学講師西洋政治史	東海大学助教授政治史	早大政経学部教授政治学	日本大学教授行政学、政治学	同右助教授法制史、中国書講読	法学部助教授刑法、刑事政策	教養部二部一般教育教授日本史、外国史
2	4	2	2	2	2	2	2	4
						2		
2	4	2	2	2	2	4	2	4
東京帝大法学部法律学科昭一六・三	早稲田大学大学院政治学研究科昭三〇・三政治学修士	早稲田大学大学院昭三一・八	早大政治経済学部政治学科昭二六・三	早稲田大学政経学部政治学科大一三	日本大学法文学部法律学科独法科昭一七・九・三〇	早稲田大学大学院法学研究民事法専攻（博士課程）昭三五・三法学修士	早稲田大学大学院法学研究科昭三〇・三法学修士	東京文理科大学史学科昭二五・三・一五同大学研究科昭二九・三・三一
著三論一四	著四論	著論三	著三論二	著五論二〇数篇	著五論三六	著論一三	著六論一四	著三論四
19年	10年	9年	4年	36年	22年	4年	7年	15年
37.4.1 8,000	38.4 6,000	39.4.1 4,000	39.4.1 8,000	39.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 6,000	36.4.1 6,000	41.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	男
三潴信吾大五・九・二六	浅沼和典昭一二・一〇・一七	小林六郎大七・九・二五	福寿幸男大一五・七・一三	吉村正明三三・三・二三	杉山逸男大九・三・五	宮坂宏昭七・九・三	北山茂昭四・四・二八	藤井秀夫昭二・一・二一
明治大学昭二四・四教授（法学、憲法）	東京家政大学昭三七・一一助教授（政治学、社会福祉、外書講読）	日本女子大学昭三一・四・一講師（政治学）	国士舘大学昭三九・一〇講師（西洋政治史）	早稲田大学昭二四・四教授（政治学）	日本大学昭三二・七・一教授（行政学、政治学）		国士舘大学昭三九・一〇助教授（法学、刑法、刑事政策）	国士舘大学昭三五・一〇助教授（歴史学、日本史、東洋史）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
外国史	外国政治書講読	貿易論	〃	経済政策	社会政策外書講読	労働法社会政策	商法	刑事政策	憲法行政法
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
東京経済大学教授 歴史学、西洋史		早稲田大学教授 貿易論	早稲田大学教授 経済原論	亜細亜大学教授 経済原論、経済政策	城西大学助教授 社会政策	国学院大学教授 社会政策、労働法	早稲田大学助教授 商法	早稲田大学法学部教授 刑法	早稲田大学教授 法学、行政法、憲法
2	2	2	2	2	6	2	2	2	4
					2				
2	2	2	2	2	8	2	2	2	4
東京帝国大学文学部西洋史学科 昭一〇・三二	早稲田大学大学院政治学研究科修士課程 昭三六・三二	早稲田大学商学部 昭二四・三二	東京商科大学本科 昭五・三・二八	東京外語学校露語部修了 昭五・三	東北大学大学院経済学研究科 昭三三・三二 経済学博士	東京帝国大学法科大学政治科 大七・七	早稲田大学第一法学部 昭二九・三	早稲田大学法学部独法科 昭三・三	早稲田大学政治経済学部政治学科 昭一一・三・二五
著三論二	著論一	著四論一三	著三論五外	著二〇論二〇〇数十	著一論	著論	著一論二三	著一〇論三〇	著六論八〇
22年	3年	16年	33年	22年	4年	30年	7年	26年	22年
36.4.1 8,000	36.4.1 4,000	38.4.1 8,000	38.4.1 8,000	39.4.1 8,000	36.4.1 6,000	37.4.1 8,000	40.4.1 4,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
神保規一 明四五・一・一〇	藤原保信 昭一〇・九・四	田中喜助 大一三・五・一六	北村正次 明三九・九・二一	伊部政一 明四一・七・七	相沢与一 昭八・七・二六	北岡寿逸 明二七・七・一	酒巻俊雄（昭六・六・二二） 大一五・五・一五	斉藤金作 明二六・二・二	佐藤立夫 明四五・三・二三
東京経済大学 昭三五 教授（歴史）		早稲田大学 昭三二・四・一 教授（貿易論）	早稲田大学 昭二四・四・一 教授（経済原論）	亜細亜大学 昭三八・一〇 教授（経済学、経済学原論、経済政策、社会政策）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（社会政策、外書講読）	国学院大学 昭二四 教授（社会政策、労働法）	早稲田大学 昭四〇・四 助教授（商法）	早稲田大学 昭二二 教授（法学、刑法）	早稲田大学 昭二二 教授（行政法）

科目 専門 (経済学科)	経済原論 経済学史	経済史 日本経済史 演習	〃	経済学原論 経済学史	労働法	社会政策 人口論	銀行実務 銀行金融事情	経済政策 農業経済論 経済学史	国際経済論 演習
専任	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	4	4	4	2	2	2	4	6	4
		2							
4	4	6	4	2	2	2	4	6	4
	東京帝大法科大学経済学科 大五・四 経済学博士	東京高等商業学校専攻部 明四〇・七・七 経済学博士	東京帝大経済学部経済学科 大八・七 経済学博士	米国ワシントン官立大学院文学部社会学科 大一五・六 M・A	東京帝大大学院仏商法専修 大七 パリ大学社会法聴講 大一〇～一一	東京帝大法学部政治学科 大八・七	早大専門部法律科 大一三・三 フライブルグ大学経済学部 昭三・九	慶応大学理財科 大八・三
著六 論多数	著八 論九	著一四 論多数	著四 論七	著一四 論三三二	著七 論三	著	著四 論三三二	
44年	48年	41年	40年	34年	1年	25年	1年	14年
40.4.1 80,000	36.4.1 80,000	40.4.1 80,000	36.4.1 80,000	36.4.1 80,000	40.10 80,000	41.4.1 80,000	36.4.1 80,000	36.4.1 80,000
男	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
田辺　忠男 明二四・八・一一	田崎　仁義 明一三・七・二五	竹内　謙一 明二八・一一・六	星野　辰雄 明二五・四・一八	西野入　徳 明二〇・一二・一二	西園寺　実 明二九・一・二七	赤羽　豊治郎 明三二・一二・九	山崎　靖純 明二七・六・七	
国士舘大学 昭三九・一一 教授（理論経済学、経済学史）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（東洋経済史、経済史）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（理論経済学、経済学史、経済政策）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（労働法、社会政策、仏語）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（社会学、人口学）		信州大学 昭二五・三一 教授（経済学、経済政策、農業経済）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（国際経済論） 同右 昭四〇・一 教授（大学院）（外国為替研究）	

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
財政学 国際経済論 演習	政治倫理学	国際経済論	外国書講読 演習	外国書講読 演習	金融論 銀行論	社会政策 工業経済論 外国経済書講読 演習	保険論 演習 外書講読 商業英語	国際経済論 外書講読 国際経済事情 演習	金融論 銀行論 景気変動論 外書講読
〃	兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	教授	〃	〃	〃	講師	〃	助教授	〃	〃
政経学部二部 経済学科 教授 財政学、国際 経済論	国士舘大学 学長								
4	2	2	4	4	4	6	6	8	6
2			2	2			2		
6	2	2	6	6	4	6	8	8	6
東京帝大経済学部 大一〇・四 ハーバード大学、 ジョーンズ・ホプキンス大学 経済学博士	早稲田大学専門部政治経済科 大四・六	早大大学院商学科研究（修士課程） 昭三八・三 商学修士	慶応義塾大学旧制経済学部 昭二五・九	東京帝大法学部政治学科 昭二一・九	早稲田大学商学部 大一五・三	早大大学院経済学研究科（博士課程） 昭三六・三 経済学修士	早稲田大学大学院商学研究科（博士課程） 昭三三・三 商学修士	ニュージーランド大学経済学部 一九四六年 M・A	早稲田大学経済学部 大五 シカゴ大学 大九
著六 論二	著六 論三六	著 論二	著 論一一	著 論五	著 論三二	著三 論四	著二 論二一	著六 論五	著一〇 論多数
13年	48年	6年	1年	1年	1年	5年	11年	15年	43年
36.4.1 8,000	40.4.1 8,000	41.4.1 40,000	41.4.1 40,000	40.4.1 40,000	40.4.1 40,000	36.4.1 65,000	36.4.1 80,000	40.4.1 80,000	40.4.1 80,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
森　武夫 明二二・一〇・一六	柴田　德次郎 明二三・一二・二〇	三野　昭一 昭四・六・一	古賀　孜 昭四・一・二三	大西　信隆 大一一・四・三	内山　德治 明三三・七・一六	江頭　稔 昭七・二・五	森田　健三 大一四・一一・二四	ジェ・ビ・カニング ハム 一九二五・一・一九	出井　盛之 明二五・七・二八
国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際経済、財政学）	国士舘大学 昭三二・一〇・二四 学長				国士舘大学 昭四〇・二 講師（金融論、銀行論）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（外書講読）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（保険論、外書講読）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（国際経済論、外書講読）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（国際経済論、外書講読）

専門科目（経済学科）	〃	〃	〃	〃	〃	〃
東洋経済史 東亜経済論 演習	商学総論 市場論	経営学総論 商学総論	農業経済論	簿記原理 会計学 演習	交通論	金融論 銀行論
兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃
政経学部二部 経済学科 教授 東亜経済史、 東亜経済論、 演習	政経学部一部 経営学科 教授 商学総論、市 場調査、市場 論	政経学部一部 経営学科 教授 経営学	教養部一部一 般教育 教授 経済学、農業 経済	政経学部一部 経営学科 教授 会計学、簿記	政経学部一部 経営学科 教授 交通論	政経学部一部 経営学科 教授 金融論、銀行 論
4	6	4	2	4	2	2
4	2			2		
8	8	4	2	6	2	2
東京商科大学 昭二・四	東京商科大学本科 昭五・三・二八	日本大学商学部商学 科 大一二・三 ベルリン大学経営経 済学市場論 昭五・七 商学博士	京都帝国大学経済学 部 大一二・三 経済学博士	セントルイス大学商 理財学部 大一〇・六	満洲国立ハルピン学 院大学本科 昭一一・三	東京帝大経済学部商 業学科 大八・七
著九 論七	著九 論八	著七 論一二	著一五 論六	著七 論五	著一 論五	著二 論六
23年	17年	33年	47年	22年	13年	15年
36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000
男	〃	〃	〃	〃	〃	〃
鹿島　宗二郎 明三七・六・一三	加藤　金三 明三九・一・二六	宇尾野　宗尊 明二三・三・六	岩田　耕作 明一五・九・一一	油谷　従爾 明二〇・一二・五	八雲　香俊 大五・一一・一五	飯田　一彦 明二七・二・九
国士舘大学 昭三九・一〇 教授（東亜経済史、 東亜経済論）	国士舘大学 昭三六 助教授（商業学）	国士舘大学 昭三五・一一 教授（経営学、市 場論）	日本大学 昭二四・四 教授（経済学、農 業経済）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（簿記、会計 学）	関東短期大学 昭二九・五 助教授（交通論）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（金融論） 昭三九・一一 教授（大学院）（国 際金融）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
商法	〃	民法	商業英語	経済法	簿記原理演習	取引所論
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
法学部教授商法	政経学部二部政治学科教授民法	法学部教授民訴法、破産法	教養部一部外国語科目教授英語、商業英語	教養部二部一般教育教授法学、経済法	政経学部一部経営学科教授税法、簿記原理、演習	政経学部一部経営学科教授取引所論
2	2	2	4	2	2	2
					2	
2	2	2	4	2	4	2
明治大学法学部法律学科大一三・三ライプチッヒ、ベルリン、ハンブルグエルランゲン各大学昭四・一〇ドクター・ユリス（エルランゲン大学）	東京帝大文科大学哲学科大五・七東京帝大法科大学政治科大一〇・四	早稲田大学大学部法学科独法科大六・七法学博士	東京外国語学校英語部大八・三	九州帝大法科昭一二・三	中央大学経済学部昭六・三	日本大学法律学科明三九・五経済学博士
著二論一	著論五	著一二論五〇	著一六論一二	著二論八	著論	著四論二
10年	43年	44年	38年	21年	19年	14年
36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 8,000	38.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
佐野　重雄 明三五・一一・八	清水谷　隆寛 明二三・一二・一六	中村　宗雄 明二七・八・九	橋本　修 明二八・二・一八	宮田　幸吉 明四四・三・一三	青木　茂康 明三六・九・二五	小山　正之助 明一八・一・二八
国士舘大学昭三九・一〇教授（商法、独逸語）	香川大学昭二四・四教授（民法、法学） 国士舘大学昭三九・一〇教授（民法）	早稲田大学昭二四教授（法学、民法）	明治大学昭二八・四教授（英語、商業英語）	国士舘大学昭三九・一〇教授（法学、経済法）	神奈川大学昭三四・四助教授（税法）	国士舘大学昭三九・一二教授（大学院）（証券取引所研究）

専門科目（経済学科）	行政法	国際法	政治学原論	新聞学演習	商業英語交通論	哲学	倫理学
兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
政治経済学部一部政治学科教授行政法	政経学部一部政治学科大学院教授国際法、外交史	政経学部一部政治学科大学院教授政治学、政治史	政経学部一部政治学科教授新聞学	政経学部二部経済学科教授交通論、商業英語	文学部教育学科倫理学専攻教授哲学	文学部教育学科倫理学専攻教授倫理学、独語
2	2	4	4	2	4	4	2
			2				
2	2	2	4	4	4	4	2
東京帝国大学法科大学英法科明四二・七・一〇	旧山口高等商業学校明四〇・三法学博士	早大政経学部政経学科大八・九	中央大学法学部（英法）昭六・三	早大商学部、早大大学院（交通経済）昭七・三	東京帝大文学部哲学科大一二・三・三	東京帝大文学部倫理学科大学院昭一一・一二
著論	著一二論二〇	著八論一五	著三論六	著論二四	著四論七	著五論八	
5年	15年	34年	11年	17年	40年	18年	
36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	38.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	
男	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
沢田竹治郎明一五・八・二	田村幸策明二〇・三・五	内田繁隆明二四・一一・二	金子喜蔵明三六・一一・二三	八木常三郎明三四・一五	橘高倫一明三〇・一一・一	阿部秀夫明四三・二・一八	
国士舘大学昭三五・二・二四教授（行政法）	国士舘大学昭三九・一一教授（大学院）（国際法、外交史）	国士舘大学昭三九・一一教授（大学院）（政治学、政治史）	国士舘大学昭三九・一〇教授（新聞学、演習）	国士舘大学昭三九・一〇教授（交通論、商業英語、演習）	宇都宮大学昭二八・四・一六教授（哲学）	国士舘大学昭三九・一〇教授（倫理学、独語）	

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
日本経済史	西洋経済史	実務計算	商法	民法	日本史 外国史	地誌学	経済地理 地理学
〃	兼任	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	講師	助教授	〃	〃	〃
千葉大学 教授 経済史	中央大学大学院 教授 欧洲経済史	政経学部一部 経営学科 講師 実務計算	法学部 講師 商法	法学部 助教授 民法、法学	教養部二部一般教育 教授 歴史学、日本史、外国史	同右	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学
2	2	4	2	2	4	2	4
2	2	4	2	2	4	2	4
大阪商科大学 昭一五・三 早稲田大学大学院 大一五・四入学	中央大学大学部経済科 大一一・三 経済学博士	専修大学商経学部 昭二七・三	明治大学大学院法学研究科 昭三五・三 法学修士	早大大学院法学研究科 昭三一・三 法学修士	東京文理科大学史学科 昭二五・三・一五 同大学研究科 昭二九・三・三一	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三 文学博士	京都帝大大学院地理学専攻 大三・三 文学博士
著 論二一	著九 論四〇	著三 論七	著四 論一四	著一 論一九	著三 論四	著二 論一七	著一八 論一三一
23年	37年	7年		9年	15年	26年	40年
40.4.1 8,000	40.4.1 8,000	36.4.1 4,000	41.4.1 4,000	36.4.1 6,000	41.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
多田　顕 大四・三・一三	大渕　彰三 明三二・四・二	鈴木　久男 大一三・三・二九	大矢　息生 昭七・七・四	大沢　正男 昭四・七・一五	藤井　秀夫 昭二・一・二一	大橋　与一 明三二・八・一〇	内田　寛一 明二一・三・三
千葉大学 昭三五・五 教授（経済学、経済原論、経済史、経済学史）	中央大学 昭二四・四 教授（西洋経済史）	都立立川短期大 昭三五・八 講師（珠算史） 国士舘大学 昭三九・一〇 講師（実務計算）		国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（民法）	国士舘大学 昭三五・一〇 助教授（歴史学、日本史、東洋史）	宇都宮大学 昭二六・三 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四 教授（地理学） 国士舘大学大学院 昭三九・一一 教授（大学院）（経済地理学）

専門科目（経済学科）	兼任	講師							
経済政策	〃	〃	亜細亜大学教授、経済原論、経済政策、経済学	2			2	東京外国語学校露語部 昭五・三 レニングラード大学 昭一二 経済学博士	著二〇 論二〇〇 数十
経済政策	〃	〃	早稲田大学教授、経済原論、経済政策	2			2	東京商科大学本科 昭五・三・二八	著三 論近五外
財政学	〃	〃	日本大学教授、財政学	2			2	日本大学商学部経済学科 昭二・二 経済学博士	著一 論四外多 数
統計学	〃	〃	日本大学教授、統計学	4			4	東京文理科大学数学科 昭七・三	著五 論六
〃	〃	〃	高崎経済大学教授、統計学	2			2	京都帝国大学経済学部 昭一二・四	著二 論一〇
社会政策 労働法	〃	〃	国学院大学教授、社会政策、労働法	4			4	東京帝国大学法科大学政治科 大七・七 経済学博士	著多 論一〇〇
憲法	〃	〃	高崎経済大学教授、憲法、法学	2			2	東京帝国大学法学部法律学科 昭一六・三	著一二 論一四
刑法	〃	〃	早稲田大学法学部教授、刑法	2			2	早稲田大学法学部独法科 昭三・三	著一〇 論三〇
商法	〃	〃	早大法学部助教授、商法	2			2	早稲田大学大学院法学部研究科 昭三五・三 法学修士	著一 論二三
6年	26年	21年	31年	8年	30年	38年	33年	22年	
40.4.1 6,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	37.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	38.4.1 8,000	39.4.1 8,000	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	男	
酒巻　俊雄 大一・五・五・一五（昭六・六・三）	斉藤　金作 明二六・一・二	三瀦　信吾 大五・九・二六	北岡　寿逸 明二七・七・一	中村　浩一 大二・五・二四	佐藤　輝実 明四一・一・一〇	小林　幾次郎 明三九・九・二二	北村　正次 明三九・九・二一	伊部　政一 明四一・七・七	
早稲田大学 昭四〇・四 助教授（商法）	早稲田大学 昭二四・四 教授（法学、憲法）	明治大学 昭二四・四 教授（法学、憲法）	国学院大学 昭二四・四 教授（社会政策、労働法）	高崎経済大学 昭三九・四 教授（経済統計）	麻布獣医大学 昭二四・四 講師（数学、統計）	日本大学 昭二四・三 教授（財政学）	早稲田大学 昭二四・四・一 教授（経済原論、経済政策）	亜細亜大学 昭三八・一〇 教授（経済学、経済学原論、経済政策、社会政策）	

〃	〃	〃	専門科目（経営学科）	〃	〃	〃	〃	〃
商学総論 市場論 市場調査 演習	税法 簿記原理 税務会計 演習	簿記原理 会計学 原価計算論 演習	経営学総論 経営学史 経営管理論 商業経営論 演習	職業指導	外国史	外書講読	貿易論	工業経済論
〃	〃	〃	専任	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	教授	〃	〃	〃	〃	〃
				共立女子大学 教授 心理学、教育 心理学	東京経済大学 教授 歴史学	新潟大学 助教授 経済学	早稲田大学 教授 貿易論	日大経済学部 教授 産業構造、工業経済論
8	6	6	10	2	2	2	2	2
2	2	2	2					
10	8	8	12	2	2	2	2	2
東京商大本科 昭五・三・二八	中央大学経済学部 昭六・三	セントルイス大学理財学部 大一〇・六	日大商学部商学科 大一二・三 ベルリン大学経営経済学 昭五・八 商学博士	日大大学院文学研究科（心理学専攻）（博士課程） 昭三二・三・三一 文学修士	東大文学部西洋史学科 昭一〇・三	東京帝大大学院社会科学研究科理論経済学 昭三三・三	東京帝大経済学部商業学科 昭二八・三	東京帝大経済学部商業学科 昭六・三
著九 論八	著七 論四	著七 論五	著七 論一二	著六 論一七	著三 論二	著一 論一一	著四 論一三	著四 論二二
17年	19年	22年	33年	10年	22年	10年	16年	10年
36.4.1 80,000	37.4.1 80,000	36.4.1 80,000	36.4.1 80,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 6,000	40.4.1 8,000	38.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
加藤　金三 明三九・二・二六	青木　茂康 明三六・九・二五	油谷　従爾 明二〇・一二・五	宇尾野　宗尊 明二三・三・六	高嶋　正士 大一四・八・二三	神保規一 明四五・一・一〇	公文　道明 大二二・一〇	田中　喜助 大一三・五・一六	土屋　宗太郎 明四〇・一〇・二三
国士舘大学 昭三六 助教授（商業学）	神奈川大学 昭三四・四 助教授（会計監査、原価計算、税法）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（簿記、会計学）	国士舘大学 昭三五・一一 教授（経営学、市場論、経営学史）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（心理学、教育心理学、青年心理学）	東京経済大学 昭三五・四 教授（歴史）	国士舘大学 昭三五・一二・一四 講師（外書講読）	早稲田大学 昭三二・四・一 教授（貿易論）	日本大学 昭三二・四 教授（産業構造、工業経済論）

科目	専任	教授						
専門科目（経営学科）	〃	〃		日大法律学科 明三九・五 経済学博士	2	2	著四 論二	14年	36.4.1 80,000	男	小山 正之助 明一八・一・二八	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（証券取引所研究）
取引所論	〃	〃		満洲国立ハルビン学院大学本科 昭一一・三二	2	2	著一 論五	13年	36.4.1 80,000	〃	八雲 香俊 大五・二一・一五	関東短期大学 昭二九・五 助教授（交通論）
交通論	〃	〃		東京帝大経済学部商業学科 大八・七	8	6	著二 論六	15年	36.4.1 80,000	〃	飯田 一彦 明二七・二・九	国士舘大学 昭三九・一一一 教授（大学院）（国際金融）
金融論 銀行論 外国為替論 外書講読 演習	〃	〃		中大商学部 昭三二・三 青山学院大学大学院 修士課程経済学研究科商学専攻 昭三四・三 経済学修士	6	4	著一 論六	7年	39.4.1 65,000	〃	佐藤 俊夫 昭九・三・七	日本女子経済短期大学 昭三七・四 講師（税務会計、会計監査、経営分析）
経営財務論 経営分析 演習	〃	〃		早大大学院博士課程 昭三六・三 経済学修士	4	4	著 論四	3年	38.4.1 40,000	〃	大塚 健太郎 昭六・二・二二	国士舘大学 昭三七・一一 講師（経済学、外書講読）
外書講読	〃	〃		専修大学商経学部商業学科 昭二七・三	4	4	著三 論七	7年	36.4.1 40,000	〃	鈴木 久男 大一三・三・二九	都立立川短期大 昭三五・八 講師（珠算史） 国士舘大学 昭三九・一〇 講師（実務計算）
実務計算	〃	〃		稲田大学専門部政治経済科 大四・六	2	2	著六 論三六	48年	40.4.1 8,000	〃	柴田 德次郎 明二三・一一・二〇	国士舘大学 昭三二・一〇・二四 学長
政治倫理学	兼担	教授	国士舘大学 学長									
経済原論	〃	〃	政経学部一部 経済学科大学院 教授 経済原論、経済学史								田辺 忠男 明二四・八・一一	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（理論経済学、経済学史）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
商法	〃	民法	東亜経済論 東亜経済史	景気変動論	財政学	外国為替論
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
法学部 教授 商法	政経学部二部 政治学科 教授 商法	法学部 教授 民訴法、破産法	政経学部二部 経済学科 教授 東亜経済論、東亜経済史	政経学部一部 経営学科 教授 金融論、景気変動論、外書講読	政経学部二部 経済学科大学院 教授 国際経済論、財政学	政経学部一部 経済学科大学院 教授 外国為替
2	2	2	4	6	4	4
			4			
2	2	2	8	6	4	4
明治大学法学部（大一三・三） 独エルランゲン大学法学部（昭一一・三）（ドクトルユリウス）	東京帝大文科大学哲学科 大五・七 東京帝大法学部政治学科 大一〇・四	早大大学部法学科独法科 大六・七 法学博士	東京商科大学 昭二・四	早稲田大学経済学部 大五 シカゴ大学 大九	東京帝大経済学部 大一〇・四 経済学博士	慶応大学理財科 大八・三
著二 論一	著 論五	著一二 論五〇	著九 論七	著一〇 論多数	著四 論二	著七 論三
10年	43年	44年	23年	43年	12年	14年
36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 80,000	36.4.1 8,000	36.4.1 80,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
佐野　重雄 明三五・二・二〇	清水谷　隆寛 明二三・一二・一六	中村　宗雄 明二七・八・九	鹿島　宗二郎 明三七・六・一三	出井　盛之 明二五・七・二八	森　武夫 明二二・一〇・一六	山崎　靖純 明二七・六・七
国士舘大学 昭三九・一〇 教授（商法）	香川大学 昭二四・三 教授（民法、法学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（民法）	早稲田大学 昭二四 教授（法学、民法）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（東亜経済史、東亜経済論）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（国際経済論、外書講読）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際経済、財政学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（国際経済論） 同右 昭四〇・一 教授（大学院）（外国為替研究）

科目	専門科（経営学科）	〃	〃	〃	〃	〃
	経済法	交通論 商業英語	哲学	倫理学	地理学	地誌学
兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	教養部二部一 般教育教授 法学 経済法	政経学部二部 経済学科 教授 交通論、商業 英語	文学部教育学 科倫理学専攻 教授 哲学	文学部教育学 科倫理学専攻 教授 倫理学、独語	文学部史学地 理学科地理学 専攻 教授 地理学	同右
	2	4	2	2	2	2
	2	4	2	2	2	2
	九州帝大法科 昭一二・三	早大商学部、早大大 学院 昭七・三	東京帝大文学部哲学 科 大一二・三	東京帝大大学院（倫 理学） 昭一一・一二	京都帝大大学院 大二・七 文学博士	東京外国語学校露語 部拓殖科 大一二・三 文学博士
	著二 論八	著 論二六	著四 論七	著五 論八	著一八 論一三一	著二 論一七
	21年	17年	40年	19年	40年	26年
	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	37.4.1 8,000	40.4.1 8,000
	男	〃	〃	〃	〃	〃
	宮田　幸吉 明四四・三・二二	八木　當三郎 明三四・一五	橘高　倫一 明三〇・一一・一	阿部　秀夫 明四三・二・一八	内田　寛一 明二一・三・三	大橋　与一 明三二・八・一〇
	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（法学、経済 法）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（交通論、商 業英語、演習）	宇都宮大学 昭二八・四・一六 教授（哲学）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（倫理学、独 語）	東京教育大学 昭二四・四 教授（地理学、地 誌学） 国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（経 済地理学）	宇都宮大学 昭二六・三 教授（地理学）
	上杉　重二郎 大三・八・二九	明四三・一一・一一 講師（独語）	昭三八・一一 史） 歴	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（日本史、		

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
貿易論	税法	会計監査論 管理会計	工業経営論	商業数学	民法	保険論	日本史 外国史	外国史
〃	〃	〃	兼任	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	講師	〃	〃	助教授	〃	〃
早稲田大学 教授 貿易論	日本大学法学部 講師 税法	中央大学 講師 会計監査論	中央大学工学部 講師 工業経営論	教養部一部一般教育 助教授 統計学	法学部 助教授 民法	政経学部一部経済学科 助教授 保険論、外書講読	教養部二部一般教育 教授 歴史学、日本史、東洋史	文学部史学地理学科東洋史学専攻 教授 東洋史学
2	2	4	2	2	2	2	4	2
2	2	4	2	2	2	2	4	2
早稲田大学商学部 （旧制） 昭二四・三	早大大学院法学研究科 昭三七・三 法学修士	中央大学商学部 昭七・三	中央大学大学院工場法研究 昭一〇・三・一	法大大学院 経済学修士	早大大学院法学研究科 昭三一・三 法学修士	早大大学院商学研究科（博士課程） 昭三三・三 商学修士	東京文理科大学史学科 昭二五・三・二五 同大学研究科 昭二九・三・三一	東京帝大文学部東洋史学科 大一四・三
著四 論一三	著五 論六〇	著一 論四	著 論二	著一 論七	著三 論一九	著一 論一一	著三 論四	著七 論三〇
16年	8年	7年	16年	8年	9年	11年	15年	40年
38.4.1 8,000	36.4.1 4,000	39.4.1 4,000	40.4.1 4,000	37.4.1 6,000	36.4.1 6,000	36.4.1 6,000	41.4.1 8,000	41.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
田中　喜助 大一三・五・一六	北野　弘久 昭六・一・二八	溝田　澄人 明三九・六・四	棚橋　義輝 明三七・八・一四	大牟田　盛文 昭五・三・二七	大沢　正男 昭四・七・一五	森田　健三 大一四・一一・二四	藤井　秀夫 昭二・一・二一	植村　清一 明三四・一・三〇
早稲田大学 昭三二・四・一 教授（貿易論）	山梨学院大学 昭三七・一一 講師（税法）	国士舘大学 昭三七・一 講師（会計監査論）	国士舘大学 昭三七・一 講師（工業経営論）	国士舘大学 昭三九・一〇 講師（統計学）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（民法）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（保険論、外書講読）	国士舘大学 昭三五・一〇 助教授（日本史、東洋史、歴史）	新潟大学 昭二四・四 教授（史学概論、東洋史学）

教職課程専門科目（各学科共通）	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	専門科目（経営学科）
教育原理 道徳教育の研究 教育史	職業指導	外国史	経営史	外書講読	商法	刑法	憲法	中小企業論 産業構造論
兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼任
教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	講師
文学部教育学科 教育学専攻 教授 教育学	共立女子大学 教授 教育心理学、職業指導	東京経済大学 教授 歴史	亜細亜大学 教授 経営史	新潟大学 助教授 経済学	早稲田大学 助教授 商法	早稲田大学法学部 教授 刑法	高崎経済大学 教授 憲法、法学	東京学芸大学 教授 金融論、中小企業論
6	2	2	2	2	2	2	2	4
6	2	2	2	2	2	2	2	4
東京高等師範学校専攻科 大一五・三	日大大学院文学研究科（心理学専攻）（博士課程） 昭三二・三・三一 文学修士	東大文学部西洋史学科 昭一〇・三	東京商科大学 昭一六・一一一	東京帝大大学院社会科学研究科理論経済学 昭三三・三	早大大学院法学研究科（博士課程） 昭三五・三 法学修士	早稲田大学法学部独法科 昭三・三	東京帝大法学部法律学科 昭一六・三	東京帝大経済学部商学科 昭七・三 経済学博士
著八 論一四	著六 論一七	著三 論二	著 論	著一 論一一	著一 論二三	著一〇 論三〇	著三 論一四	著七 論二七
40年	10年	22年	13年	10年	6年	26年	21年	18年
40.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4 8,000	36.4.1 6,000	40.4.1 6,000	36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	40.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	男
前野　喜代治 明三二・四・一〇	高嶋　正士 大一四・八・二三	神保　規一 明四五・一・一〇	松田　緝 大六・四・一九	公文　道明 大一二・二・一〇	酒巻　俊雄 昭六・六・二二	斉藤　金作 明二六・二・二	三瀦　信吾 大五・九・二六	細野　孝一 明三六・五・一五
弘前大学 昭二九・四 教授（教育学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（教育原理）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（心理学、教育心理学、青年心理学）	東京経済大学 昭三五・四 教授（歴史）	久留米大学 昭三六・三 教授（西洋近世社会経済史）	国士舘大学 昭三五・一二・一四 講師（外書講読）	早稲田大学 昭四〇・四 助教授（商法）	早稲田大学 昭二四・四 教授（法学、刑法）	明治大学 昭二四・四 教授（法学、憲法）	東京学芸大学 昭二六・四 教授（金融論、中小企業論）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
図書館学	商業科教育法	教育原理 教育史 教育行政	教育心理学（含、青年心理学）	教育原理	社会科教育法 教育実習	教育行政学
〃	〃	〃	兼任	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	講師	〃
共立女子大学 文芸学部 教授 図書館学	東洋大学 教授 商業科教育 法、職業指導	日本大学 助教授 教育学	共立女子大学 教授 心理学、教育心理学	文学部教育学科教育学専攻 講師 教育学	同右 講師 教育学	同右 教授 教育行政学、教育原理、学校管理
2	2	6	2	2	6	2
2	2	6	2	2	6	2
東京帝大文学部国文学科 昭三・三	中央大学経済学部 昭一八・九	東大大学院 昭三三・三 教育学博士	日大大学院文学研究科心理学専攻（博士課程） 昭三二・三・三 文学修士	早稲田大学大学院文学研究科 昭三二・三・一	東京高師研究科 昭五・三	東京文理科大学教育学科 昭七・三
著六 論多数	著四 論七	著四 論一二	著六 論一七	著四 論七	著一二 論一	著二 論三五
14年	17年	6年	10年	1年	25年	22年
36.4.1 8,000	36.4.1 8,000	36.4.1 6,000	36.4.1 8,000	40.4.1 4,000	39.4.1 4,000	41.4.1 8,000
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
土井　重義 明三七・九・三	小川　福次郎 大元・九・九	尾形　利雄 大一一・一・二七	高嶋　正士 大一四・八・二三	長田　三男 昭七・六・六	下地　恵常 明三七・五・一一	森　純吾 明三六・五・一三
共立女子大学 昭三九・四 教授（図書館学）	東洋大学 昭三八・四 教授（社会政策、職業指導、商業科教育法）	国士舘大学 昭三七・一 講師（教育史、教育原理、教育行政）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（心理学、教育心理学、青年心理学）	国士舘大学 昭三九・一〇 講師（教育学）	千葉敬愛短期大学 昭三六・八・二九 講師（教育社会学）	岩手大学 昭二四・二 教授（教育行政、教育原理、学校管理）

〃	〃	〃	〃	一般教育人文科学		授業科目の区分
倫理学	倫理学	倫理学	哲学 倫理学	哲学	実践倫理	担当授業科目名
兼担	〃	専任	兼担	〃	専任	専任兼担兼任の別
教授	〃	講師	〃	教授	学長	職名
文学部教育学科倫理学専攻教授　倫理学、独語			教養部一部一般教育教授　哲学、倫理学、倫理学			兼担または兼任の場合専任の職名または職務および担当学等科目名
2	2	2	4	2	2	講義
						演習
						実習実験
2	2	2	4	2	2	計
東京帝大大学院（倫理学）昭一一・一二	中央大学大学院文学研究科（哲学）修士課程昭三八・三	東大大学院人文科学研究科昭三九・三文学修士	早稲田大学大学院文学部大一五・三	東京帝大文学部大学院哲学科昭二三・四	早大専門部政治経済科大四・六	最終卒業学校学部学科名卒業年月および学位称号
著五論八	著論四	著論四	著五論一九外	著三論四	著六論三六	著書および学術論文数
19年	3年	2年	40年	39年	48年	教歴
41.4 8,000	410.4 40,000	40.4 40,000	43.4 8,000	40.4 80,000	40.4 200,000	採用年月および月額基本給
男	男	男	男	男	男	性別
阿部　秀夫 明四三・二・一八	滝上　勉 昭五・一一・九	藤村　龍雄 昭一一・二・一三	小山　甫文 明三一・一・三	太田　定康 明三三・八・三	柴田　徳次郎 明二三・一一一	氏名 生年月日
国士舘大学昭三九・一〇教授（倫理学、独語）		国士舘大学昭三九・一〇講師（倫理学）	早稲田大学昭二四・四教授（哲学、倫理学）昭二八・四教授（大学院）（哲学、倫理学）	国士舘大学昭三二・一〇・二四教授（哲学）	国士舘大学昭三二・一〇・二四学長	備考

一般教育社会科学	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
法学	地理学	地理学	文学Ⅱ	文学Ⅱ	文学Ⅰ	文学Ⅰ	倫理学
専任	〃	兼担	兼任	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	教授	〃	助教授	講師
	同右 教授 地理学	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学、生物学、	短大国文科 教授 漢文講読	教養部一部一般教育 教授 漢文学、中国文学	同右	文学部文学科国語国文学専攻 助教授 国文学	文学部教育学科倫理学専攻 講師 倫理学
2	2	2	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2	2
九州帝国大学法科 昭一二・三	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三 文学博士	東京高等師範学校理科第三部甲組 昭二・三		早大高等師範部国語漢文科 大三・七	早大大学院（旧制）国文学専攻 昭和二八・二	早稲田大学大学院（旧制）文学研究科 昭二八・三	東京大学大学院 昭二三・一〇
著二 論八	著二 論一七	著一九 論五四	著五 論	著 論四	著一 論一九	著一 論九	著三 論二
21年	26年	30年	42年	51年	8年	11年	6年
40.4 80,000	40.4 8,000	41.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	41.4 6,000	41.4 6,000	40.4 4,000
男	男	男	男	男	男	男	男
宮田　幸吉 明四四・三・二二	大橋　与一 明三二・八・一〇	山口　俊策 明三四・一一・一〇	新田　興 昭二四・二・二五	成井　弘文 明二三・三・二八	今成　元昭 大一四・一一・三〇	伊藤　康円 大一一・一一・八	渡辺　寿伝治 大二・九・二九
国士舘大学 昭三九・一〇 教授（法学、経済法）	宇都宮大学 昭二六・二 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四 教授（地学、生物学、地理学）	至徳短期大学 昭二四・一・二四 教授（漢文学）	広島女学院大学 昭二七・八 教授（漢文学） 昭三九・一〇 教授（中国文学）		多摩美術大学 昭二九・四 講師（国文学）	

〃	〃	〃	〃	〃	一般教育 社会科学
社会学	経済学	経済学	政治学	法学	法学
兼担	兼任	〃	〃	〃	兼担
教授	講師	〃	教授	助教授	教授
教養部一部一般教育教授 社会学	亜細亜大学教授（経済学部長） 経済政策、農業政策、資源論	教養部一部一般教育教授 経済学、東洋経済	政経学部二部政治学科教授 政治学、国際政治、外交史	法学部助教授 刑法、刑事政策、法学	政経学部一部政治学科教授 国際法、法学
2	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2
東京帝国大学文科大学哲学科 大三・七 文学博士	北海道帝大農学部 大一一・三一 東京帝大法学部政治学科 大一四・三 農学博士	京都帝大経済学部 大一二・三一 経済学博士	東京帝大法科大学政治学科 大三・六 法学博士	早稲田大学大学院法学研究科 昭三〇・三 法学修士	早稲田大学大学院法学研究科 昭三〇・三 コロンビヤ大学ロー・スクール国際法研究 昭三五・九・三　八・六 法学修士
著四 論一九	著五 論六外	著一五 論六	著六 論五	著六 論一四	著 論三
51年	45年	47年	20年	7年	22年
41.4 8,000	40.4 8,000	40.4 80,000	40.4 8,000	40.4 6,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男
綿貫　哲雄 明一八・八・三	半沢　耕貴 明三〇・三・一四	岩田　耕作 明一五・九・一一	三枝　茂智 明二一・一〇・二三	北山　茂 昭四・四・二八	柴田　梵天 大六・六・二八
中央大学 昭二四・四 教授（社会学）	亜細亜大学 昭二九・一〇 教授（経済政策） 昭三九・四 教授（経済政策（総論）、農業政策、資源論）	日本大学 昭二四・四 教授（経済学、農業経済）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際政治学、外交史）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（法学、刑法、刑事政策）	国士舘大学 昭三二・一一 助教授（法学） 昭三九・一〇 助教授（国際法）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教育学	心理学	心理学	歴史学	歴史学	歴史学	社会学
兼担	兼任	兼担	兼任	兼担	専任	〃
教授	〃	〃	講師	〃	〃	〃
文学部教育学科教育学専攻教授	共立女子大学教授心理学、教育心理学	教養部一部一般教育講師心理学	東京経済大学教授歴史、西洋史	教養部一部一般教育教授歴史学		政経学部一部経済学科教授社会政策、人口学、社会学、英語
2	2	2	2	2	4	2
2	2	2	2	2	4	2
東京高等師範学校専攻科修身教育学科大一五・三	日大大学院文学研究科（博士課程）心理学専攻昭三二・三文学修士	東京文理科大学哲学科倫理学専攻昭九・三	東京帝国大学文学部西洋史学科昭一〇・三	東京文理科大学史学科昭二二・九同特別研究生昭二四・九	東京文理科大学史学科昭二五・三同大学研究科昭二九・三	米国ワシントン官立大学院文学部社会学科大一五・六M・A
著八論一四	著六論一七	著七論三	著三論二	著〇論一一	著三論四	著一四論三二
40年	10年	35年	22年	18年	15年	34年
40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 4,000	41.4 8,000	41.4 8,000	40.4 80,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男
前野　喜代治 明三二・四・一〇	高島　正士 大一四・八・二三	岡田　亮一 明三三・四・二六	神保　規一 明四五・一・一〇	光島　督 大一三・一二・四	藤井　秀夫 昭二・一・二一	西野入　徳 明二〇・一二・一二
弘前大学昭二九・四教授（教育学）国士舘大学教授（教育原理）	国士舘大学昭三九・一〇教授（心理学、教育心理学、青年心理学）	昭和薬科大学昭二五・四教授（心理学、倫理学）	東京経済大学昭三五・四教授（歴史）	四国学院大学昭二九・四助教授（歴史学）	国士舘大学昭三五・一〇助教授（日本史、東洋史、歴史学）	国士舘大学昭三九・一一教授（大学院）（社会学、人口学、社会学）国士舘大学昭三五・一〇教授（英語）

〃	〃	〃	〃	〃	一般教育自然科学	〃	〃	一般教育社会科学
数学	数学	地学	地学	生物学	生物学	統計学	統計学	教育学
〃	〃	〃	〃	兼担	専任	兼任	〃	兼担
〃	教授	講師	〃	教授	助教授	講師	助教授	講師
工学部建築学科教授応用数学	教養部一部一般教育数学	教養部一部一般教育講師地学	教養部一部一般教育教授地学	教養部一部一般教育教授生物学		高崎経済大学教授統計学	教養部一部一般教育助教授統計学	同右講師教育学
2	2	2	2	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2
広島文理大数学科昭一四・三	東京物理学校高等師範科数学部昭九・三	熊本高等工業学校採鉱冶金科昭五・三	東京帝大理科大学地質学科大一〇・五理学博士	東京帝国大学理学部植物学科選科大一一・三	北海道帝大農学部農業生物学科（動物学専攻）大一三・三	京都大学経済学部昭一二・四	法大大学院博士課程昭三九・三経済学修士	早稲田大学大学院文学研究科（修士課程）昭三二・三文学修士
著四論四	著四論二七	著論四	著一論一七	著四論	著論一	著二論一〇	著二論七	著四論七
11年	13年	2年	15年	42年	18年	8年	8年	1年
40.4 8,000	41.4 80,000	41.4 4,000	40.4 8,000	41.4 8,000	40.4 65,000	40.4 8,000	40.4 4,000	40.4 4,000
男	男	男	男	男	男	男	男	男
真鍋　秀勝 明四二・一・二〇	田制　初穂 大三・三・一五	飯野　丹次 明三八・三・三	赤木　健 明二八・一〇・三	向坂　道治 明三八・一一・二八	松木　豊雄 明三二・四・一	中村　浩 大二・五・一四	大牟田　盛文 昭五・三・二七	長田　三男 昭七・一・六
国士舘大学昭三九・一〇講師（数学）	国士舘大学昭三九・一〇教授（数学）		お茶の水女子大学昭三五・四教授（地学）	早稲田大学昭二四・四教授（生物学）	国士舘大学昭三九・一〇講師（生物学）	高崎経済大学昭三九・四教授（経済統計）	国士舘大学昭三九・一〇講師（統計学）	国士舘大学昭三九・一〇講師（教育学）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	外国語科目	〃
独逸語	独逸語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	自然科学概論
兼担	専任	兼任	〃	〃	兼担	〃	専任	〃
教授	〃	講師	〃	〃	教授	助教授	〃	〃
教養部一部外国語教授、独逸語、文学Ⅱ		鹿島建設参与、鹿島研究所員	同右	同右	教養部一部外国語科目教授英語			教養部一部一般教育教授、物理学、自然科学概論
4	4	4	4	4	4	8	8	2
4	4	4	4	4	4	8	8	2
東京帝大文科大学独逸文学科大八・七	陸軍大学昭三・三	中央大学経済学部大一四・三カリフォルニヤ大学文学部国際関係科昭三・三	明治大学商科専門部正科大六・九	東北帝国大学法文学部昭三・三	東京外国語学校英語部大八・三	東京帝国大学文学部英文学科昭一六・一二	東京帝国大学法学部英法科大九・七	京都大学理学部化学科昭四・三
著一二外論七	著一論	著九論	著四論六	著訳一八	著一六論一二	著一論四	著一論六	著六論一〇三
45年	4年	2年	44年	47年	38年	11年	20年	36年
41.4 8,000	40.4 40,000	40.4 4,000	41.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 65,000	41.4 80,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男	男	男
関泰祐 明二三・一〇・二五	山口貞男 明三三・五・七	磯部佑一郎 明三四・一一・八	可児猛 明二九・一〇・一〇	石川正通 明三〇・九・二五	橋本修 明二八・二・一八	今津藤一 大七・二・二八	塚本貞一 明二八・九・一一	小田切瑞穂 明三七・七・一三
茨城大学教授（独逸語）昭二四・四 天理大学教授（外国文学）昭三八・四			国士舘大学教授（英語）昭三五・一〇	順天堂大学教授昭二四・四	明治大学教授（英語、商業英語）昭二八・四	国士舘大学助教授（英語）昭三九・一〇	国士舘大学教授（英語）昭三九・一〇	近畿大学教授（物理学）昭二九・九 国士舘大学教授（自然科学概論）昭三九・一〇

保健体育	〃	〃	〃	〃	〃	外国語科目
体育講義	中国語	露語	仏語	独逸語	独逸語	独逸語
〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼担
教授	〃	講師	〃	〃	〃	教授
教養部一部保健体育教授体育理論、体操	同右講師中国語、漢文学	教養部一部外国語科目講師露語	政経学部一部経済学科教授労働法、社会政策、仏語	文学部史学地理学科国史学専攻教授日本史、独語	文学部教育学科倫理学専攻教授倫理学、独語	教養部一部外国語科目教授ドイツ語
2	4	4	4	4	4	4
2	4	4	4	4	4	4
東京高師体育専修科大六・三	東京教育大学大学院文学研究科中国古典学専攻（修士課程）昭三八・三文学修士	旧制留萌中学昭一〇・三関東軍露語教育隊高等科昭一六・六	東京帝国大学大学院仏商法専修大六パリー大学社会法聴講大一〇～一一	東京帝国大学文学部国史学科昭一三・三	東京帝国大学大学院（倫理）昭一一・一二	早稲田大学文学部独文学科昭三・三
著四論	著二論一三	著四論	著四論七	著六論一五	著五論八	著三訳三六論三
45年	8年	2年	40年	25年	19年	13年
40.4 8,000	41.4 4,000	41.4 4,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男
森秀明二五・三・二八	許常安昭三・一・一	稲垣敏夫大六・一一・九	星野辰雄明二五・四・一八	上杉重二郎大三・八・二九	阿部秀夫明四三・二・一八	藤原肇明三四・四・一六
国士舘大学昭三二・一一教授（体育方法、体操）			国士舘大学昭三九・一〇教授（労働法、社会政策、仏語）	国士舘大学昭三九・一〇教授（日本史、歴史）昭三八・一二講師（独語）	国士舘大学昭三九・一〇教授（倫理学、独逸語）	国士舘大学昭三九・一〇助教授（独逸語）

三、政治経済（ママ）学部二部（専門科目）

〃	〃	専門科目（政治学科）	授業科目の区分		〃
刑法	民法	国際政治論 外交史 演習	担当授業科目名		体育実技
〃	〃	専任	専任兼担兼任の別		〃
講師	〃	教授	職名		助教授
			兼任の場合専任または兼担職務の名称および担当学科等科目名		同右 助教授 体育方法
4	4	4	講義	毎週授業時数	2
		2	演習		
			実習実験		
4	4	6	計		2
早稲田大学大学院法学研究科公法学専攻刑法専修（修士課程）昭三八・三	東京帝大文科大学哲学科大五・七 同法学部政治学科大一〇・四	東京帝国大学法科大学政治学科大三・六 法学博士	最終卒業学校学部学科名卒業年月および学位称号		日本体育大学体育学部体育科昭三一・三 東京大学教育学部体育研究室三年修了昭三四・三
訳五 論一	著 論五	著六 論五	著書および学術論文数		著一 論六
2年	43年	20年	教歴		9年
41.4 40,000	40.4 80,000	40.4 80,000	採用年月および月額基本給		40.4 6,000
男	男	男	性別		男
富田　敬一 昭一一・六・二	清水谷　隆寛 明二三・一二・一六	三枝　茂智 明二一・一〇・二三	氏名 生年月日		服部　利夫 昭五・一一・一三
	香川大学 昭二四・四 教授 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（民法）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際政治学、外交史）	備考		国士舘大学 昭三四・四 講師（体育方法）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	専門科目（政治学科）
社会学原論	国際法	国際法 外交史	政治学原論 日本政治史 日本政治思想史	政治倫理学	外国政治書講読	国際関係論 外国政治書講読 演習
〃	〃	〃	〃	兼担	〃	専任
〃	〃	〃	〃	教授	〃	講師
教養部一部一般教育教授 社会学	政経学部一部政治学科教授 国際法、法学	政経学部一部政治学科、同大学院教授 国際法、外交史	政経学部一部政治学科、同大学院教授 国際法、外交史	国士舘大学学長		
2	2	4	6	2	4	4
						2
2	2	4	6	2	4	6
東京帝国大学文科大学哲学科大三・七 文学博士	早稲田大学大学院法学研究科昭三〇・三 コロンビヤ大学ロー・スクール国際法研究昭三五・九・三　八・六 法学修士	旧山口高等商業学校明四一・三 法学博士	早稲田大学大学院政治学研究科大八・九	早稲田大学専門部政治経済科大四・六	早稲田大学大学院法学研究科昭三六・三 法学修士	早稲田大学大学院法学研究科昭三五・三 法学修士
著四 論一九	著 論三	著一二 論二〇	著八 論一五	著六 論三六	著 論四	著二 論二一
51年	22年	15年	34年	48年	1年	6年
41.4 8,000	40.4 8,000	42.4 8,000	42.4 8,000	40.4 8,000	40.4 40,000	40.4 40,000
男	男	男	男	男	男	男
綿貫哲雄 明一八・八・三	柴田梵天 大六・六・二八	田村幸策 明二〇・三・五	内田繁隆 明二四・一一・二	柴田徳次郎 明二三・一一・二〇	奥原敏雄 昭七・一二・一六	落合淳隆 昭七・六・二
中央大学 昭二四・四 教授（社会学）	国士舘大学 昭三二・一二 助教授（法学） 昭三九・一〇 助教授（国際法）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際法、外交史）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（政治学、政治史）	国士舘大学 昭三二・一〇・二四 学長	国士舘大学 昭三九・一〇 講師（外書講読）	国士舘大学 昭三九・一〇 講師（国際関係論、外書講読、演習）

〃	〃	〃	〃	〃	〃
金融論	経営学	財政学 国際経済論 演習	経済原論	労働法	商法
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
政経学部一部 経営学科 教授 金融論、銀行論	政経学部一部 経営学科 教授 経営学	政経学部二部 経済学科 教授 財政学、国際経済論	政経学部一部 経済学科、同 大学院 教授 経済原論、経済学史	政経学部一部 経済学科 教授 労働法、社会政策、仏語	法学部 教授 商法、独逸語
2	2	4	2	2	2
		2			
2	2	6	2	2	2
東京帝国大学経済学部商業学科 大八・七	日本大学商学部商学科 大一二・三 ベルリン大学経営経済学市場論 昭五・七 商学博士	東京帝国大学経済学部 大一〇・四 ハーバード大学、ジョーンズ・ホプキンス大学 経済学博士	東京帝大法科大学経済学科 大五・四 経済学博士	東京帝国大学大学院 仏商法専修 大七 パリー大学社会法聴講 大一〇・一一	明治大学法学部 大一三・三 独 エルランゲン大学法学部 昭一〇 ドクターユリス
著二 論六	著七 論一二	著六 論二	著六 論多数	著四 論七	著二 論一
15年	33年	13年	44年	40年	10年
40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男
飯田　一彦 明二七・二・九	宇尾野　宗尊 明二三・三・六	森　武夫 明二二・一〇・一六	田辺　忠男 明二四・八・一一	星野　辰雄 明二五・四・一八	佐野　重雄 明三五・二・八
国士舘学 昭三九・一二 教授（大学院）（国際金融）	国士舘大学 昭三五・一一 教授（経営学、市場論）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際経済、財政学）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（理論経済学、経済学史）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（労働法、社会政策、仏語）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（商法、独語）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	専門科目（政治学科）
日本史	倫理学	哲学	地誌学	地理学	新聞学演習	国際文化政策論演習
〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼担
〃	〃	〃	〃	〃	〃	教授
文学部史学地理学科国史学専攻教授日本史、独語	文学部教育学科倫理学専攻教授倫理学、独語	文学部教育学科倫理学専攻教授哲学	同右	文学部史学地理学科地理学専攻教授地理学	政経学部一部政治学科教授新聞学	政経学部一部政治学科教授国際文化政策論、国際法
2	2	4	2	2	2	2
					2	2
2	2	4	2	2	4	4
東京帝国大学文学部史学科昭一三・三	東京帝国大学文学部倫理学科大学院昭一一・一二	東京帝国大学文学部哲学科大一二・三	東京外国語学校露語部拓殖科大一二・三文学博士	京都帝国大学大学院地理学専攻大三・三文学博士	中央大学法学部（英法）昭六・三	東京帝国大学法学部政治学科昭一九・九
著六論一五	著五論八	著四論七	著二論一七	著一八論一三一	著七論六	著七論二四
25年	19年	40年	26年	40年	11年	17年
40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	41.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男
上杉　重二郎 大三・八・二九	阿部　秀夫 明四三・二・一八	橋高　倫一 明三〇・一一・一	大橋　与一 明三二・八・一〇	内田　寛一 明二一・三・三	金子　喜蔵 明三六・一一・二三	桜井　光堂 大四・二・二三
国士舘大学昭三九・一〇教授（日本史、歴史）昭三八・一二講師（ドイツ語）	国士舘大学昭三九・一〇教授（倫理学、独乙語）	宇都宮大学昭二八・四教授（哲学）	宇都宮大学昭二六・三教授（地理学）	東京教育大学昭二四・四教授（地理学）国士舘大学昭三九・一一教授（大学院）（経済地理学）	国士舘大学昭三九・一〇教授（新聞学、演習）	国士舘大学昭三九・一〇教授（国際文化政策論）北九州大学昭三〇・四助教授（国際法）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
政治心理学	西洋政治史	商法	政治思想史	外国政治書講読、外交史	刑法、刑事政策演習	民法
〃	兼任	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	講師	〃	〃	助教授
早大経済学部教授、政治心理学	東海大学助教授、政治史	政経学部二部経済学科講師、商法	政経学部一部政治学科、同大学院講師、政治思想史、政治学史	政経学部一部政治学科助教授、外国政治書講読、外交史	法学部助教授、刑法、刑事政策、法学	法学部助教授、民法
2	2	2	2	2	4	2
					2	
2	2	2	2	2	6	2
早大政経学部政治学科、昭一八・九	早大政経学部政治学科、昭二六・三	青山学院大学大学院経済研究科（商科専攻）、昭三八・三、同大学院法学研究科（私法専攻）、昭四〇・三、法学修士、経済学修士	早大政治経済学部政治学科、大一五・三、法学博士	早大政治経済学部政治学科、昭二二・九、早大大学院法学研究科特別研究生課程、昭三〇・三	早大大学院法学研究科、昭三〇・三、法学修士	早大大学院法学研究科修士課程、昭三一・三、法学修士
著二、論五	著三、論二	著、論一	著一、論	著四、論二八	著六、論一四	著三、論一九
17年	4年	7年	3年	10年	7年	9年
40.4 8,000	40.4 6,000	41.4 4,000	40.4 4,000	40.4 6,000	40.4 6,000	40.4 6,000
男	男	男	男	男	男	男
勝村茂、大九・二・二三	福寿幸雄（男）、大一五・七・一三	城山昇、大一五・七・一	大西藤米治、明三二・一一・一	清水良三、大一四・六・九	北山茂、昭四・四・二八	大沢正男、昭四・七・一五
早稲田大学昭三一・四教授（政治学）	国士舘大学昭三九・一〇講師（西洋政治史）		国士舘大学昭三九・一一講師（大学院）（政治思想）	国士舘大学昭三九・一〇助教授（外書講読、外交史）	国士舘大学昭三九・一〇助教授（法学、刑法、刑事政策）	国士舘大学昭三九・一〇助教授（民法）

科目	兼任	講師							
専門科目（政治学科）	〃	〃	政治制度論	同右 教授 政治学	2			2	早大政経学部政治学科 大一三 政治学博士	著五 論多数	36年	40.4 8,000	男	吉村 正 明三三・三・二三	早稲田大学 昭二四・四 教授（政治学）
〃	〃	〃	外国政治書講読	早大法学部 助教授 外交史	2			2	早大法学部旧大学院 修了 昭三五・三・三一	著三 論一〇	9年	40.4 6,000	男	大畑 篤四郎 昭四・二・二六	早稲田大学 昭四〇・四 助教授（外交史、演習）
〃	〃	〃	憲法	高崎経済大学 教授 憲法	2			2	東京帝国大学法学部 法律学科 昭一六・三	著三 論一四	19年	40.4 8,000	男	三潴 信吾 大五・九・二六	明治大学 昭二四・四 教授（法学、憲法）
〃	〃	〃	経済原論 社会政策	亜細亜大学 教授	4			4	東京外語学校露語部 昭五・三 レニングラード大学 昭一二 経済学博士	著二〇 論二〇〇 数十	22年	40.4 8,000	男	伊部 政一 明四一・七・七	亜細亜大学 昭三八・一〇 教授（経済政策、経済学原論、社会政策）
〃	〃	〃	経済学原論	青山学院大学 教授 経済原論、経済学史、経済	2			2	東京帝国大学経済学部経済学科 昭五・三	著一〇 論多数	22年	40.4 8,000	男	日下 藤吾 明四一・一・二六	青山学院大学 昭三一・二 教授（経済原論、経済学）
〃	〃	〃	民法	早大法学部 助教授 民法、民事訴訟法	2			2	早大法学部旧制大学院 昭三〇・三	著五 論二〇	10年	40.4 6,000	男	内田 武吉 大一五・九・一二	早稲田大学 昭三七・四 助教授（民法、民訴法）
〃	〃	〃	民法 司法制度	山梨学院大学 法学部 助教授 民法、民訴法	4			4	早大大学院法学研究科 昭三一・三	著 論九	4年	40.4 6,000	男	杉浦 智紹 昭六・二・四	山梨学院大学 昭三八・四 助教授（民訴法）
〃	〃	〃	商法	早大法学部 助教授 商法	2			2	早大大学院法学研究科（博士課程） 昭三五・三 法学修士	著二 論二三	6年	40.4 6,000	男	酒巻 俊雄 昭六・六・二二	早稲田大学 昭四〇・四 助教授（商法）
〃	〃	〃	行政法	早大教育学部 教授 行政法	2			2	東大大学院 昭一三・四 法学博士	著五 論一九	16年	40.4 8,000	男	三宅 太郎 明四五・二・一〇	早稲田大学 昭二二・四 教授（行政学）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	専門科目（経済学科）	〃
経済原論 経済学史	政治倫理学	商法	外国経済書講読	交通史 商業英語演習	東亜経済史 東亜経済論演習	財政学 国際経済論演習	外国史
〃	兼担	〃	〃	〃	〃	専任	〃
〃	教授	〃	講師	〃	〃	教授	〃
政経学部一部経済学科、同大学院教授 経済原論、経済学史	国士舘大学学長						東京経済大学教授 歴史学
2	2	4	2	2	4	4	2
				4	4	2	
2	2	4	2	6	8	6	2
東京帝大法科大学経済学科 大五・四 経済学博士	早大専門部政治経済科 大四・六	青山学院大学大学院経済研究科（商科専攻） 昭三八・三 同大学院法学研究科（私法専攻） 昭四〇・三 法学修士 経済学修士	早大大学院商学研究科（博士課程） 昭三三・三	早大商学部、早大大学院（交通経済学専攻） 昭七・三	東京商科大学 昭二・四	東京帝大経済学部 大一〇・四 ハーバード大学、ジョンズ・ホプキンス大学 経済学博士	東大文学部西洋史学科 昭一〇・三
著六 論多数	著六 論三六	著 論二	著一 論	著 論二四	著九 論七	著六 論二	著三 論二
44年	48年	7年	10年	17年	23年	13年	22年
40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 40,000	40.4 40,000	40.4 80,000	40.4 80,000	40.4 8,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男	男
田辺　忠男 明二四・八・一一	柴田　德次郎 明二三・一一・二〇	城山　昇 大一五・七・一	後藤　友日子 大一二・一一・二	八木　常三郎 明三四・一五	鹿島　宗二郎 明三七・六・一三	森　武夫 明二二・一〇・一六	神保　規一 明四五・一・一〇
国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（理論経済学、経済学史）	国士舘大学 昭三二・一〇・二四 学長		国士舘大学 昭三九・一〇 講師（外書講読）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（交通論、商業英語、演習）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（東亜経済史、東亜経済論）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際経済、財政学）	東京経済大学 昭三五・四 教授（歴史）

専門科目（経済学科）	経済史 東洋経済史	民法	商学総論 経営学総論	簿記原理 会計学原理	商法	国際経済論
兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃
教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃
経済学部一部 経済学科、同 大学院 教授 東洋経済史、 経済史	政経学部二部 政治学科 教授 民法	政経学部一部 経営学科 教授 経営学総論、 商法総論	同右 教授 簿記、会計、 原価計算	法学部 教授 商法、独語	政経学部一部 経済学科、同 大学（院カ） 外国為替論	〃
4	2	4	2	2	2	2
4	2	4	2	2	2	2
東京高等商業学校専攻部 明四〇・七 経済学博士	東京帝大文科大学哲学科 大五・七 東京帝大法科大学政経学科 大一〇・四	日大商学部商学科 大一二・三 ベルリン大学経営経済学市場論 昭五・七 商学博士	セントルイス大学商理財学部 大一〇・六	明大法学部法律科 大一三・三 独乙エルランゲン大学法学部 昭一一・三 ドクターユリス	慶応大学理財科 大八・三	〃
著八 論九	著 論五	著七 論一二	著七 論五	著二 論一	著七 論三	〃
48年	43年	33年	22年	10年	14年	〃
40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	〃
男	男	男	男	男	男	〃
田崎　仁義 明一三・七・二五	清水谷　隆寛 明二三・一二・一六	宇尾野　宗尊 明二三・三・六	油谷　従爾 明二〇・一二・五	佐野　重雄 明三五・二・八	山崎　靖純 明二七・六・七	〃
国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（東洋経済史、経済史）	香川大学 昭二四・四 教授（民法、法学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（民法）	国士舘大学 昭三五・一二 教授（経営学、市場論）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（簿記、会計学、原価計算）	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（商法、独語）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（国際経済論） 同右 昭四〇・一 教授（大学院）（外国為替研究）	〃

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
労働法	国際経済論外書講読	経済法演習	新聞学	取引所論	金融論	社会政策
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
同右教授、労働法、仏語、社会政策	政経学部一部経済学科教授国際経済、外書講読	教養部二部一般教育教授法学、経済法	政経学部一部政治学科教授新聞学	政経学部一部経営学科、同大学院教授証券取引所研究	同右、同大学院教授国際金融	政経学部一部経済学科、同大学院教授社会政策、人口学、社会学
2	4	2	2	2	2	2
		2				
2	4	4	2	2	2	2
東京帝大大学院仏商法専修大七パリー大学社会法聴講大一〇・一一	ニュージーランド大学経済学部一九四六年（M・A）	九州帝大法科昭一二・三	中央大学法学部（英法）昭六・三	日本大学法律学科明三九・五経済学博士	東京帝国大学経済学部商業学科大八・七	米国ワシントン官立大学院文学部社会学科（M・A）大一五・六
著四論七	著六論五	著二論八	著七論六	著四論二	著二論六	著一四論三二
40年	15年	21年	11年	14年	15年	34年
40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男
星野　辰雄明二五・四・一八	ジェ・ビ・カニングハム一九二五・一・一九	宮田　幸吉明四四・三・二二	金子　喜蔵明三六・一一・二三	小山　正之助明一八・一・二八	飯田　一彦明二七・二・九	西野入　徳明二〇・二・一二
国士舘大学昭三九・一〇教授（労働法、社会政策、仏語）	中央大学昭二五講師（国際経済論、外書講読）国士舘大学昭三九・一一教授（国際経済論、外書講読）	国士舘大学昭三九・一〇教授（法学、経済法）	国士舘大学昭三九・一〇教授（新聞学、演習）	国士舘大学昭三九・一一教授（大学院）（証券取引所研究）	国士舘大学大学院昭三九・一一教授（大学院）（国際金融論）	国士舘大学昭三九・一一教授（大学院）（社会政策、人口学）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	専門科目（経済学科）
倫理学	哲学	地誌学	経済地理 地理学	国際法	政治学原論	国際法
〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼担
〃	〃	〃	〃	〃	〃	教授
文学部教育学科倫理学専攻 教授、倫理学、独語	教養部一部一 般教育 教授 哲学	同右 教授 地理学	文学部史学地理学科地理学専攻 教授 地理学、経済地理学	同右 教授 国際法	同右 教授 政治学、政治史	政経学部一部 政治学科、同 大学院 教授 国際法、外交史
2	2	2	4	2	2	2
2	2	2	4	2	2	2
東京帝大文学部倫理学科大学院 昭一一・一二	東京帝大文学部哲学科 大一二・三	東京外国語学校露語部拓殖科 大一二・三 文学博士	京都帝大大学院地理学専攻 大二・三 文学博士	早大大学院法学研究科 昭三〇・三 コロンビヤ大学、 ロー・スクール国際法研究 昭三五・九・三　八・六 法学修士	早大大学院政治学研究科 大八・九	旧山口高等商業学校 明四〇・三 法学博士
著五 論八	著四 論七	著二 論一七	著一八 論一三一	著 論三	著八 論一五	著一二 論二〇
19年	40年	26年	40年	22年	34年	15年
40.4 8,000	40.4 8,000	41.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男
阿部　秀夫 明四三・二・一八	橋高　倫一 明三〇・一一・一	大橋　与一 明三二・八・一〇	内田　寛一 明二一・三・三	柴田　梵天 大六・六・二八	内田　繁隆 明二四・一一・二	田村　幸策 明二〇・三・五
国士舘大学 昭三九・一〇 教授（倫理学、独逸語）	宇都宮大学 昭一八・四 教授（哲学）	宇都宮大学 昭二六・三 教授（地理学）	東京教育大学 昭二四・四 教授（地理学、地誌学） 国士舘大学大学院 昭三九・一一 教授（大学院）（経済地理学）	国士舘大学 昭三二・一一 助教授（法学） 昭三九・一〇 助教授（国際法）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（政治学、政治史）	国士舘大学 昭三九・一一 教授（大学院）（国際法、外交史）

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
民法	経済学原論 経済学史	経済政策 経済学原論 社会政策	実務計算	民法	外国経済書講読	保険論 外国経書講読	日本史
〃	〃	兼任	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	講師	〃	〃	助教授	〃
早大法学部 助教授 民法、民事訴訟法	青山学院大学 教授 経済原論、経済学史、経済学	亜細亜大学 教授 経済原論、経済政策、社会政策	政経学部一部 経営学科 講師 実務計算、珠算史	法学部 助教授 民法	同右 助教授 工業経済、外書講読	政経学部一部 経済学科 助教授 保険論	文学部史学地理学科国史学 専攻 教授 国史学、独語
2	4	6	2	2	4	4	2
2	4	6	2	2	4	4	2
早大法学部旧制大学院 昭三〇・三	東京帝国大学経済学部 昭五・三	東京外語学校露語部 昭五・二 レニングラード大学 昭一二 経済学博士	専修大学商経学部商業学部 昭二七・三	早大大学院法学研究科 昭三一・三 法学修士	早大大学院経済学研究科（博士課程） 昭三六・三 経済学修士	早大大学院商学研究科（博士課程） 昭三三・三 商学修士	東京帝大文学部国史学科 昭一三・三
著五 論二〇	著八 論多数	著二〇 論二〇〇 数十	著三 論七	著三 論一九	著三 論四	著二 論二一	著七 論一五
10年	22年	22年	7年	9年	5年	11年	25年
40.4 6,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 4,000	40.4 6,000	40.4 6,000	40.4 6,000	40.4 8,000
男	男	男	男	男	男	男	男
内田 武吉 大一五・九・一二	日下 藤吾 明四一・一・二六	伊部 政一 明四一・七・七	鈴木 久男 大一三・三・二九	大沢 正男 昭四・七・一五	江頭 稔 昭七・三・五	森田 健三 大一四・一一・二四	上杉 重二郎 大三・八・二九
早稲田大学 昭三七・四 助教授（民法、民訴法）	青山学院大学 昭三一・一 教授（経済原論、経済学、経済史学）	亜細亜大学 昭三八・一〇 教授（経済学）（経済政策、社会政策、経済学原論）	都立立川短期大学 昭三五・八 講師（珠算史） 国士舘大学 昭三九・一〇 講師（実務計算）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（民法）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（外書講読）	国士舘大学 昭三九・一〇 助教授（保険論、外書講読）	国士舘大学 昭三九・九 教授（日本史、歴史） 昭三八・一一 講師（独逸語）

〃	教職課程	〃	〃	〃	〃	〃	〃	専門科目（経済学科）
教育行政学	教育原理 教育史 道徳教育の研究	外国史	税法	産業構造	憲法	統計学	商法	民法
〃	兼担	〃	〃	〃	〃	〃	〃	兼任
〃	教授	〃	〃	〃	〃	〃	〃	講師
文学部教育学科教授 教育学専攻	文学部教育学科教授 教育学専攻	東京経済大学教授 歴史学	日本大学法学部講師 税法	日大経済学部教授 産業構造、工業経済論	高崎経済大学教授 憲法	高崎経済大学教授 統計学	早大法学部助教授 商法	山梨学院大学法学部助教授 民法、民事訴訟法
2	6	2	2	2	2	2	2	2
2	6	2	2	2	2	2	2	2
東京文理科大学教育学科 昭七・三	東京高等師範学校専攻科修身教育学科 大一五・三	東京帝国大学文学部西洋史学科 昭一〇・三	早大大学院法学研究科 昭三七・三 法学修士	東京帝大経済学部商業学科 昭六・三	東京帝大法学部法律学科 昭一六・三	京都帝国大学経済学部 昭一二・四	早大大学院法学研究科（博士課程） 昭三五・三 法学修士	早大大学院法学研究科 昭三一・三 法学修士
著一 論三五	著八 論一四	著三 論二	著五 論六〇	著四 論一二	著一二 論一四	著一 論一〇	著二 論二三	著 論九
22年	40年	22年	8年	10年	19年	8年	6年	4年
41.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 8,000	40.4 6,000	40.4 6,000
男	男	男	男	男	男	男	男	男
森　純吾 明三六・五・一三	前野　喜代治 明三二・四・一〇	神保　規一 明四五・一・一〇	北野　弘久 昭六・一・二八	土屋　宗太郎 明四〇・一〇・二三	三瀦　信吾 大五・九・二六	中村　浩 大二・五・二四	酒巻　俊雄 昭六・六・二二	杉浦　智紹 昭六・二・一四
岩手大学 昭二四・二 教授（教育行政、教育原理、学校管理）	弘前大学 昭二九・四 教授（教育学） 国士舘大学 昭三九・一〇 教授（教育原理）	東京経済大学 昭三五・四 教授（歴史）	山梨学院大学 昭三七・一一 講師（税法）	日本大学 昭三二・四 教授（産業構造、工業経済論）	明治大学 昭二四・四 教授（法学、憲法）	高崎経大 昭三九・四 教授（経済統計学）	早稲田大学 昭四〇・四 助教授（商法）	山梨学院大学 昭三八・四 助教授（民訴法）

〃	社会科教育法 教育実習	〃	講師	同右 講師 教育学	2	2		4	東京高等師範学校研究科（修身科） 昭五・三	著一二 論一	25年	40.4 8,000	男	下地　恵常 明三七・五・一一	千葉敬愛短期大学 昭三六・八 講師（教育社会学）
〃	教育原理 教育実習	〃	〃	同右	2	2		4	早大大学院文学研究科（修士課程） 昭三二・三 文学修士	著四 論七	1年	41.4 8,000	男	長田　三男 昭七・一・六	国士舘大学 昭三九・一〇 講師（教育学）
〃	教育心理学 青年心理学	兼任	〃	共立女子大学 教授 心理学、教育心理学	4			4	日本大学大学院文学研究科博士課程（心理学専攻） 昭三二・三 文学修士	著六 論一七	10年	40.4 8,000	男	高島　正士 大一四・八・二三	国士舘大学 昭三九・一〇 教授（心理学、教育心理学、青年心理学）
〃	商業科教育法 職業指導	〃	〃	東洋大学 教授 職業指導、商業科教育法	4			4	中央大学経済学部 昭一八・九	著四 論七	17年	40.4 8,000	男	小川　福次郎 大元・九・九	東洋大学 昭三八・四 教授（職業指導、商業科教育法、社会政策）
〃	図書館学	〃	〃	共立女子大学 文芸学部 教授 図書館学	2			2	東京帝大文学部国文学科 昭三・三	著六 論多数	14年	40.4 8,000	男	土井　重義 明三七・九・三	共立女子大学 昭三九・四 教授（図書館学）

〔五、職員組織に関する書類（四）教員個人調書～十一、学校法人が現に設置している学校の現況について略〕

十二、将来の計画を記載した書類

（一）学部及学科組織に関すること

昭和三十七年より国士舘創立五十周年（昭和四十二年）記念事業が逐年計画で実施され、昭和三八年（三十八）に工

学部（機械工学科、電気工学科）が認可設置を受け、ついで三十九年土木工学科、建築学科の増設を行い、昭和四十年政経学部二部（政治学科、経済学科）並に大学院（政治学研究科、経済学研究科）の認可設置を受けた。

更にいよいよ綜合大学の実現をはかる可く、時勢の要望に応え、法学部、文学部をここに設置申請を致しましたが、今后計画立案を進めて居りますのは左の通りです。

(1) 応用数学科、応用物理学科を工学部内に設置し工学部を理工学部に改編すること。

(2) 町田市小野路に総合グランドを昭和四十三年に完成するを期に体育学部及び工学部を同地内に移転する。

(3) 体育学部、工学部更に文学部、法学部を基礎とする研究科の増設を行う事。

(4) 昭和三十九年十月福岡県博多市郊外大宰府町冷林地内に約七万坪の校地を取得しているので、当該地に学部新設を具体的に検討している。

（二）学科目、教員等に関すること

既設学部においてそれぞれ必要に応じ、学科目を適宜拡充しこれに要する教員も逐次補充増員し教育の万全を計りたい。

（三）校地校舎に関すること

毎年、予算を計上し各学部の特質に応じて分散拡充の計画を具体的に進めつつある。

（四）図書、機械器具、標本等に関すること。

これらについては毎年予算を計上し、随時、補充と整備に努め更に教育の完遂を期し教材、実務諸施設の充実を期している。

（五）漢学センターの開設

文学部漢学専攻の開設に伴い、楠本正継文庫、真鍋勝文庫を設けるので、これを機会に漢学の最高学府として世界的研究機関を設置する。

（奥付）

連絡責任者氏名	安高　武
連絡場所	東京都世田谷区世田谷一の一〇〇六
電話番号	東京（四二二）五三四一（代）～四

国士舘の思い出

工学部電気工学科の思い出

工学部電気工学科（昭和四五年三月）卒業　上野　初夫

一、国士舘高校へ入学

一九六三（昭和三八）年四月、国士舘大学に工学部が新設され、同時に国士舘高等学校にも工業に関する学科として機械科と電気科が設けられたので、私は国士舘高等学校電気科第一期生として入学しました。

電気科を志望したのは、目に見えないにも関わらず、色々なことができるエネルギーに興味を持ったからです。当時、工業系の学科は人気があり倍率が高かったのですが、担任の先生から国士舘に新設の学科が出来たことを教えてもらい、受験することにしました。

電気科なので、授業では当然、実習や実験があるものと思っていましたが、高校の三年間は学校内での実習、実験はありませんでした。実習実験室も、実習実験用設備も見た覚えはありません。

高校二年か三年の夏休みの約一ヶ月間、月曜日から土曜日まで、学校が手配した企業の工場へ行って実習を受けました。この工場は株式会社日立製作所亀戸工場で、実習内容は、石油ストーブの部品加工、組み立て、検査までの一連の作業で、この工場での作業が、授業の実習に代わるものだと言われました。会社の社員の人は、丁寧に作業のやり方を教えてくれましたが、実習とは学校の実習室の中で行うものだと思っていたので、これではまるでアルバイトだと、最初は大変驚きました。現在でいえば、人手不足を補っている外国人の農業研修などと同じことだと思います。

実習は、同じ作業の繰り返しで、物を作るのはなかなか大変なことだと思いましたが、社会へ出て困難にぶつ

かった時に、当時の大変さを思い出すと、実習とはまた別の、良い経験になったと思っています。

二、高校時代の思い出

高校一年時の通学は、自宅のある練馬区田柄から、池袋を経由して渋谷駅へ出て、渋谷駅からは「玉電」に乗っていました。渋谷駅から二子玉川園駅間などを走っていたので「玉電」と呼ばれていましたが、途中の三軒茶屋駅から下高井戸駅へ分岐する支線の下高井戸線（現在の世田谷線）があり、この電車を利用して国士舘へ通っていました。朝の通学時間は超満員で、毎日のように窓硝子が割れていました。玉電の乗車賃は片道一三円、往復二五円でした。

玉電の混雑を避けるため、高校二年からは新宿駅で乗り換え、小田急線の梅ヶ丘駅を利用することにしました。駅から学校までの距離はあるものの、通学時間が若干短くなることと、同級生も小田急線を利用していたためです。梅ヶ丘と学校の通学路の途中には、歌手の黛ジュンの家がありました。

高校二年の一九六四（昭和三九）年一〇月一〇日には、東京オリンピックが開催されました。開会式の時、国立競技場上空に航空自衛隊のブルーインパルスが五輪マークを描く様子を自宅近くで見ていたことを、今でもはっきり覚えています。国士舘の生徒・学生は特に変わりはありませんでしたが、この頃から他の大学では学生運動が徐々に激しくなってきて、授業が出来ない大学もありました。

高校の修学旅行は福島県の磐梯山へ行きましたが、その他の行事については、あまり記憶に残っていません。この頃は、一九六五年にベンチャーズが来日してエレキブームが起こり、一九六六年にはビートルズも来日したことの方が記憶に残っています。

国士舘の制服は、高校生も大学生も同じ蛇腹の学生服でした。頭髪は、高校生は全員丸刈りで少しでも髪が伸びていると、朝、校舎の入口でバリカンを持って立っている先生に髪の毛の一部を刈られてしまいました。大学ではその心配はなく、ビートルズやベンチャーズが人気だったこともあって、一時期は髪を伸ばしていました。

三、変わりゆく校舎

高校一年の時は、一九五八（昭和三三）年に竣工した五号館の教室で授業を受けていましたが、冬は暖房設備がないため、非常に寒かったことを覚えています。高校二年、三年の時は、一九六四年に完成したばかりの八号館で授業を受けることになりました。新しい八号館には、高校の普通科と工業科が入り、地下に食堂がありました。

この頃はまだ、現在の一〇号館の場所に、大講堂の二～三倍の大きさの剣道場がありました。剣道場の建物をそのままグラウンド（現在の高等学校・中学校の場所）へ移動させて、剣道場があった場所に一〇号館が建設されました。一九六六年、一〇号館が完成した後に、剣道場は取り壊され、元の通りのグラウンドになりました。一〇号館の五階は広い体育館（剣道場）になっていましたが、体育館の横に舘長室があったことから、舘長専用として学内で初めてエレベーターが整備されました。

一九六一年に竣工した六号館には政経学部が入り、一部は寮となっていましたが、五階は五〇〇畳敷の柔道場があり、東洋一の広さといわれていました。高校の時の舘長訓話は、この柔道場で行われました。大学でも毎週訓話の授業がありましたが、この舘長訓話の時は多くの学生が非常階段で上り下りするので、非常階段は毎回大混雑でした。

現在、体育・武道館のある場所には、当時五〇mプールがあり、メイプルセンチュリーホールの場所には、第二体育館がありました。この第二体育館では男子が新体操の練習をしているのを見た覚えがあります。第一体育館は現在の中央図書館の場所にありました。

また柴田德次郎舘長の自宅が世田谷キャンパス正門の西側、現在の正門警備室付近にあり、構内から建物が見えないほど、多くの木々に囲まれていました。

四、国士舘大学に入学

一九六六（昭和四一）年、工学部電気工学科に第四期生として入学しました。国士舘高等学校電気科の授業で、電気は空気のような存在であり、電気を利用する物は無限にあると思うようになり、電気についてさらに学ぶため、国士舘大学への進学を決めました。国士舘大学工学

部電気工学科は、高等学校電気科と同じ一九六三年に設置されました。国士舘高等学校から受験する場合は、受験料が免除されていたと記憶しています。当時、大学への進学率は一〇％ほどだったので、進学するか悩みましたが、今は、大学に進学しておいて良かったと思っています。

キャンパスの敷地は今とは違い、門と塀で囲まれていました。学生は正門と東門の二カ所から入構し、「実践倫理」の授業の一環として、各部の学生が数人ずつ、交代で門に立っていました。実際に警備をした時は、早く終われば良いと思っていましたが、部外者の入構を防ぐためには、良い方法だったと思います。

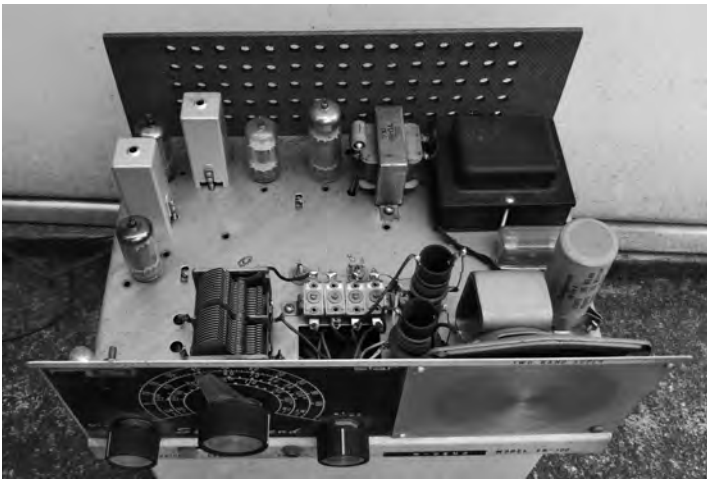
工学部電気工学科の授業は、帆足武治教授の「電気磁気学」、太田淳助教授の「電子工学」、康原章弘助教授の「過渡現象論」、三浦隆俊講師の「電気計測」などの授業がありました。授業の大半は七号館でおこなわれていましたが、一〇号館では高電圧放電（落雷）実験をおこない、第二体育館の一階でも実験をしていました。

高校と違う点は、実験が毎週あり、この実験についてのレポートを提出しなければいけないということです。授業のない時間を利用して図書館で書いていましたが、このレポートを書く時には計算が必要となります。当時はまだ電卓はなかったので、計算は計算尺を使っていました。電気工学科の教授の部屋に置く計算機を購入したのは、大学三年次か四年次の頃だと思いますが、その計算機も電子計算機ではなく「電動計算機」でした。電動計算機は複雑な計算は出来ないし、大きいので持ち運びは出来ず、コンセントに差し込まないと使用できないという代物でした。

大学の授業では、真空管のラジオを作ったこともあります。これはラジオ製作用キットの教材を使用して作りましたが、何時間かけて作ったものかは、もう覚えていません。近年、この時作ったラジオがまだ自宅倉庫の片隅にあるのを思い出し、倉庫から引っ張り出してスイッチを入れてみました。ＡＭと短波の二波を受信できますが、五〇年も使用していなかったので、どちらも雑音が大きく聴きづらくなっていました。

当時、まだラジオなどの電化製品は高価なものでしたので、オーディオなどを組み立てるために、よく秋葉原へ部品を購入しに行きました。当時の秋葉原は電気部品

等の専門店が多くありましたが、現在ではすっかり様子が変わってしまっています。



授業で作った真空管ラジオ

五、大学最後の夏

一九六九（昭和四四）年、大学四年次の夏休みに工学部の太田淳助教授と中津隈健一電気技手補、そして同期の学生三人と私の計六人で車二台に分かれて上高地、黒部ダムへ旅行に行きました。私が「黒四ダムに行きたいな」と言ったら、同期生の三人が「行こう」と言い出し、太田先生、中津隈さんとも気が合って行くことになったと記憶しています。

一日目は、世田谷校舎から上高地へ向かいましたが、途中の松本市内で二台の車がはぐれてしまいました。幸いトランシーバーを持っていましたので、電波がつながったり、切れたりはしましたが、なんとか合流することが出来ました。今では携帯電話やカーナビがあるので、簡単に連絡が取れますし、迷うこともありません。

夕方、ようやく上高地に到着してキャンプをすることにしました。キャンプとはいっても、キャンプ用のテントなど持っていなかったので、グラウンドで使用する足の付いたテントの上の部分を持って行きました。現在では上高地へ車の乗り入れは出来ませんが、この時はまだ

河童橋の隣のキャンプ場まで車で入ることが出来ました。

二日目は黒部ダムへ向かい、ダム手前の川の近くでキャンプすることになりました。雨が降る天気予報であったため、テント内に雨水が入らないようにテントの周りに溝を掘っておくと、夕食を作り出した頃から雨が降り出し、次第に強くなって、夕食の時には土砂降りとなりました。夕食はすき焼を作って食べました。

松本城付近

上高地のキャンプ場

翌日のニュースで、一日目にキャンプをした上高地は大雨で道路が寸断して約二千人が閉じ込められ、道が復旧するまで数日足止めされていると聴きました。我々は一日違いで閉じ込められずに済み、本当にラッキーでした。この日は晴天になり、黒部ダムを見学しました。夜は青木湖の近くのバンガローで一泊し、翌日、無事に世田谷校舎まで戻って来ました。

太田先生は、卒業論文担当の先生でした。中津隈さんは、実験実習の補佐をしていて、質問など気軽に聞ける友達のような人でした。お二人とも、話がしやすく、自分との相性も良かったのだと思います。黒部ダム以外にも、西伊豆の黄金崎など、何度か一緒にドライブに行くなど、親しい関係にありました。

六、小野路校地

現在の多摩キャンパスがある場所には、一九六九（昭和四四）年五月に国士舘大学自動車学校が作られました。時期は、はっきりとは覚えていないものの、私が訪れた時は、自動車教習用コースがあるだけで、周りは見渡す限り山林に囲まれ、民家すらない場所でした。自動車教習用コースは、普通の自動車学校のコースとほとんど変わりはありません。教習所と違うのは、当時はまだ施設も自動車もなく、コースのみがあったということです。学生が練習できるようになっていたので、一度だけ、私と同級生と電気技手補の中津隈さんとで行き、同級生が運転の練習をしたことを覚えています。

七、卒業論文

卒業論文は、ＴＦＴ（薄膜トランジスター）の実験についてまとめました。薄膜トランジスターとは、ガラス基板上にアモルファスシリコンなどで構成された薄型のトランジスターのことです。液晶テレビでは、画面を制御するために、数万個のＴＦＴが使用されています。

一九六九（昭和四四）年一二月になると、実験も大詰めとなってきたのですが、なかなか良い結果がでません。冬休み中にも数日間、大学に泊まり込んで何回も実験を繰り返しましたが、失敗の連続でした。また、資料は全て英語で、これを翻訳しなければ何も分からず大変苦労

しました。しかし、やっと良い結果が出てきたので、何とか卒論を完成させることが出来ました。

このＴＦＴ技術を使用した液晶電卓が、数年後には市販されるようになります。それ以前はニキシー管（管の中に数字又は文字が組み込まれており、電気を通すとそれが光って表示される）、蛍光管などを使って表示していましたが、これだと電池がすぐになくなるという欠点があります。液晶だとこれらよりも電力の消費が少なくて済みます。このＴＦＴ技術を使用した製品が出始めてから約二〇年後、液晶カラーテレビが一般家庭にも普及しました。技術が製品となるまでに、こんなにも長い年月がかかるのかと思いますが、同時に、自分たちが実験で関わった技術が広く使われるようになり、非常に良かったと感じたものです。

八、明治祭ラリー

卒業後のことになりますが、何度か大学の「明治祭ラリー」に出場し、入賞もしています。一九七二（昭和四七）年一一月三日「第六回明治祭ラリー」二位、一九七三年一一月三日「第七回明治祭ラリー」五位、一九七四年一一月二四日「第八回ＫＵＭＣＣもみじラリー」（この年から開催時期と名称が変更）は、六位という成績でした。

戦前の祝日であった一一月三日の明治節（明治天皇誕生日）にちなみ、当時の学園祭は「明治祭」という名称で、創立記念日の四日はグラウンドで式典も行われていました。明治祭ラリーは、学園祭の時に自動車部主催で行われていたイベントです。私は高校時代のクラスメイト四人とＴＲＣＳ（東京ライダークラブスポーツ）というチームを作って、日産ブルーバードＳＳＳと軽自動車の二台で出場しました。

ラリーに出場するためには、小回りがきいて馬力もあり、オフロードを高速で走れるような車が必要です。また、フォグランプとロールバー（転倒時に車の屋根が潰れない為の補強）の装備、ラリー用タイヤへの交換、ナビゲーター（助手席で地図案内、計算をする人）のための計算機取り付けなどの改造も必要になります。当時の運転免許制度は現在と違い、私は一六歳で小型免許を、一八歳で普通免許を取得したので、車には一六歳から

乗っていましたが、大学在学中は乗り心地の良い乗用車しか所有しておらず、その乗用車でラリーに出場するのは無理でした。

ラリーは、チェックポイント（通過時間をチェックする場所）を通りながら、指示された時間通りにゴールを目指す競技ですが、そのチェックポイントは何処にあるのか分かりません。主催者から指示された速度で、コマ図というラリー用の簡単な地図を見ながら、時間に正確に走行しないと、チェックポイントにはたどり着けないのです。各大学の自動車部などが開催していた大学ラリーは、チェックポイントとパスコン（パスコントロールポイント、速度変更指示地点）が多くて大変でした。そのため明治祭ラリーのような、チェックポイントとパスコンの少ない一般のラリーに出場していました。

一般のラリー出場時

おわりに

その後はしばらく国士舘を訪れる機会もありませんでしたが、一九九八（平成一〇）年、お世話になった太田淳教授が三月末で定年退職されることになり、特別講義の案内がありましたので、出席させていただくことにしました。同期生も出席していて、とても懐かしく思いました。

国士舘高等学校電気科、国士舘大学電気工学科を選択

して本当に良かったと思います。今の世の中では、電気は空気みたいな存在でありながら無くてはならないものになっていますが、今後もまだ色々なことに利用されるはずです。空飛ぶ自動車やロボット、そして、ヘリコプターに取って代わる日も近いと思われるドローンなど、これらについての原理や構造がある程度理解出来るのも、電気を学んだおかげです。

定年退職して時間の余裕も出来ましたので、工学部電気工学科卒業生の会である「国士舘大学電気会」の総会と懇親会に、毎年出席するようになりました。初めて出席してキャンパス内を見学した時には、在学中には想像も出来ないほど様子が変わっていて驚きました。大学内の校舎が増え、以前は都立明正高等学校があった場所に梅ヶ丘校舎が出来ていました。在学中は塀に囲まれていましたが、時代と共に変化し、閉ざされたキャンパスから、門も塀もない開かれたキャンパスになっていたのも驚きました。卒業した大学が大きく発展したことに感激しました。

その後は、ほぼ毎年、国士舘大学電気会の総会と懇親会に出席しています。今後も電気会にはできる限り出席して、大学の様子も見に行くつもりです。

国士舘の思い出

工学部建築学科が与えてくれたもの

工学部建築学科（昭和五四年三月）卒業　関口　正敏

一、工学部建築学科に入学

私は、一浪して一九七三（昭和四八）年四月に工学部建築学科に入学しましたが、まだ明確に建築の道を志していたわけではありませんでした。母方の実家が建設業を営んでいたので、幼い頃から義理の伯父の車に乗り、建築現場を眺めていたのがきっかけです。今にして思うと、建築現場と車の両方に興味があったのだと言えます。

一年次生の授業時間は、月曜日から土曜日の毎日朝八時二〇分から夕方五時二〇分まであります。一年次生から製図などの課題が出るので、日曜日も製図台にかじりついて図面を描くことになりました。そのため、建築学科の学生は、学業の傍らアルバイトをすることもままならず、同期入学でアルバイトをしながら卒業できた人は、私の知る限り、大学近くの新聞配達の店に下宿していた高島数馬君くらいです。入学時は九〇名ほどいたはずですが、卒業できたのは六〇名前後でした。厳しい卒論など、卒業できずに中退した理由は色々ありますが、一番の理由は、このように履修に費やす時間が多かったこと

学帽

襟章

と、図面を書く苦難に耐えられなかったからだと思います。

建築学は、大きく四つの分野に分けられます。建築意匠・建築構造・建築施工・建築設備です。当時のことですが、現在もそれ程変わっていないはずです。大学入学後、学生は自分が将来どの分野に進むのか、意識しながら学習を進めます。

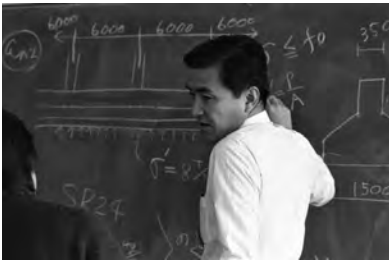
意匠は、デザインに置き換えができます。一般的な解釈では「デザイン＝形」と思われがちですが、設計においては「デザイン＝形（スタイリング）＋機能（ファンクション）」となります。したがって建築意匠とは、高い機能と高い審美眼による建築を追求することになります。先生のお名前は憶えていませんが、建築意匠の授業で「動線計画」という手法を習いました。建築の基本計画や基本設計時に、人や物の流れを計測したり予測したりして、設計に反映させる手法です。この専門性を帯びた言葉を習った時は、建築学を学んでいるのだと実感がわいたものです。

建築構造は、建築物が構造力学的に安全であることを確認することが役目です。しかし、新しい構造形態そのものが秀逸な建築であることもあるので、意匠と構造のどちらが先行するのかは分かりません。建築構造担当の田中輝明先生（当時助教授、二〇一一年七七歳没）の著書『田中輝明の建築構造一九六二―一九九九』（新建築社、一九九九年）には、建築家の菊竹清訓氏（二〇一一年八三歳没）から「構造的建築家という存在が、これからの環境づくりにとって主役になると思っている」という言葉が寄せられています。建築構造研究会の池田英之君は、透明な樹脂で作った構造体に光を当てた状態で外力を加えると複屈折が起きる光弾性により発生する干渉縞を観察することで、構造物のひずみ解析を行う方法の指導を田中先生から受けていました。

なお、田中先生の著書は、先生の定年退職時に増補され、『田中輝明の建築構造一九六二―一九九九、二〇〇〇―二〇〇三』（新建築社、二〇〇四年）となりましたが、市販はされず、田中先生の教え子の集まりである輝友会などで配布されたようです。私は会のメンバーではありませんが、先生に写真の腕を買われて、毎年、輝友会の集合写真を撮っていた関係で、この著書も送っていただきました。

建築施工は、建築材料と建物を造る方法を学ぶものです。授業では圧縮試験機でコンクリートの試験体を破壊するまで圧力をかけて、ひびが入るのと同時に荷重を示す針が止まったのを覚えています。この実験で、コンクリートは瞬間的に強度を失うことを知りました。

建築施工の永井久雄教授は、入試の時の面接官でした。住んでいるところを聞かれ、「板橋区です」と答えると、先生はボート競技をされていたらしく、戸田ボートレース場についてお話をされ、それで面接は終了です。永井先生は『建築学大系二四　建築施工Ⅰ』（彰国社、一九六五年）の著者です。入門者用に書かれた『建築学大意』（理工図書、一九七〇年）を用いて行われた講義はとても分かりやすく、楽しい時間でした。



田中輝明先生の講義建築構造力学Ⅰ

努力家の高島数馬君

「日本では設計が間違っていても施工者がきちんと直すが、アメリカでは施工者は設計図面通りにしか造らないからこんなのが（手をぐにゃりと曲げて）できちゃうのだよ」

と教えてくれました。

永井先生は、大林組の研究室東京分室長だった一九五六（昭和三一）年一〇月に、アメリカに派遣されて原子力施設を視察されたこともあるそうです。また永井先生は、海外の建築雑誌を含め、毎月二万円を図書の購入に充てていて、その必要性を説いておられました。一九七三年の大学卒の初任給は八万五千円程ですから、大変な金額です。この話を聞いてから、私も図書の出費を惜しんではいけないと、心がけるようになりました。

建築設備は、建物に伴う電気設備・空調設備・給排水衛生設備・防災設備などを扱う分野です。近年では建築費用の半分を占めるほどの重要な分野になってきました。特に高層ビルにとっては、ランニングコストに与える影響が大きいものとなっています。

二、学生監は元陸軍中佐

工学部は、建築学科・土木工学科・電気工学科・機械工学科の四つの学科がありましたが、学科をまたいでの交流はほとんどありませんでした。私たち建築学科の担当学生監（のちの学生主事、一年次までは私たちと同じ詰襟の制服を着用）は酒井忠雄先生でした。時々道徳のような時間があり、酒井先生がお話しをしてくれました。酒井先生は元日本陸軍の中佐であった人で、戦争中、東南アジアの密林の中を、右手に短銃、左手に日本刀を持って、先頭を進んだ時の緊張と恐怖を語ってくれたことを覚えています。

学生監　酒井忠雄先生

学生時代の著者（1976 年）

三、学生服着用から私服へ

私が入学した一九七三（昭和四八）年は、国士舘大学にとって変革の年でした。永く続いた制服着用の制度がこの年の一〇月に廃止されたのです。指定の制服はあるのですが、着なくても良くなったのです。そのため一〇月以降、学内のイメージは大きく変わりました。男子はもちろんのこと、女子学生はとても華やかになりました。服装が変わったことで学内の雰囲気も変わり、自由な行動を促すことになりました。建築学科の学生も九割方は私服になりました。

学内規則も変わったと記憶しています。当初、タバコは二〇歳になっていても、学内では禁止されていました。「親の援助を受けている者が、お金を煙にしてしまうのはいかん」という理屈です。この規則も変わり、教室を除けば校内での喫煙は、ほとんどの場所でできるようになりました。当時、成人男子がタバコを吸うのは普通のことで、駅のホームでは電車が到着する直前までタバコ

を吸っていて、マナーのよい人は吸い殻入れに、悪い人は線路に投げ捨てるのが当たりまえの時代でした。

四、製図訓練で一〇センチ幅に二〇〇本の線書き

建築学科では、製図の訓練をする実習時間が、かなりの量を占めていました。２Ｈくらいの硬い芯で、長さ三〇〇ミリの線を幅一〇〇ミリの中に何本引けるかを実技の中で競います。二〇〇本以上引けないと上位に入れません。少し離れて見るとグレー一色に見え、線には見えません。上手な学生はムラがなく、線の間隔が一定です。実際に書いてみると分かりますが、線の終わりの方はわずかですが太くなります。Ｔ定規をどこまでずらして次の線を書くのかが重要で、しかもスタート時点では線間に余裕があっても終わりの方で重なることもあるので気が抜けません。これらを瞬時に手と頭で判断できなければ、速く美しい線は書けないのです。この基本動作は気持ちを集中させ、心の平静を取り戻すことができます。

五、基礎デザインは楽しい時間

私は、もともと車が好きで、ノートや教科書の端に車のスケッチを描いているような少年でしたから、工業デザインに関心を持つようになりました。基礎デザインという学科は、活字の書体を練習したり、Ｂ３サイズの紙に円を大小五個バランス良く配置したり、工業製品を正確にスケッチしたりと、デザイン感覚を磨く訓練です。出来上がった成果を皆で見るわけですが、デッサンでは永野義紀君がずば抜けていました。彼の描いた靴のデッサンは本物のようでした。永野君は私の近くに住んでい

授業で提出した車のスケッチ（1974 年）

将来教授の永野義紀君

ましたが、自画像を窓に向けて置いていたので、隣の住民は「いつもこっちを向いているので不思議に思っていた」と話していました。その後、国士舘から多摩美術大学に編入したのですが、卒業後は教育者になり、愛知産業大学教授として教鞭を取るようにまでになりました。現在は大学を退職し、建築専門学校の非常勤講師として活躍しています。

六、剣道の授業で見た新宿超高層建築群

私たち建築学科一〇期生（一九七三年入学）は、二年次生まで、剣道か柔道のどちらかを選択して体育の授業を受けていました。

新宿超高層ビル群

剣道着の池田英之君

私たち剣道を選んだ者は、東の崖側にある十号館の最上階にある剣道場に集合します。見晴らしの良い最上階の窓のむこうには、新宿副都心の京王プラザホテルが見えます。大学二年になると新宿住友ビル、そして新宿三井ビルも完成し、超高層ビル群としての風景に変わって行く様を見て、建築の未来を感じていました。

七、建築写真研究会は地下組織

大学には、建築学科の学生だけが入会できる、いくつかのクラブ活動が存在しました。都市デザイン研究会、建築材料研究会、建築構造研究会、建築写真研究会などがあり、学生は任意のクラブに入会できます。もちろん建築学科以外の、大学全体を対象にしたクラブ活動もあり、松本典之君は社交ダンス部に入部し、他学部の女子とダンスを楽しんでいました。

私は、カメラ好きの澤畑悦夫君と一緒に建築写真研究会に入部しました。部室は工学部のある七号館地下の男

子トイレを改修した部屋で、そこにある暗室にこもって、写真を焼く作業に没頭していました。

ネガフィルムを経由して、光を印画紙に露光させることから「焼く」と言います。印画紙を現像液に浸けて、像が出たところで停止液により現像を止め、定着液、水洗いを経て最後にドラム型ドライヤーで乾燥させて完成です。授業が終わると部室に集まり、友達とコーヒーを飲みながらよく語り合ったものです。澤畑君は、名機と言われたニコンFを所有しており、三脚ごと倒れてもほぼ無傷で壊れないほどの堅牢さと、その性能に感心しました。

踊る松本典之君

ニコンＦの澤畑悦夫君

当時の写真は、とてもコストがかかるものでした。白黒フィルムでさえも、安く上げるために一〇〇フィート（約三五．五メートル）の長尺のフィルムを購入し、自分で三六枚分に切ってパトローネ（フィルムを入れて、カメラにそのまま装填できる容器）に詰めて使用しました。フィルム現像も自宅で行いました。面倒な作業ではありましたが、誰でもができることではないので、それなりに優越感を味わっていました。

写真は、建築にこだわらず何でも撮影しました。先生も加わった、徒歩による「山手線一周歩こう会」（ユースホステルクラブ主催、一九七五年五月）というイベントでは、夜明けに明治神宮にゴールするまで、参加者の様子を撮り続けました。山手線を一周歩くのに、一四時間前後かかったと思います。

建築模型写真にも興味を持ち、吉田襄教授の工房で一九七六年四月、アブダビ・ホテル国際競技設計応募案の模型写真を撮る機会を得ました。その時の写真が先生の著作である『建築模型入門　住宅から地域計画まで』（井上書院、一九七七年八月）の表紙に使われたことは嬉しい限りでした。

山手線一周のゴール　明治神宮（1975 年 5 月）

『建築模型入門』（井上書院、一九七七年八月）の表紙に使われたスパン 100m 越えホテル模型の写真、背景は床のカーペット

吉田襄先生

八、学園祭でパビリオン設営

毎年一一月に開催される学園祭では、工学部は学科ごとにテーマを決めて臨みました。一九七五（昭和五〇）年の三年次生の時、建築学科はパビリオンを造ることになり、工学部校舎である七号館南側の非常階段を囲むように工事用単管を組んで枠組みを造り、防炎シートで囲いました。のちに国士舘大学非常勤講師になる井上憲司君が提案した、和紙でくるんだ照明器具をパビリオンの中に吊したのですが、素晴らしい照明効果を発揮しました。照明が灯りになった瞬間です。彼は在籍中にドイツに留学していたこともあり、一九七七年に卒業後はドイツへ渡り、博士の学位を取得した努力家でした。

九、学業以外も進んで経験

学生にとって四年次生は、卒業・就職など、一番大切な学年です。その大切な時に、同じ卒論チームの味岡正臣君は学園祭実行委員長を務めていました。全学部の各委員と共に、全学を動かすのですから大変です。実行委

パビリオンの様子（1975 年 11 月）

井上憲司君

巨大な照明（1975 年 11 月）

学園祭実行委員長になる味岡正臣君

員室にドラフター（製図台）を持ち込んで卒業計画を作成するなど、学業と委員長の両立は辛酸をなめたそうです。卒業後は、建築設計研究所で修業を積み、一級建築士を取得し、その後は某自動車会社へ就職しました。建築の経験を活かして、世界各国に自動車工場を建設し、日本の自動車業界の発展に寄与しています。定年後は現役時の経験を活かしてＩＳＯ事務所を開設し、ＩＳＯ審査員として活躍しています。（ISO：International Organization for Standardization=国際標準化機構）

一〇、喫茶店ヤシマのスパサラ

世田谷区役所前の通りの交差点の角に、ヤシマという喫茶店がありました。当時この店のメニューにあった、スパサラ（スパゲッティサラダの略）が大好きで、よく通っていました。さっぱりとした塩味が効いていて、ゆで卵をスライスしたものに赤い香辛料がかかっています。それが初めて見たパプリカパウダーでした。学生時代の思い出の味ですが、残念ながら、この店はもうありません。

一一、ホップで就職と一級建築士、ステップで研究施設建設、次はジャンプ

私は、一九七九（昭和五四）年三月に大学を卒業して近所の工務店で仕事をしていましたが、幼い頃からの車好きが抜けず、車のデザイナーになりたいと一念発起します。

まず工務店を辞め、埼玉県にある自動車会社に期間従

業員として応募しました。念願の自動車会社に入ることができたものの、生産ラインでの仕事は過酷でした。一日八時間、三〇秒以内の工程を繰り返すのです。会話を必要としない仕事だったので、日本語を忘れるのではないかと思い始めた頃、正規登用試験の機会を得て、正規社員となることができました。すぐに施設管理課から勧誘があったので快諾し、工場の施設を管理する仕事をすることになりました。施設管理の仕事は営繕だけではなく、建設の企画もやります。私にとって、とても居心地が良かったこともあり、そのまま一五年が経ちました。

その間、英国のスウィンドンに、工場建設で六ヶ月間滞在する機会がありました。スウィンドンからロンドンまでは、一二〇キロ程の距離です。ヒースロー空港へは一時間ほどで行けるので、土日の休みを利用してパリに二度行きました。パリまでの飛行時間は一時間もかかりません。ドイツにある竹中工務店の日本人スタッフが、工事の打合せのため何度か日帰りで訪ねて来ていたのも納得できました。この長期出張でラウンド・アバウトにも慣れ、車の運転に不安がなくなりました。

社内で何年か他の仕事をした後、一九九八年十月に子会社の研究所の施設管理部門へ異動することになりました。ここでは、開発中の小型ビジネスジェット機の格納庫設計打ち合わせのため米国へ出張、車のデザインスタジオ設計施工立会いのためタイに出張など、何度も海外での建設に携わりました。最後の海外業務は、中国広州の研究所建設でした。自分で考えたデザインスタジオの建設には、五年間を費やしました。結局、当初望んでいたカーデザイナーにはなれませんでしたが、デザイナーが使うデザインスタジオを設計する機会に恵まれ、多くのカーデザイナーと関わることができて、思いが叶ったような気がします。

何度も海外出張をしたおかげで、海外での個人旅行も計画できるようになりました。欧州をレンタカーで自由に回れるようになったので、建築家ル・コルビュジエが設計した、フランス東部にあるロンシャンの礼拝堂、パリ郊外にあるサヴォワ邸、マルセイユの集合住宅を見学。英国ではイングランドの西部コーンウォールにあるエデンプロジェクトの巨大ガラスドームを見に行きました。このドームには、日本の企業が開発したＥＴＦＥと呼ばれる、透明度が高く耐光性に優れた樹脂の素材が使われ

直径 100m のドーム内
太陽光と陰影を調査

ています。これらの旅行体験は、仕事で建築を考える時に大変役にたちました。

一二、そしてジャンプ

六〇歳で定年退職したあと、再雇用という形で会社に残りました。再雇用では六五歳まで在職可能でしたが、自分の設計事務所を開設する準備のために、九ヶ月早く退職しました。会社を辞めてからも建築の仕事を続けたかったので、ＣＡＤスクールに通ったり、人脈を広げて会社以外の人と話をしたり、事務所開設に必要な講習を受けたりしました。

ある日、深夜のニュース番組で「アルムナイ」という言葉を知りました。本来は卒業生、同窓会という意味ですが、会社を退社した人と会社が関係を保ち、お互いに情報交換して活路を広げる制度として紹介されていました。求めていたものを見つけた思いでした。そこで設計事務所を開設後、退職した会社でも営業活動をしていると、グループ組織である学校法人から建築コンサルタントの依頼が入りました。事務所開設からわずか四ヶ月後のことです。一年間は仕事がなくても仕方がないと思っていたので、ありがたいことでした。

会社を退職したあとも、私にとっては第二の人生ではなく、ずっと第一の人生です。三段跳びのホップ、ステップ、そしてやっとジャンプする時が来たと思っています。五〇歳を過ぎてもなお、学び続けることで身についたジャンプ力でした。大学で先生方によく「建築は一生が勉強」と言われたことを思い出します。

一三、国士舘が私に与えてくれたもの

与えられている仕事を通じて、自分のやりたいことを見つけ出すことができたのはなぜかと、自問自答してみました。

国士舘大学時代に、学業を含め、写真・車・友人と、自由に一生懸命に過ごした時間は、のちに自分の頭で考える力と、困難を乗り切る力を養ってくれました。

大学卒業から四〇年以上が経ち、同窓会などで同窓生に会う機会がありますが、建築業界にどっぷり入っている人、畑違いの仕事に携わっている人など、多種多様の人がいます。その中で感じることは、畑違いの仕事に携わっている人を含めて、大学で学んだことがその人の血・肉となり、その人生に大きな影響を与えているということです。本人は気づいていないかもしれませんが、その影響は、人生において価値のある有益なものであると思いました。

現在、在学されている学生の中には、「学んでいる学業が将来本当に活かされるのだろうか」、「就職後、建築業種以外に配転されたらどうしようか」等々、悩んで不安に思われている方もおられると思いますが、私の経験と、我が同窓生の姿を見ていると、過度の心配は無用です。

将来の夢・目標を持ち、日々の大学生活を充実させていけば、必ずとは言いませんが、大抵のことは乗り越えられる力が身につきます。後輩諸君においては、苦難に耐えながらも充実した大学生活を思いっきり楽しまれるよう、切に願います。

刊行物紹介

学校法人国士舘では、国士舘創立一〇〇周年記念事業の一環として『国士舘百年史』の編纂を進めて参りました。

国士舘の歴史に関する史料を厳選して収載した『国士舘百年史　史料編』上・下、国士舘の歴史を分かりやすく概説したブックレット『国士舘１００年のあゆみ』につづき、二〇二一年三月、国士舘の歴史を史料に基づき詳述した『国士舘百年史　通史編』を刊行します。

《内容構成》

第一部　国士舘の創立と発展
第二部　戦後の再建から総合学園化
第三部　学園の改革から創立一〇〇周年へ

●『国士舘百年史　史料編』上・下（二冊）
二〇一五年三月刊行　Ａ５判（上縦組・下横組）／上製本
・史料編　上（第一部）一〇〇〇頁
・史料編　下（第二部・第三部）一〇五〇頁

●ブックレット『国士舘１００年のあゆみ』
二〇一七年一一月刊行　Ａ５判（縦組）／並製本／一〇〇頁

●『国士舘百年史　通史編』
二〇二一年三月刊行予定　Ａ５判（縦組）／上製本／一一〇〇頁

入手希望の方は左記までお問い合わせください。学園への募金にご理解・ご協力を賜れば幸いです。

〒一五四―八五一五　東京都世田谷区世田谷四―二八―一
柴田会館二階
学校法人国士舘　国士舘史資料室
TEL　〇三―三四一八―二六九一
FAX　〇三―三四一八―二六九四
E-mail　archives@kokushikan.ac.jp

国士舘の思い出

国士舘大学の人間教育

体育学部体育学科（昭和五九年三月）卒業　松本　吉英

はじめに

貧しい母子家庭に育ち、病弱で家に引きこもって本ばかり読んでいた少年時代。いつも親に叱られては劣等感に苛まれていた若者が、国士舘大学で先生方や友人と出会い、社会貢献するまでに成長する。その礎となったのが国士舘大学の人間教育でした。

心身ともに脆弱だった若者が、理想に燃え、友情を育みながら、教師になるという目標に向かって一路邁進し、極真空手の黒帯を締め、教師となってからサッカーの指導者としてS級コーチを取得するまでになる。国士舘大学の人間教育が、私のような若者をどのように変えていったのか。手元にある当時の日記やノートから、担任（学生主事）であった渡邊盛雄先生の話を軸に、この物語を振り返りたいと思います。

一、国士舘大学への道

一九七九（昭和五四）年に熊本県立菊池高校を卒業後、働きながら大学に通うことになり、東京に出て中央大学の夜学に入学しました。アルバイト先は小田急永山駅ビルの中華レストランです。立ち仕事で、土日は終業以降のバスがなく、日野市程久保の下宿まで五キロを超える道のりを歩いて帰らねばなりません。寂しさと空腹で夜道を泣いて帰る日もありました。

アルバイトと学業の両立の厳しさからすぐに退学し、アルバイト先も都立多摩スポーツ会館に変えました。将来への不安に怯えながらも、教師になるという夢を実現

するために再度大学を目指すことになり、受験勉強とアルバイトに励みました。こうして受験することになったのが国士舘大学です。

国士舘大学を志望した理由は、教員採用試験の合格率が高いことと、受験科目に苦手な数学がなかったことです。面接の試験官は体育学部教授の鈴木八郎先生（当時、教務主任）でした。

「君はその恰好で寒くないかね。風邪をひかないようにしなさいよ。」

ジャージに爪先の割れたシューズを履く私は、過緊張でしっかりと質問に答えられませんでした。受験に失敗したら自分はどうなるのか、不安で世田谷キャンパスに合格発表を見に行く勇気がありません。代わりに結果を見に行ってもらった親戚から合格の知らせが届いた時の自分の反応は、全く思い出せません。

二、渡邊盛雄先生との出会い

「国士舘大学一の優れた学生になれ」（渡邊先生）

一九八〇（昭和五五）年四月、国士舘大学入学時の日記に次のように記しています。

四月六日（曇）松陰寮入寮

九日（雨）入学式、四月中旬まで悪寒、下痢、喘息

入寮する前日に熊本市の鶴屋デパートで松平康隆氏（日本バレーボール協会専務理事）の講演を聴いて、今度こそ頑張ろうと思ったものの、四月中旬までは体調不良であまり良いスタートではなかったようです。

入学直後、奨学金の申請で主事室に担任（学生主事）の先生を訪ねました。礼の角度は三〇度。習った通りの作法で入室し、挨拶をしたところ、

「君はなかなか良い挨拶をするな」

との言葉。褒められることなどそれまでなかったことでした。それも出会ったばかりの先生に。これが渡邊盛雄先生とのふれ合いの始まりでした。

毎週水曜日一限目は、渡邊先生の生活学習指導でした。最初の講義は四月九日。国士舘大学の教育理念である「誠意・勤労・見識・気魄」が如何なるものか説かれました。渡邊先生は、旧帝国陸軍少佐、陸軍中野学校のご出身。「一五分前までに登校」「集合は五分前に」「挨拶は先手必勝」、

今も胸に残る数々の教えは、社会に出てどれほど役に立ったことでしょう。常に学生としての心構えや身だしなみを説かれた渡邊先生は、偉人の言葉や歴史にふれて、学生の人格陶冶に努められました。

この授業で「終生禁煙」と「皆勤」の決意を紙に書いて提出せよとのこと。禁煙の決意を提出しましたが、皆勤の決意は提出しませんでした。

「皆勤の決意を提出していないのは松本だけだぞ」

そう微笑みながら提出を促す渡邊先生には申し訳ない思いでしたが、前の大学で夜学が続かなかった私に皆勤の自信は全くありませんでした。しかし結果的に、卒業式では実技・講義など全履修科目で、無遅刻無欠席を達成して特別賞を受賞することになり、副賞の腕時計は現在も使用しています。

四月一五日の講義では、ロシアの文豪トルストイに触れながら、渡邊先生が過去に担任された優秀な学生として、剣道部OB（昭和四七年三月体育学部卒）の足立和明先生が紹介されました。のちにこの足立先生のお力添えで、教育実習校が決まり、採用試験合格後の赴任先決定にも尽力してくださることになります。

渡邊先生は、「体育人」としての資質向上を図るべく、「二特」（第二専攻特技）を薦めていらっしゃいました。「二特」とは、専攻以外の実技を習練することです。私は陸上競技を専攻していましたが、二特として剣道を希望し

特別賞

体育学部体育学科　松本吉英

右は昭和五十五年四月本学体育学部体育学科入学以来卒業するまでの四年間よく艱難辛苦に堪え一日としてたゆむことなく通学し この間その履修する各科体育実技野外実習等に及ぼす各種式典及び諸行事皆勤すべし 無欠席無遅刻の偉業を達成するとともに優秀な学業成績を修めた

これはまさにわが国士舘精神の発露であり広く学生諸の模範として大いに賞讃に価する

よって本日卒業に当り在学中の真摯な努力を讃え ここに副賞を添えて表彰する

昭和五十九年三月二十日

国士舘大学体育学部長　石田 [illegible]

無遅刻無欠席の特別賞賞状

た場合、週一回の空き時間に剣道部の級友に稽古をつけてもらうわけです。

いつも二特の修練を見守られていた渡邊先生は、防具を持たない私にご自身の防具を貸してくださいました。二特の剣道は管幹博君、近藤正利君、忍田壽生君、国藤昌彦君らの友情のもとに続けられ、大学二年時には、二特として剣道を希望した一〇名近い級友が、世田谷剣道連盟の昇段審査において二段を有するに至りました。昇段審査の型の稽古用に頂いた渡邊先生の木刀は、今も私のそばにあります。

三、学生生活

「卒業までに感動に胸を震わせ、涙する青春を証明しようじゃないか」（渡邊先生）

体育学部はA・B・Cの三クラス編成でした。私が在籍するC組は、一年時のみ鶴川キャンパスで授業を受けていました。しかし部活と寮は世田谷だったため、授業後、世田谷キャンパスに戻る頃には、所属していた陸上競技部の活動がそろそろ終了という状況になっていて、トレーニングができません。すると同じ松陰寮生の柴原正明君が鶴川キャンパスから私のバッグを持ち帰ってくれることになり、雨天時を除いて、私は世田谷キャンパスまで片道二〇キロの道のりを走って帰ることにしました。二年に進級するまで、彼はバッグと友情を世田谷の松陰寮に持ち帰ってくれました。

鶴川では体育学部の上級生がいないので、一年生にはリラックスできるキャンパスでした。正門をくぐると左手に望嶽寮、右手に校舎と武道場がありました。大学構内の林は、まむし谷と呼ばれていました。この林間コースで鍛えていたサッカー部によると、まむしに噛まれても血清が用意されているから大丈夫ということでしたが、真偽のほどは不明です。世田谷、鶴川共に国士舘大学内には独特の標語がありましたが、鶴川キャンパス校舎一階のトイレには「侍は後を残さぬ太刀さばき」と書かれた札がありました。後年、大学サッカー部との試合で鶴川キャンパスを訪れましたが、人工芝のピッチにプール、体育館という立派な施設になっていて驚いたものです。

高校までと違い、大学の講義は興味津々でした。教室

の前方に着席して、緊張感で居眠りを遠ざけるようにしましたが、学生の眠りを誘うかどうかは講義の内容ではなく、先生の話し方にあると気付いたことは、教師になってから役立ちました。

千葉県岩井海水浴場での臨海実習
前列右から２人目が森脇先生、中央が渡邊先生

ある時、教室の最後列で仰臥午睡していた級友が退席処分を受けました。一瞬の静けさを挟んで沸き起こる「退場！退場！」の大合唱。優勝パレードのように両手を振りながら退席する級友と送別の手拍子。気まずい教室の空気を一変させた級友たち。厳しい表情で退席を命じた教授でしたが、目が笑っていたのを覚えています。

一九八〇（昭和五五）年七月には四泊五日の日程で、千葉県岩井海水浴場において臨海実習が行われました。私たち五班の担当教員は、柔道部の森脇保彦先生（体育学部助手）でした。翌一九八一年の世界柔道選手権でチャンピオンとなる森脇先生は朗らかで大変優しく、話すたびに動く大胸筋に、森脇先生みたいな男になりたいと、みんなで憧れたものでした。

臨海実習四日目の遠泳三時間は強風で中止、レクリエーション主体の一日となり、私たち五班は相撲・水球・リレー・騎馬戦で総合優勝してスイカ七個を獲得しました。夜の出し物は、どの班も爆笑の渦です。五班は豊田康人君の提案でエイトマンを歌いながら踊りました。人前で踊るのが初めてなら、大きな手拍子を受けたのも初めてでした。

実習直前に寮の風呂で股間の感染症を拾い、痒みに悩まされた実習でしたが、帰京のバスで寮生はみな帰りたくないと、暗い気持ちになったものです。実習日誌には「朝五時半からジョッグ三〇分」「早く遠泳したい」とあります。楽しい五日間だったようです。

周年行事として、毎年一〇月一一日、一二日に世田谷キャンパスのグランドで行なわれる体育学部内競技大会がありました。クラスの団結のもと、技量向上を図りつつ、計画・運営をすべて学生が行って、競技の管理運営を学びます。全学年一二クラスの学生が、専門競技以外で戦う二日間のクラスマッチです。渡邊先生が過去に担任されたクラスは、一三期（昭和四七年三月卒）は優勝三回、一七期（昭和五一年三月卒）は優勝二回準優勝一回、二一期（昭和五五年三月卒）は四年連続優勝。どの先輩方も輝く戦歴を誇っていました。

競技大会に向けた入場行進の練習の時でした。渡邊先生が

「かしら右！」

と号令をかけるたびに級友たちが

「イーッ！」

と右手をかざします。それは仮面ライダーの敵役、ショッカーの声でした。

「インディアンのような声を出してはいけません。さあもう一度。」

渡邊先生が何度号令をかけても

「イーッ！」

の声。みんながやるのに自分だけやらないのはいけないと思い、私も、

「イーッ！」

と元気良く発声しました。とうとう諦めた渡邊先生が

「行進の姿勢と隊列だけはしっかりやるように」

との指示にも

「イーッ！」

でした。競技の合間にスポ根アニメの「巨人の星」を歌いながら、イントロ場面を演じた級友の応援パフォーマンスも、クラスの垣根を越えて大きな拍手喝采を浴びました。私はこの自由闊達なクラスが大好きでした。

私たちC組二五期は先輩方に続く成績を挙げられませんでしたが、専門外でも優れた技量を有する級友がたくさんいて、競技も応援も大変楽しい体育学部内競技大会

でした。

時に講師を招いた講演会もありました。

さすがはプロレスの頂上を極めた方だ。男の生きざま、特に男女間においての男らしさの話は勉強になった。（中略）意義あるお話を謹聴できて幸せだ。

体育学部内競技大会実行委員

大学二年、一九八一年一一月一三日、アントニオ猪木氏の講演会が開催された時の日記です。講義以外でも、色々と経験し、学ぶ機会が多い、充実した学生生活でした。

四、箱根駅伝の思い出

「日本中の若者の良心を代表する学生になれ」（渡邊先生）

陸上競技部とはいえ、駄馬の私は箱根駅伝では幹事となりました。部の監督は西山一行先生（体育学部助教授）です。「西山先生に朝食をご馳走になった」「アップシューズを頂いた」「消灯を過ぎた飲酒で叱られ朝五時半練習」など、日記のところどころに西山先生との交流のしるしが残されています。

一九八二（昭和五七）年一月に行われた第五八回東京箱根間往復大学駅伝競走では、二年次生の私は伴走車に乗り、タイムキーパーを務めました。区間ごとに設けた目印を基にラップタイムを計測し、目標タイムを並べた用紙に記入して、その差を西山先生に伝える役目です。

大学４年、第 60 回箱根駅伝の時のメンバー
（右奥最後方が著者）

西山先生は厳しい先生でした。タイムを問われたら即答しなくてはなりません。以前、トラックの周回カウントに失敗して大目玉を頂いたことがあったので、念のために、予備を含めて三つのストップウォッチを用意しました。

当時の伴走車は市ヶ谷駐屯地のジープで、オープントップの吹きさらしです。計測失敗への緊張と箱根山中の寒さとで、とうとう尿意をこらえ切れなくなりました。ビニール袋は用意したものの、沿道の視線にどうしても車上で用を足せません。西山先生のお叱りを覚悟で申し出たところ、あっさり許可が出て、同乗の関東学生陸上連盟の幹事共々、ジープから飛び降り用を足しました。

レースの結果は一〇位。当時は九位までだったシード権を、あと一歩のところで逃がしました。

五、大学最後の年

「実習、教採、卒論、クラブと忙しい年だが頑張りたまえ。就職は大きなロマンだ。」（渡邊先生）

一九八三年度に四年次生となりますが、三年次生の年末に書かれた日記には、「教育法の宿題」「スライド作成」「テスト準備」「卒論」「受験勉強」などが散見され、大学最後の年に向け、日々学業に追われていたことがわかります。

東京都の教員採用試験を受けると決めた私は、教育実習校をどうするか渡邊先生にご相談したところ、渡邊先生の教え子で、練馬区内で中学校教師をしていた足立和明先生が引き受けてくださることになりました。足立先生にご挨拶の折に、

「渡邊先生から、足立君の次に優秀な学生だからよろしく頼むと言われて引き受けたよ。苦手な実技はあるかな。」

と尋ねられました。

「マット運動が苦手です」

と答えると、

12月30日 木曜

今年もあと2日を残すのみとなった。年始の抱負や目標は一体どこへ……？
あっという間の一年だった。早い、早いなんて言っている間がなかった。
保健体育科教育法の宿題が残っているが、参考文献を購入しなければいけない。明日は試験で一日つぶれるから、購入して手をつけないと行けない。来年の今日になって「オワタ」。
陸上のスライド作成も残っているし、来年はたくさんやろう。
・教育法宿題
・スライド作成
・テスト準備
・卒論
・教採試験の勉強 ～頭が痛い！
箱根駅伝前に「理想の教師像」レポート作成はやっておきたいと思う。
う～ん、なんかいろいろ気分が重い。でもこれを乗ってよかったと思える。経験を糧に頑張

「大学三年次生の時の日記」

「そうか、では教育実習はマット運動でいこう。」

と言われ、危機感を覚えた私は前方転回の練習に励みました。この練習は、のちに採用試験で活きることになります。

昨今、指導計画案を作成できない教育実習生がいますが、国士舘大学では当時から指導計画作成のための講義が行われており、実習校で修正を求められることはありませんでした。それでも徹夜に近い形で仕上げる状況でしたが、実習校隣の叔父宅から通えたことは非常な幸運でした。

教育実習では学生服を着用して臨みましたが、実習校の教頭先生から凛々しいと褒められました。後日、教員採用一次試験合格の折、実習校でお世話になった校長先生から二次試験に向けて激励されましたが、その校長先生が面接官だったと知ったのは教師になってからでした。

大学四年、一九八三年五月二二日の日記です。

岡田君が槍投げで八〇メートル二二センチの学生日本新記録を樹立した。とても感動した、おめでとう。私も頑張ろう。彼が流した涙こそ青春の涙だ。後悔

しない学生生活を必ず送ろう。

この日の日記には、同期生の岡田雅次君（現体育学部教授）の第六二回関東学生陸上競技対校選手権大会での活躍を記しています。これは、当時日本歴代三位の好記録で、ともに汗を流した同期生の成果に喜びもひとしおでした。

この六週間後の七月四日、世田谷キャンパスで殺人事件が起きました。当日、北海道の教員採用試験から下宿に戻ったところで事件を知りました。新聞をとらず、テレビも持たず、ことの顛末がどうであったかを知ったのは後になってからでした。学内の掲示板以外の場所に、剥がされては張り出される張り紙の文言から、職員間がうまくいっていないことは感じ取れました。大学新聞に掲載したいと、教育実習の感想文を求められて提出しましたが、新聞に掲載されることはありませんでした。大学自体は慌ただしかったのかもしれません。意図不明の署名活動や詰めかけるメディアの取材が学生に向けられることもありましたが、授業中の先生方は平常どおりで、緘口令らしきものが引かれたこともありませんでした。この頃の日記には、道場通いをしていた空手の稽古のこと、受験勉強のこと、教育実習校を訪ねたことや、友人たちとの買物のことが書かれています。事件には触れておらず、普段通りの学生生活であったようです。

事件の影響からか、九月二五日におこなわれる教員採用二次試験を学生服で受験することへの是非の話が、級友の間で持ち上がりました。教育実習校で学生服姿を褒められていたので、就職課職員の伊藤等氏にご相談すると、

「君なら裸でも大丈夫だ」

と背中を押していただいたので、学生服で面接に臨みました。大勢の受験生の中で学生服（靴は運動靴）は私だけだったと記憶しています。

教員採用試験の二次試験での面接は今でもはっきりと覚えていて、次のようなやりとりがありました。

「君の目の前で中学生が喫煙している、どうするか。」

「暴力は嫌いです。でも愛のムチはあると思います。私が今も尊敬する先生は私を叩いてくれた先生です。」

「もし君が教育の現場に入ったら、その気持ちを忘れずに頑張りなさい。」

自分に自信が持てず、物怖じばかりしていた若者が、

この時の面接では想定外の質問にも落ち着いて、自分の考えを相手に正しく伝えられたのです。これも国士舘大学の人間教育の賜物と思ったものです。

二次試験後、体育学部事務室から呼び出されました。

「足立区が二次試験の合否に関係なく君を養護学校に採用したいと言ってきたがどうするか。」

とのこと。陸上競技部監督の西山先生にご相談すると、

「一緒に来い。」

と言われて学部事務室へ。西山先生曰く、

「ありがたいお話しですが、本人には二次試験の結果を待たせたいと思います。不合格なら私が時間講師でどこかに突っ込みますから。」

後日、二次試験の合格通知が届いた私に

「教師もいいが、国士舘の職員はどうだ。給料いいぞ。」

そう真顔でおっしゃった西山先生でした。

教員採用試験の二次試験合格後、教育実習でお世話になった足立先生のご尽力もあって練馬区から声がかかり、赴任校が決まりました。そこは当時、体育学部学部長だった石田啓先生が、かつてPTA会長を務められていた中学校でした。この中学校は、大変荒れていましたが、私の赴任後に改善したことが石田先生の耳に入り、『国士舘大学新聞』第二五八号（一九八五年四月二七日付）で紹介してくださいました。そして次の転任先はなんと渡邊先生ご自宅近くの中学校でした。

見習え、先輩の偉業と善行

体育学部学部長　石田　啓

『国士舘大学新聞』第 258 号より

六、大学卒業後

こうして目標にしていた教師となることができましたが、初任校でサッカーと出会うことになります。そして二七年後には福井県代表の高校サッカー部監督として全国高校サッカー選手権大会に出場することになります。全国大会に出場するたびに、サッカー部ＯＢ会の大澤英雄先生（昭和三五年卒、現理事長、元国士舘大学サッカー部監督）が激励してくださいました。初出場の九〇回大会は大敗しましたが、大澤先生をはじめ、南谷光一先生（昭和四〇年卒、元日大三島高校サッカー部監督）、細田三二先生（昭和五三年卒、現体育学部教授）、田中康嗣先生（昭和五三年卒、東京都サッカー協会育成部役員）、山本昌邦氏（昭和五五年卒、元Ｕ−二三サッカー日本代表監督）、下川浩之氏（昭和五八年卒、現Ｊリーグ理事）らに

「負けは失敗ではない。一番の失敗は挑戦しないこと。挑戦するからこそ、あれは自分に必要な失敗だったと振り返ることができるんだ。」

と励まされました。

他にも、内山篤氏（昭和五七年卒、元Ｕ−二〇サッカー日本代表監督）からは日本協会の研修で講義や実技の指導を受けました。渡辺真人氏（昭和六二年卒、日本サッカー協会）は福井県のサッカー協会のことで大変力になってくださいました。進藤正幸先生（昭和五六年卒、東京工業大学附属科学技術高校サッカー部監督）は全国大会で都内に練習会場を用意してくださり、武田善和先生（昭和五六年卒、旧姓佐山、上田西高校副校長）、守屋保先生（昭和五八年卒、西武台高校サッカー部監督）、クラスメイトの駒澤隆一先生（昭和五九年卒、日本文理高校サッカー部監督）、小島時和先生（昭和六二年卒、正智深谷高校サッカー部監督）をはじめＯＢの方々は試合相手となってくださいます。こうしたサッカー部ＯＢの方々のお力添えのおかげで、今では力及ばずとも強豪相手と競えるまでになりました。

七、国士舘精神

卒業して九年後の一九九三（平成五）年、私は結婚することになり、お世話になった渡邊先生と足立先生をご

招待しました。病を押して披露宴に出席して下さった渡邊先生の祝辞を、足立先生が代読してくださいました。渡邊先生が亡くなられたのは、それからまもなくのことです。学生に身をもって国士舘精神を示された渡邊先生。「武士道は敵に勝つの道に非ず、己を律するの道なり」渡邊先生を偲ぶたびに、この言葉がよぎります。

大学の松陰寮では「僕ではなく私」「電話は三回以内に取る」「廊下の中央を歩かない」などを学びました。三帖の下宿生活では整理整頓を身につけました。そうした良い習慣は社会に出て高く評価されました。

教員一年目に肺炎で入院した折、身を案じる葉書を送ってくださった食堂「千草」のご夫妻。世田谷二丁目にある行きつけの食堂でした。空手の稽古で負ったケガの治療に明け暮れた世田谷線松陰神社駅近くの藤山整形外科、「資格を取るまで学費を持つから理学療法士としてうちで働かないか」という院長先生の言葉には揺れました。大学界隈の方々とのふれ合いも大切な思い出です。

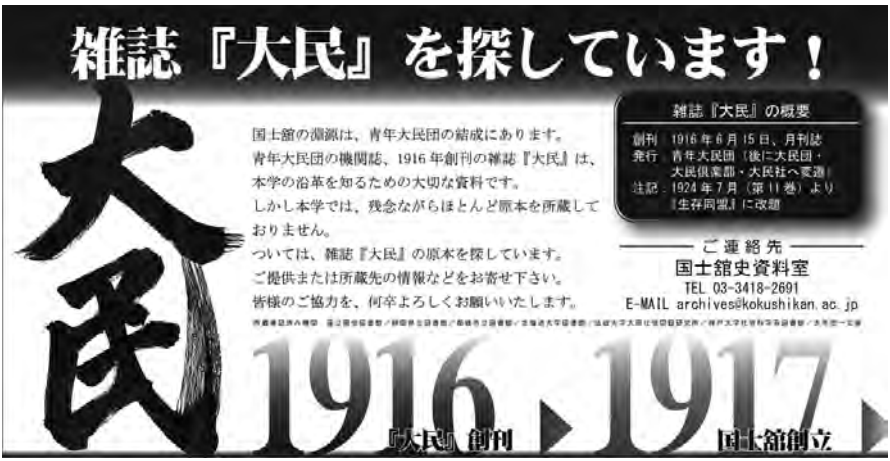
おわりに

教育は、基本の習慣づけと悪い習慣の矯正にあると言われます。転んでもすぐに起き上がる、柔道の受け身にある「負けじ魂」。剣道の「残心」のような突然の変化にもすぐに対応できる、油断の戒めと節度ある態度。脆弱だった若者は、国士舘大学での日々の教育で心身ともに鍛えられたのです。自分が変われば人の評価が変わり、運命まで変わることを、身を持って学びました。それが国士舘大学の人間教育でした。

尚武の校風であり、また質実剛健の国士舘大学ですが、国士舘の教育理念「誠意・勤労・見識・気魄」の最初は気魄ではなく誠意です。誠意とは約束を守ること、嘘をつかないことであり、誠実な言葉であるほど守るのが難しく、ごまかしが効きません。そうした言葉を最初に置いたところに、国士舘大学の教育理念の素晴らしさがあると思います。そして「最高の理想に燃え、最善の師友に親しみ、国士舘精神の特性を涵養すべし」という教えを実践した脆弱な若者が、その理念の素晴らしさを証明したと自負しています。

国士舘の教育理念「誠意・勤労・見識・気魄」の八文字は覚えやすく、人としての基本が最大公約数で示されています。これを誇りに思うだけではなく、実践し社会に貢献することが、母校の発展に尽くすことになると信じています。

振り返るほどに書き尽くせないほどの素晴らしい出会いがあったことに、改めて気づかされました。還暦を前にして、再び母校に導かれた幸せに深く感謝し、筆を置きます。



令和２年事業報告

１　国士舘百年史編纂委員会並びに専門委員会

国士舘は、平成15年６月、創立１００周年に向けて年史編纂事業を企図して国士舘百年史編纂委員会を発足、同委員会の下に百年史編纂のための調査研究・執筆を担当する専門家組織として、平成21年６月に専門委員会が発足した。令和２年の国士舘百年史編纂委員会並びに専門委員会の委員会名簿と各委員会の開催日程及び審議事項は次の通りである。

１　国士舘百年史編纂委員会

国士舘百年史編纂委員会名簿

（任期：令和元年６月～令和３年５月）

顧　問	阿部　昭	元理事・元文学部教授・前委員長（平成21年６月～平成25年５月）
委員長	飯田　昭夫	理事（年史編纂担当）・資料室長・法学部教授（令和３年３月まで）
副委員長	佐々　博雄	元文学部教授・専門委員会委員長
委　員	入澤　充	副学長・学長室長・法学部教授
委　員	古坂　正人	政経学部講師
委　員	朝倉　利夫	体育学部教授
委　員	三好由記博	理工学部教授
委　員	髙野　敏春	法学部教授
委　員	河先　俊子	21世紀アジア学部教授（令和２年４月委嘱）

委　員　池元　有一　経営学部教授
委　員　眞保　昌弘　文学部准教授
委　員　馬場　和子　高等学校定時制課程教頭
委　員　福本　正幸　理事・法人事務局長
委　員　山田　愼吾　理事
委　員　中島　徹　特命参与・前委員長（平成28年4月～平成30年3月）
庶　務　国士舘史資料室事務長　田中　弘
　国士舘史資料室　熊本　好宏
退任（令和2年3月31日）
委　員　原田　信男　21世紀アジア学部教授

令和2年の編纂委員会開催と審議事項

第24回　令和2年3月7日（土）11時00分より
会場　国士舘大学世田谷キャンパス
　柴田会館3階　会議室
審議事項　『国士舘百年史』通史編の実施計画について
　『国士舘百年史』通史編の原稿案について

2　国士舘百年史編纂委員会　専門委員会

国士舘百年史編纂委員会　専門委員会名簿

（任期：令和元年6月～令和3年5月）

専門委員長　佐々　博雄　元文学部教授
副専門委員長　阿部　昭　元理事・元文学部教授・前専門委員長（平成21年6月～平成25年5月）
委　員　湯川　次義　早稲田大学教育学部教授
委　員　岩間　浩　元文学部教授
委　員　前城　直子　元21世紀アジア学部教授
委　員　原田　信男　21世紀アジア学部教授（令和2年3月定年退職）
委　員　安西　博見　元理事
委　員　枝村　亮一　元文学部教授
委　員　漆畑真紀子　立川市歴史民俗資料館学芸員
庶　務　国士舘史資料室事務長　田中　弘
　国士舘史資料室　熊本　好宏
　国士舘史資料室　菊池　義輝

国士舘史資料室　　小林　訓子
国士舘史資料室　　畠山　典子
（令和２年３月まで山田兼一郎）

令和２年の専門委員会開催と審議事項

第93回　令和２年１月24日（金）13時30分より
会場　世田谷キャンパス柴田会舘１階　同窓会会議室
審議事項　『国士舘百年史』通史編の実施計画（修正案）ついて
『国士舘百年史』通史編（第３部第１章第１・２節）について

第94回　令和２年３月７日（土）13時30分より
会場　世田谷キャンパス柴田会舘３階　研修室
審議事項　『国士舘百年史』通史編（第３部第２章第１節）について
（以下、新型コロナウイルス〈ＣＯＶＩＤ-19〉感染症対応につき書面審議）

令和２年６月15日（月）
審議事項　『国士舘百年史』通史編（第３部第２章第１節、第３部概説）
令和２年６月30日（木）
審議事項　『国士舘百年史』通史編（第１部第３章第３節、第２部概説）
令和２年７月15日（水）
審議事項　『国士舘百年史』通史編（第１部第１章第１・２節、第１部第３章第４節）
令和２年７月31日（金）
審議事項　『国士舘百年史』通史編（第１部第１章第３・４節、第１部第２章第１節）
令和２年８月14日（金）
審議事項　『国士舘百年史』通史編（第１部概説、第１部第１章第５・６節、第１部第２章第２節）
令和２年９月30日（水）
審議事項　『国士舘百年史』通史編（第１部第３章第２節）
令和２年10月27日（火）
審議事項　『国士舘百年史』通史編（第１部第

1・2章初校、凡例、後付）

令和2年11月20日（金）

審議事項『国士舘百年史』通史編（第3部第2章第3節、目次、口絵、後付）

令和2年12月4日（金）

審議事項『国士舘百年史』通史編（第1部第3章初校、第3部第2章第2節）

令和2年12月25日（金）

審議事項『国士舘百年史』通史編（第3部第3章第4節）

2　国士舘史資料室の活動

新型コロナウイルス（COVID-19）への対応

令和2年は、COVID-19の世界的大流行により、本学もまた当室においても、例年実施してきた活動が制限されることになった。4月7日に政府の緊急事態宣言が発出されたことを受けて、本学では翌8日から全て臨時閉鎖の対応を図り、全教職員は原則在宅勤務となった。大学・高等学校・中学校の授業は5月11日から遠隔授業を開始し、6月1日に一部閉鎖解除となって、当室でも室内での勤務を再開した。これ以降も入構制限は継続され、感染予防の観点から学内での各行事は相次いで中止となった。

この状況のなかで当室の活動は、特に教育普及の活動に大きな影響を受け、3月上旬から展示室・閲覧室を臨時閉室とし、また一部の企画展示は中止とした。また調査活動や資料整理の進捗にも影響を受けた。さらに継続中の百年史編纂事業についても大きな影響を受けたが、可能な限り『通史編』編集作業の円滑化を図って対応した。編纂委員会や専門委員会は対面での審議を原則実施できない状況であったため、電子メールや書類送付などによる書面審議をもって編集作業の進捗を図った。

1　調査・収集

(1) 主たる資料調査

令和2年1月から12月までに実施した資料調査並びに収集の主な活動は以下の通りである。

学内調査

(1)日本政教研究所関連資料、イラク古代文化研究所調査(於町田キャンパス12号館3階323室ほか)

日　時：令和2年7月2日

調査者：田中弘・熊本好宏・小林訓子・畠山典子

(2)経理課保管資料調査

日　時：令和2年10月6日

調査者：熊本好宏・小林訓子

学外調査

(1)上塚司関連資料調査（於恵比寿ほか）

日　時：令和2年6月18日、12月8日・17日

調査者：熊本好宏

(2)簡牛凡夫関連調査

日　時：令和2年7月1日

調査者：熊本好宏

(3)高木波次郎関連調査（福岡・柴田家）

日　時：令和2年11月11日

(2)オーラル調査

(1)アンケート調査

本年は関係者へのアンケート調査を実施しなかった。

(2)オーラル・ヒストリー調査

次の一名の関係者にオーラル・ヒストリー調査を実施した。

・武井重雄氏（元職員）

(3)主な寄贈資料

・大学職員組合関連資料一式

寄贈者：武井重雄氏（元職員）

・高拓生移住80周年記念式典映像資料一式

寄贈者：石塚幸寿氏

・講義ノートほか計29点

寄贈者：松本吉英氏（昭和59年3月体育学部卒）

・名誉教授（教養部）坂井正郎個人アルバム2点

寄贈者：坂井知志氏

・「昭和35年度大学入学案内」、関連雑誌・新聞記事ほか一式

寄贈者：寺島正芳氏

・「昭和47年度入学試験要項」ほか計5点

寄贈者：望月愉美子氏（元職員）

2　整理・保存

(1)　資料目録作成状況

本年（令和2年12月31日現在）の国士舘史資料室の所蔵資料、調査収集資料、参考図書等の目録（データベース）作成状況は別表の通りである。

(2)　資料電子化・保存処置

本年は、主に以下の資料について電子化及び修復・保存処置を専門業者に委託した。

・財務部資料経理元帳（昭和60年度～平成3年度）電子化
・上塚司音声資料電子化
・上塚司関連資料電子化
・松本吉英関連寄贈資料電子化
・旧制諸学校卒業アルバム写真切出整理

収蔵資料及び目録化の進捗状況

名称	内容	平成30年度目録化済	令和元（平成31）年度目録化済	令和2年度目録化済
法人記録史料	法人(教学を含む)組織が作成・発行したか、または外部機関より受領した文書	16,799	17,071	17,469
発行物	学内で刊行される出版物	8,840	9,112	9,136
写真・その他の映像・音声資料	国士舘に関わる写真その他の映像・音声資料	12,465	12,471	12,493
物品資料	国士舘に関わる物品資料	1,082	1,095	1,098
調査収集資料	学内外の関係資料所蔵機関への調査収集資料	5,795	5,878	5,921
参考図書	主に各関係機関が発行している出版物	1,920	2,019	2,079
合計		46,901	47,646	48,196

（令和２年 12 月 31 日現在）

3　利用・公開

(1) 収蔵資料の公開（収蔵資料検索システム運用状況）

国士舘史資料室は、収蔵資料利用者へのサービス強化のため、平成23年4月に閲覧室を整備し、また同時に、資料室ホームページ上で収蔵資料検索システムのＷＥＢ公開を開始している。収蔵資料検索システムを利用後に、資料閲覧のために来室する利用者も増加傾向にあったが、本年はＣＯＶＩＤ-19対策の観点から資料の閲覧サービスを停止した。

平成28年10月3日に学内教職員向けに公開した「国士舘アーカイブズ」は、令和2年12月現在、収蔵資料検索システムには２５９７２件、基礎年表検索システムには３５０８件、基礎データ集（略年表など）の内容であり、学内限定で利用できる。特に本年はＣＯＶＩＤ-19の影響のなかで、大学の遠隔授業への支援をはじめ学内教職員からのリファレンス対応に「国士舘アーカイブズ」が有効に活用された。

また本年は、平成26年度より進めていた各検索システムの多種ブラウザへの対応を終え、更に利便性を高めた。

(2) ホームページ（令和2年更新）

［お知らせ］

・梅ヶ丘校舎で「国士舘の歴史」展を開催（令和2年3月17日）

・『国士舘史研究年報　楓原』第11号を刊行しました（4月1日）

・新型コロナウイルス感染症防止のための臨時閉室について（4月1日更新）

・国士舘大講堂の一般公開（東京文化財ウィーク）の中止について（10月2日）

・梅ヶ丘校舎で「世田谷の今昔―国士舘ゆかりの地―」展を開催（10月27日）

［刊行物等］

・『国士舘史研究年報　楓原』第11号の全頁（ＰＤＦ）掲載（4月）

アドレス

http://www.kokushikan.ac.jp/research/archive/index.html

(3) 教育普及活動

(1) 常設展示

国士舘史資料室では、柴田会舘四階に展示室を設け、国士舘の歩みを示す関係資料を一般公開している。国士舘の創立者柴田徳次郎にゆかりの資料や、創立以来の支援者、各時代の学生生活に関する貴重な資料などを展示している。

なお、令和２年３月３日からＣＯＶＩＤ-19対応のため臨時閉室とした。（12月31日現在閉室）

開室日時　月曜～土曜10：00～16：00

（日曜祝祭日、学園の定める休日等を除く）

※観覧無料

令和２年１月～12月の観覧者数は、以下の通りである。

・学内者数　37名

学生・生徒　25名

教職員　12名

・学外者数　24名

卒業生　8名

一般　16名

・総観覧者数　61名

(2) 梅ヶ丘展示ルーム企画展（出張展示）

世田谷キャンパス34号館（梅ヶ丘校舎）一階の展示ルームにおいて、次の企画展を開催した。

・令和２年３月～10月「国士舘の歴史」展

・令和２年10月～令和３年１月「世田谷の今昔―国士舘ゆかりの地―」展

(3) イベント企画展（出張展示）

令和２年のオープンキャンパス及び父母懇談会は、ＣＯＶＩＤ-19対応のため中止となった。それに伴い、それらの行事にあわせて実施していた企画展も中止した。

(4) 創立記念展（出張展示）

令和２年の学園祭は、ＣＯＶＩＤ-19対応のため中止となった。それに伴い、国士舘大講堂（国登録有形文化財〈建造物〉）を会場に開催していた創立記念展（企画展）も中止した。

また、平成31年から大講堂の一般公開事業に参加してきた「東京文化財ウィーク２０２０」については、本年の参加を見送った。

(5)レファレンス（含資料閲覧）

令和2年1月～12月のレファレンスは、学内・学外合わせて48件であった。また、学外からの資料閲覧者は2名であった。

なお、令和2年3月3日より、COVID-19対応のため資料の閲覧は停止し、レファレンスのみ対応した。（12月31日現在継続中）

(6)講義等支援

平成21年4月の国士舘史資料室発足後、資料室を利用する講義支援等の依頼は、毎年増加傾向にある。特に、大学の政経学部で開講する初年次教育の関連ゼミでの支援依頼や、博物館学関連の講義支援については、毎年恒例となっている。昨年度に引き続き、政経学部開講の「フレッシュマン・ゼミナール」に加えて、本年度は経営学部開講の「フレッシュマンゼミナール」に設けられた自校史教育の全コマを担当し、同学部の1年生全員に向けた講義支援を実施した。

本年度は、COVID-19対応に伴って遠隔授業となったため、その支援にあたってはオンライン・ツールによる講義とせず、自校史教育用の映像教材等を作成するかたちを採った。これは当室の担当コマ以外でも教員が自由に参照・使用できるよう考慮したためで、パワーポイント・映像資料・レジュメなど複数に分けて教材を作成し、遠隔講義用のサーバにアップロードして担当コマや各学部に提供するものとした。このため教材の一部は、当室で直接的・間接的に支援した講義以外にも、各学部で有効に活用されることになった。

また、講義支援に留まらず、新採用教職員研修への支援なども随時実施した。主な講義等の支援（間接支援を含む）と担当者は、次の通りである。

・4月3日　新採用教員研修・大講堂見学対応（18名）（熊本好宏）

・4月6日　新採用職員研修・大講堂見学対応（13名）（熊本好宏）

・政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義）

（5月18日2限・的射場敬一ゼミ、5月20日5限・上村信幸ゼミ、5月21日2限・石山健一ゼミ・柴

田徳光ゼミ、５月21日５限・貫名貴洋ゼミ、５月22日５限・加藤将貴ゼミ、５月25日５限・北村仁代ゼミ、５月29日２限・三輪晋也ゼミ、６月１日５限・生方淳子ゼミ、６月５日５限・石見豊ゼミ、６月８日２限・助川成也ゼミ、６月10日２限・熊迫真一ゼミ、６月13日２限・川上有光ゼミ、６月18日５限・竹市勝ゼミ、６月19日２限・山田亮介ゼミ、６月29日５限・織田健志ゼミ、７月13日２限・関口博久ゼミ、７月15日５限・河田英介ゼミ、７月22日５限・石川欽也ゼミ、７月30日５限・板山真弓ゼミ）（熊本好宏）

・文学部教育学科教育学コース「教育学の基礎Ａ」講義支援（遠隔講義）

（５月28日２限、１年生合同）（熊本好宏）

・経営学部「フレッシュマンゼミナール」講義支援（遠隔講義）

（５月18日２限・顔菊馨ゼミ・島崎杉雄ゼミ、５月20日２限・豊田寿行ゼミ・小林崇秀ゼミ、５月21日２限・税所哲郎ゼミ・中野常男ゼミ、５月22日２限・三谷華代ゼミ・福永晶彦ゼミ）（熊本好宏）

（７）中学生の職場体験学習の受け入れ

本年はＣＯＶＩＤ-19の影響を受けて中学校から職場体験学習についての依頼がなかった。

４　室の構成

（１）職員（令和２年度）

室　長　　飯田　昭夫（理事・法学部教授）

事務長　　田中　弘

職　員　　熊本　好宏

準職員　　小林　訓子　　畠山　典子

菊池　義輝

（アルバイト学生：本年はＣＯＶＩＤ-19に伴い３月以降不在）

（２）施設の概要

所在地　〒154－0023

東京都世田谷区若林４－31－10

名　称　柴田会舘

構　造　鉄骨鉄筋コンクリート造、地下２階、地上４階

資料室施設面積

2階：舘史事務室21・1㎡、舘史研究室36・8㎡、第1史料収蔵庫63・8㎡、第2史料収蔵庫18・5㎡（平成23年3月設置）、第3史料収蔵庫16・2㎡（平成28年8月設置）、第4史料収蔵庫21・1㎡（平成28年8月設置）

4階：室長室13・7㎡、閲覧室13・7㎡、展示室119㎡

5　活動日誌

（令和2年1月～12月）

【1月】

24日　第93回国士舘百年史編纂委員会専門委員会開催

【3月】

3日　資料展示室・閲覧室の臨時閉室（COVID-19対応）をHP告知（～3月20日予定）

7日　第24回国士舘百年史編纂委員会開催

7日　第94回国士舘百年史編纂委員会専門委員会開催

11日　資料展示室・閲覧室の臨時閉室（COVID-19対応）HP告知（～4月23日予定）

17日　「国士舘史研究年報　楓原」第11号発行

【4月】

1日　畠山典子（準職員）、小林訓子（準職員）着任

1日　資料展示室・閲覧室の臨時閉室（COVID-19対応）HP告知（～当分の間）

3日　新採用教員研修・大講堂見学対応（18名）（熊本好宏）

6日　新採用職員研修・大講堂等見学対応（13名）（熊本好宏）

8日～5月31日　4月7日の政府の緊急事態宣言発出を受け、学園全体で臨時閉鎖（原則在宅勤務）措置、資料室も臨時閉室

【5月】

18日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義2限、1年生的射場敬一ゼミ）、経営学部「フレッシュマンゼミナール」講義支援（遠隔講義2限、1年生顔菊馨ゼミ・島崎杉雄ゼミ）（熊本好宏）

20日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義

支援（遠隔講義５限、１年生上村信幸ゼミ）、経営学部「フレッシュマンゼミナール」講義支援（遠隔講義２限、１年生豊田寿行ゼミ・小林崇秀ゼミ）（熊本好宏）

21日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義２限、１年生石山健一ゼミ・柴田徳光ゼミ、遠隔講義５限、貫名貴洋ゼミ）、経営学部「フレッシュマンゼミナール」講義支援（遠隔講義２限、１年生税所哲郎ゼミ・中野常男ゼミ）（熊本好宏）

22日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義５限、１年生加藤将貴ゼミ）、経営学部「フレッシュマンゼミナール」講義支援（遠隔講義２限、１年生三谷華代ゼミ・福永晶彦ゼミ）（熊本好宏）

25日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義５限、１年生北村仁代ゼミ）（熊本好宏）

28日　文学部教育学科教育学コース「教育学の基礎Ａ」講義支援（遠隔講義２限、１年生合同）（熊本好宏）

29日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義２限、１年生三輪晋也ゼミ）（熊本好宏）

【６月】

1日　緊急事態宣言解除（５月25日）を受け、学園閉鎖を一部解除（勤務時間短縮）措置、資料室での活動再開

1日～10月24日　企画展「国士舘の歴史」展を継続開催（於34号館Ｂ棟１階展示コーナー）

1日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義５限、１年生生方淳子ゼミ）（熊本好宏）

5日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義５限、１年生石見豊ゼミ）（熊本好宏）

8日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義２限、１年生助川成也ゼミ）（熊本好宏）

10日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義

支援（遠隔講義2限、1年生熊迫真一ゼミ）（熊本好宏）

11日　国士舘百年史編纂委員会専門委員会、資料送付等による書面審議を各委員へ通知（COVID-19対応）

13日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義2限、1年生川上有光ゼミ）（熊本好宏）

18日　上塚司関連資料調査（於恵比寿）（熊本好宏）

政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義5限、1年生竹市勝ゼミ）（熊本好宏）

19日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義2限、1年生山田亮介ゼミ）（熊本好宏）

23日　全国大学史資料協議会東日本部会2020年度総会参加（書面決議）

29日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義5限、1年生織田健志ゼミ）（熊本好宏）

【7月】

1日　簡牛凡夫関連調査（熊本好宏）

2日　日本政教研究所資料等調査（於町田キャンパス）（田中弘・熊本好宏・小林訓子・畠山典子）

3日　資料展示室の障子紙張替・修繕実施

13日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義2限、1年生関口博久ゼミ）（熊本好宏）

15日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義5限、1年生河田英介ゼミ）（熊本好宏）

22日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義5限、1年生石川欽也ゼミ）（熊本好宏）

30日　政経学部「フレッシュマン・ゼミナール」講義支援（遠隔講義5限、1年生板山真弓ゼミ）（熊本好宏）

【10月】

2日　創立記念展示及び国士舘大講堂の一般公開（東京文化財ウイーク）の開催中止（COVI

D-19対応）のＨＰ等告知

26日～1月29日　企画展「世田谷の今昔―国士舘ゆかりの地―」展開催（於34号館Ｂ棟1階展示コーナー）

【11月】

6日　大講堂調査（昭和女子大学4年生）対応

13日　高木波次郎関連資料調査（福岡・柴田家に照会）

【12月】

13日　上塚司関連資料調査（18日共・熊本好宏）

資料提供のお願い

国士舘史資料室では、国士舘史に関する資料や情報のご提供をお願いしております。例えば、学生時代の日記や手帳、当時の写真、講義ノートや実習用具など、資料がございましたら当方着払いにてお寄せください。

郵送先
〒一五四―八五一五
東京都世田谷区世田谷四―二八―一　柴田会舘二階
学校法人 国士舘　国士舘史資料室
TEL 〇三―三四一八―二六九一
Fax 〇三―三四一八―二六九四
E-mail archives@kokushikan.ac.jp

関係規程

国士舘百年史編纂委員会要綱

（趣旨）

第1条　学校法人国士舘（以下「本法人」という。）に、国士舘創設以来の歴史を記録する国士舘百年史（以下「百年史」という。）を編纂するため、国士舘百年史編纂委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（委員会の構成）

第2条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

(1)　理事のうちから、理事長の指名する者　若干人

(2)　国士舘大学専任教員のうちから、学長の指名する者　若干人

(3)　中学校・高等学校教員から、校長の指名する者　若干人

(4)　法人事務局長、国士舘史資料室長

(5)　学識経験者で、理事長が指名する者　若干人

2　委員は、理事長が委嘱する。

3　第1項第1号、第2号、第3号及び第5号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。第4号の委員は、職務在任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第3条　委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2　委員長及び副委員長は、理事長が指名する。

3　委員長は、委員会を統括する。

4　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

（顧問）

第4条　委員会に顧問を置くことができる。

2　顧問は、理事長が委嘱する。

3　顧問は、必要に応じ委員会に出席するものとする。

4　顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（委員会の任務）

第5条　委員会は、次の各号の事項を行う。

(1)　百年史の編纂方針に関すること

(2)　百年史の刊行に関すること

(3)　その他、百年史編纂に関すること

（委員会の運営）

第6条　委員長は、委員会を招集し、議長となる。

2　委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

3　委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決する。可否同数の場合は、委員長が決する。

4　委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させることができる。

（専門委員会の設置）

第7条　委員会に、専門委員会を置く。

（専門委員）

第8条　専門委員は、委員長の推薦により理事長が委嘱する。

2　専門委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（専門委員長及び副専門委員長）

第9条　専門委員会に、専門委員長及び副専門委員長を置く。

2　専門委員長は、委員会委員のうちから理事長が指名する。副専門委員長は、委員会委員のうちから専門委員長　が指名する。

3　専門委員長は、専門委員会を統括し、代表する。

4　副専門委員長は、専門委員長を補佐する。

（専門委員会の任務）

第10条　専門委員会の任務は、次の各号のとおりとする。

(1) 百年史の刊行計画案の作成
(2) 百年史の執筆・編集・校訂
(3) 資料の調査収集、その他百年史編纂に関すること

（専門委員会の運営）

第11条 専門委員長は、専門委員会を招集し、議長となる。

2 専門委員会は、必要に応じ、専門委員以外の者を出席させることができる。

（経費）

第12条 委員会及び専門委員会の経費は、国士舘史資料室の予算を充てる。

（委員会及び専門委員会の庶務）

第13条 委員会及び専門委員会の庶務は、国士舘史資料室が担当する。

（改廃手続）

第14条 この要綱の改廃は、理事長が決定する。

附　則

この要綱は、平成21年5月27日から施行する。

国士舘史資料室規程

（趣旨）

第1条　この規程は、国士舘史資料室（以下「資料室」という。）の組織及び運営について定める。

（目的）

第2条　資料室は、国士舘の歴史に関わる文献、文書及び物品等（以下「資料」という。）を収集・整理・保管し、将来に継承して、建学の精神の高揚と学園及びその教育・研究の進展等に資することを目的とする。

（資料室長）

第3条　資料室長は、理事会の議を経て理事長が委嘱する。

2　資料室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

（職員）

第4条　資料室に、必要な職員を置く。

（学術調査員）

第5条　資料室に、学術調査員を置くことができる。

2　学術調査員は、本学園の教職員のうちから資料室長が推薦し、理事長が委嘱する。

3　学術調査員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

4　学術調査員は、資料室長の指示を受け、次の調査研究等に従事する。

(1)　本学の理念及び本学史に関すること

(2)　資料の収集・整理・保管等に関すること

(3)　年史・資料集等に関すること

(4)　その他資料室に関わる学術的事項

（専門員）

第6条　資料室に、専門員を置くことができる。

2　専門員は、資料室長の指示を受け、次の業務に従事する。

(1)　資料の収集・整理・保管・展示及び情報収集

(2)　年史・資料集等の企画及び編纂

(3)　その他資料室に関わる専門的事項

3　専門員の任用期間は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

（収集資料）

第7条　資料室は、次の資料を収集する。

(1)　国士舘の建学の精神に関する資料

(2)　国士舘の発展の経緯に関する資料

(3)　国士舘が設置する諸学校に関する資料

(4)　国士舘の創立者及び先人に関する資料

(5)　その他国士舘に関する資料

（所蔵資料の開放）

第8条　資料室は、学園内外の希望者に所蔵資料を開放し、教育研究に資するとともに学園の歴史の紹介に努めるものとする。

2　資料室の開室及び所蔵資料の閲覧等の細部は、別に定める。

（資料の貸出し）

第9条　資料室の所蔵資料は、貸出しをしないものとする。ただし、教育研究及び学園の広報に役立つ等、特に必要性が認められた場合は、所定の手続を経て貸出しをすることができる。

（資料の管理）

第10条　資料室の資料及び物品の物品管理責任者は、資料室長とする。

附　則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

『国士舘史研究年報　楓原』執筆要項

国士舘史資料室では、『国士舘史研究年報　楓原』に掲載する、国士舘に関わる論文や国士舘在学中の思い出を綴った原稿などを募集します。執筆を希望される方は、必ず事前にお問い合わせください。

◇注意事項

・原稿は書き下ろしとし、他誌との二重投稿はご遠慮下さい。

・編集の都合上、原稿の修正や次号以降への掲載をお願いする場合、または掲載をお断りする場合もあります。

・原稿は、『国士舘史研究年報　楓原』および学校法人国士舘のウェブサイト（ＰＤＦ等）で公開されますが、これらの著作権はすべて学校法人国士舘に帰属します。

◇原稿について

・原稿はＡ４判（横長）、四〇字×三〇行、縦書きで提出してください。図表はこの限りではありません。

・原稿は四〇〇字詰原稿用紙に換算して、次の枚数を目安にしてください。（図表・図版・写真・註を含）

論　文	五〇枚程度
研究ノート	二〇～四〇枚程度
国士舘を支えた人々	五～七枚程度
国士舘の思い出	五～一〇枚程度

・写真・図版等で掲載・転載許可が必要な場合は、執筆者が許可を得てください。

・写真や表計算ソフト等で作成した図表は、別ファイルにして提出してください。

・ご提出いただいた原稿は返却いたしません。

・原稿締切　毎年九月末日頃（翌年三月刊行予定）

【お問い合わせ先】

学校法人国士舘　国士舘史資料室
〒１５４－８５１５
東京都世田谷区世田谷４－２８－１　柴田会舘２階
ＴＥＬ：０３－３４１８－２６９１
ＦＡＸ：０３－３４１８－２６９４
Email：archives@kokushikan.ac.jp

編集後記

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るうなか、『国士舘史研究年報　楓原』第12号を無事に刊行することができました。外出制限などの大変な状況のなか、本誌に玉稿をお寄せくださった皆様、またご執筆をご検討いただいた方々にも、厚く御礼を申し上げます。

本誌には、大民団と普通選挙についてまとめた大庭氏の論文のほか、「国士舘の思い出」を三本、ご寄稿いただきました。関口氏は建築学科の思い出と数多くの写真を、上野氏は創設時の高校電気科から大学工学部電気工学科へと進学したお話を、松本氏は国士舘で培った人間教育についてまとめられています。また、資料紹介では、法・文学部の設置認可申請書を取り上げました。

いまだ感染が収まらない状況ですが、今後とも、変わらぬご支援・ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

（畠山典子）

執筆者紹介（順不同）

大庭　裕介　国士舘大学、玉川大学・非常勤講師
上野　初夫　国士舘大学工学部卒業生
関口　正敏　国士舘大学工学部卒業生
松本　吉英　国士舘大学体育部卒業生

国士舘史研究年報　楓原　二〇二〇　第12号

令和3年3月12日発行
編集　国士舘百年史編纂委員会専門委員会
　　国士舘史資料室
発行　学校法人国士舘
〒一五四―八五一五
東京都世田谷区世田谷四―二八―一
TEL　〇三―三四一八―二六九一
FAX　〇三―三四一八―二六九四
E-mail　archives@kokushikan.ac.jp
印刷　河北印刷株式会社

ISSN 1884-9334